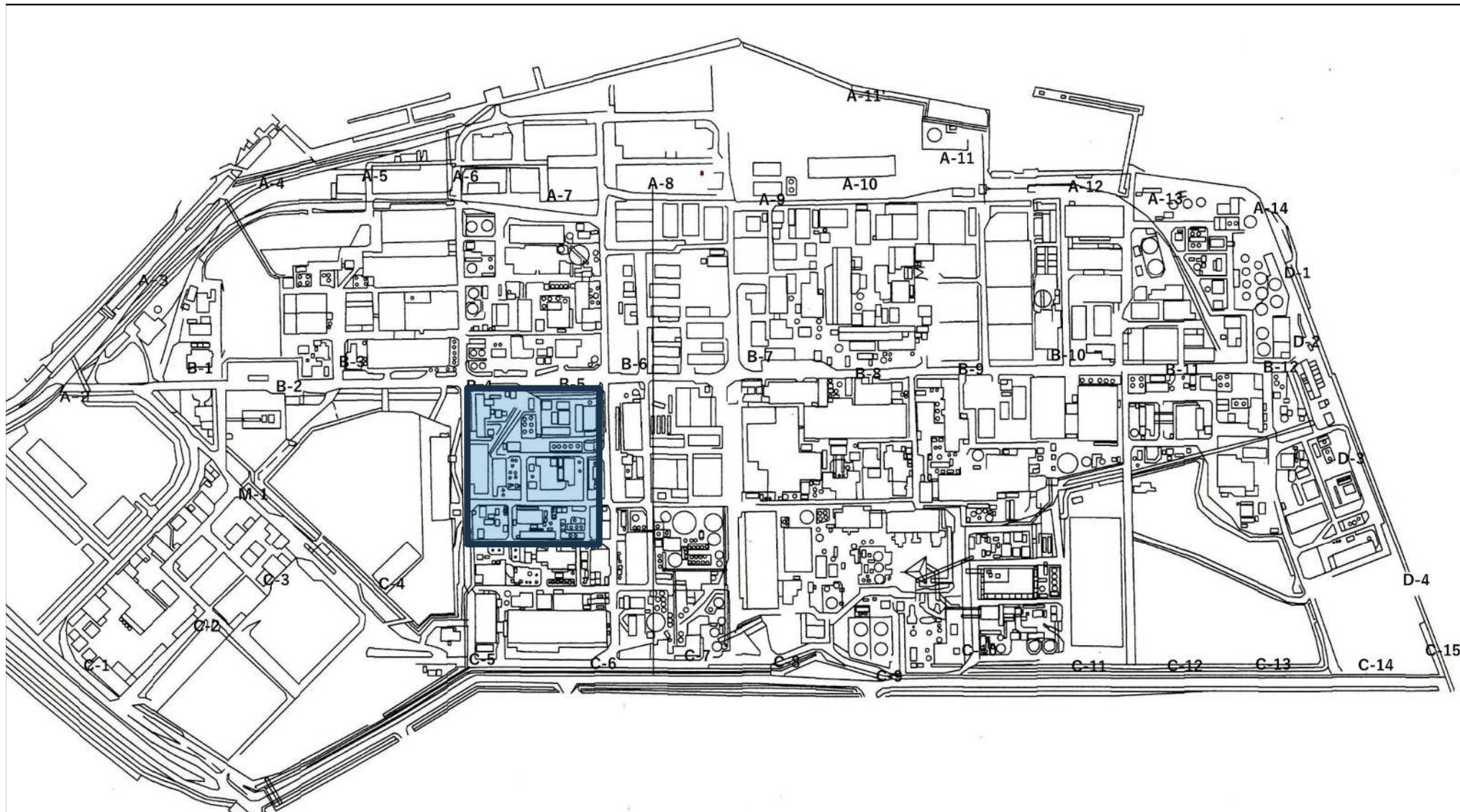


南東域 これまでの経緯の概要

R6.8

第1回 環境モニタリング委員会

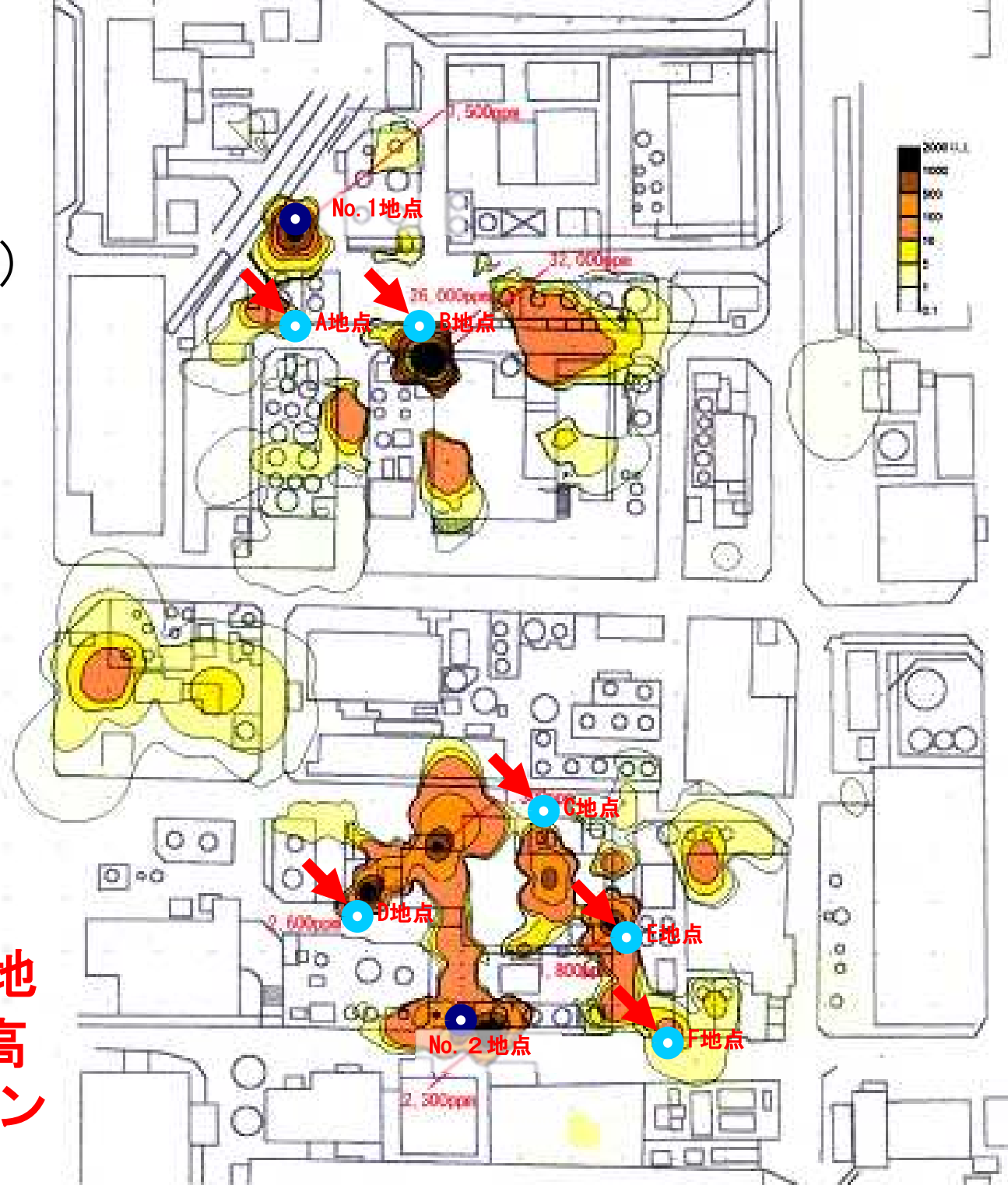
BS(バイオサイエンス)工場



H18年度(2006) 土壌ガス調査 実施

ジクロロメタン 土壌ガスコンター

BS工場内の多くの地
点にて、土壌中に高
濃度のジクロロメタン
(ガス濃度)が検出

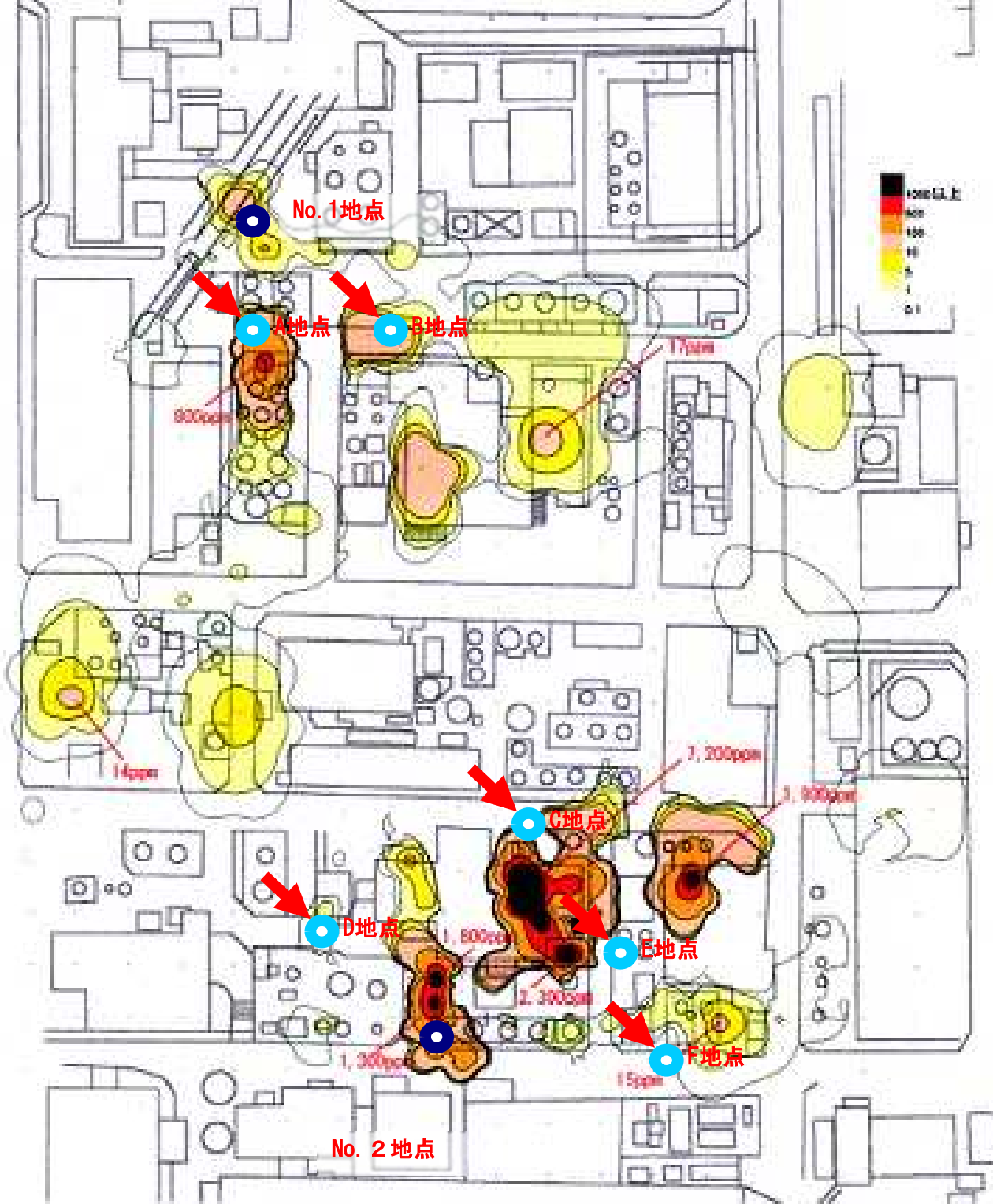


H18年度(2006)

土壌ガス調査 実施

1,2-ジクロロエタン
土壌ガスコンター

BS工場内の多くの
地点にて、土壌中
に高濃度のジクロ
ロメタン
(ガス濃度)が検出



宙水 地下水濃度 ジクロロメタン H21年度実施

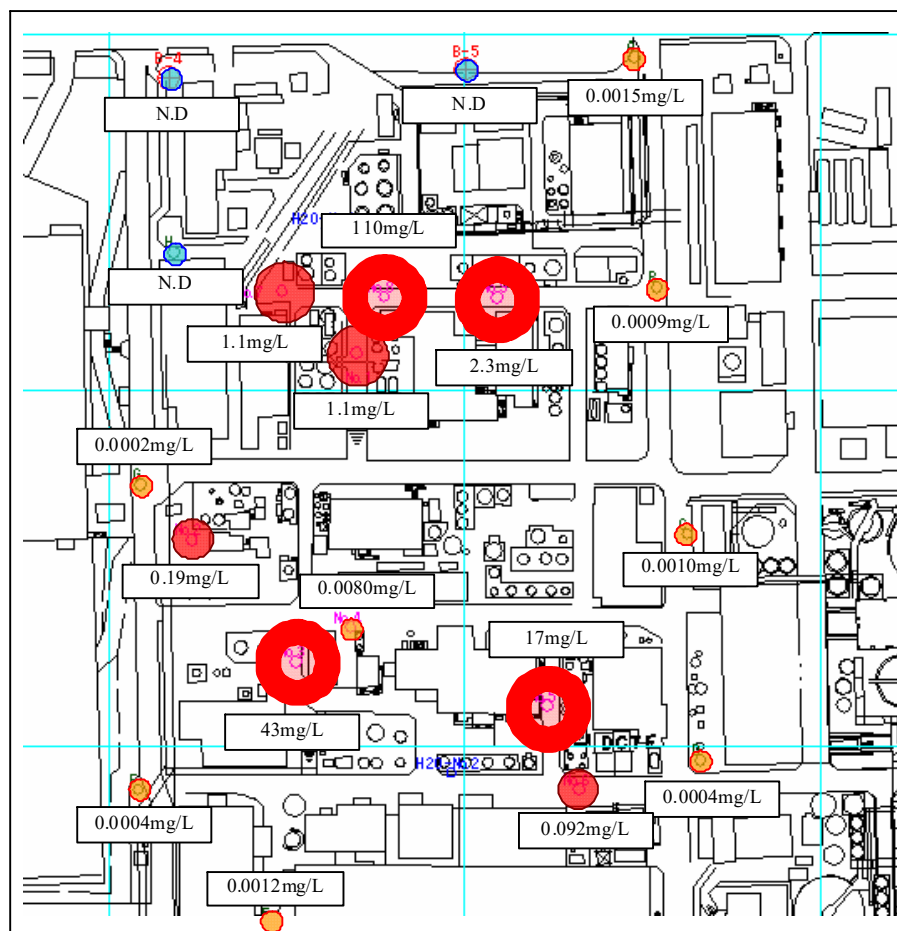
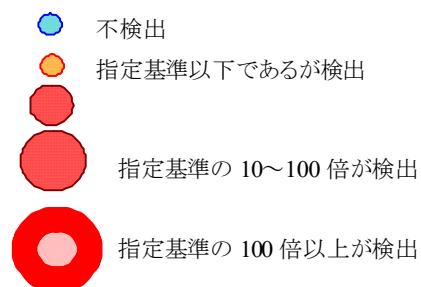


図-3-13(1) 地下水「ジクロロメタン」 検出地点 地下水基準 : 0.02mg/L



ジクロロメタン
 高濃度検出地点
 (宙水中)

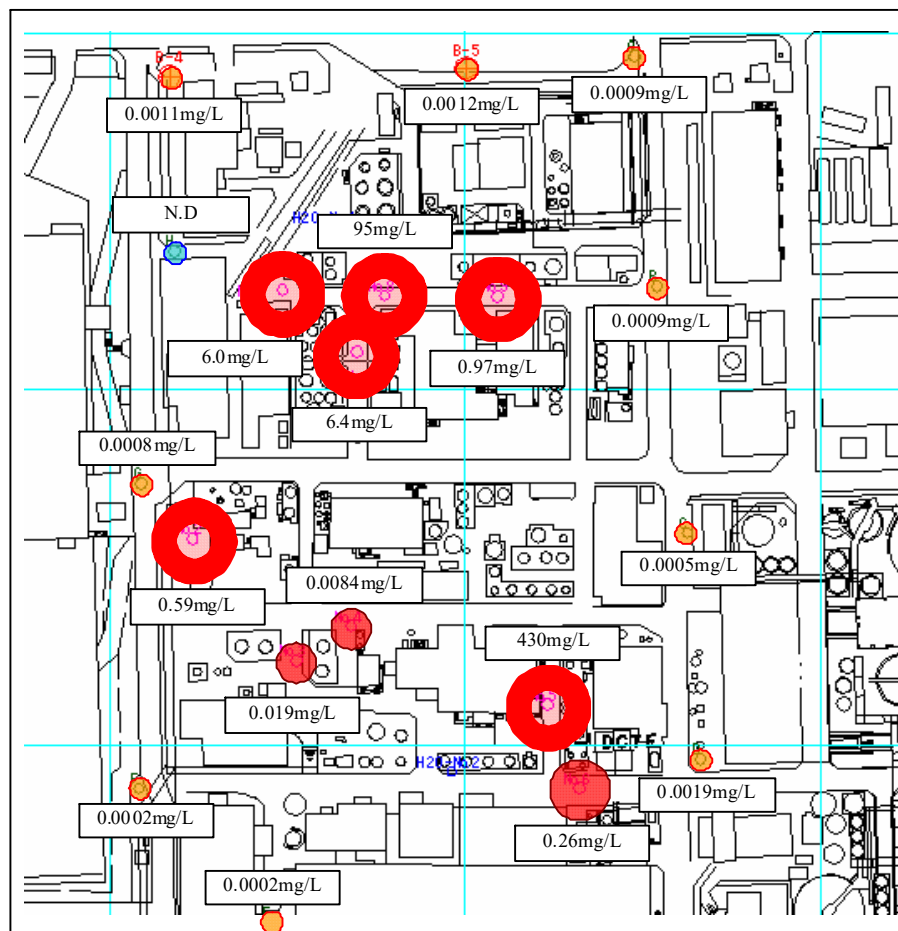
No.3 : 43mg/L

No.5 : 17mg/L

No.8 : 110mg/L

No.9 : 2.3mg/L

宙水
 地下水濃度
 1,2-ジクロロエタン
 H21年度実施



1,2-ジクロロエタン
 高濃度検出地点
 (宙水中)

No.1 : 6.4mg/L

No.2 : 0.59mg/L

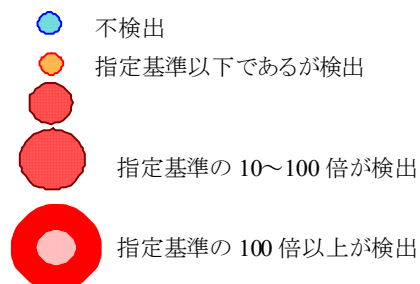
No.5 : 430mg/L

No.7 : 6.0mg/L

No.8 : 95mg/L

No.9 : 0.97mg/L

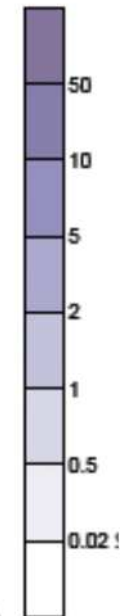
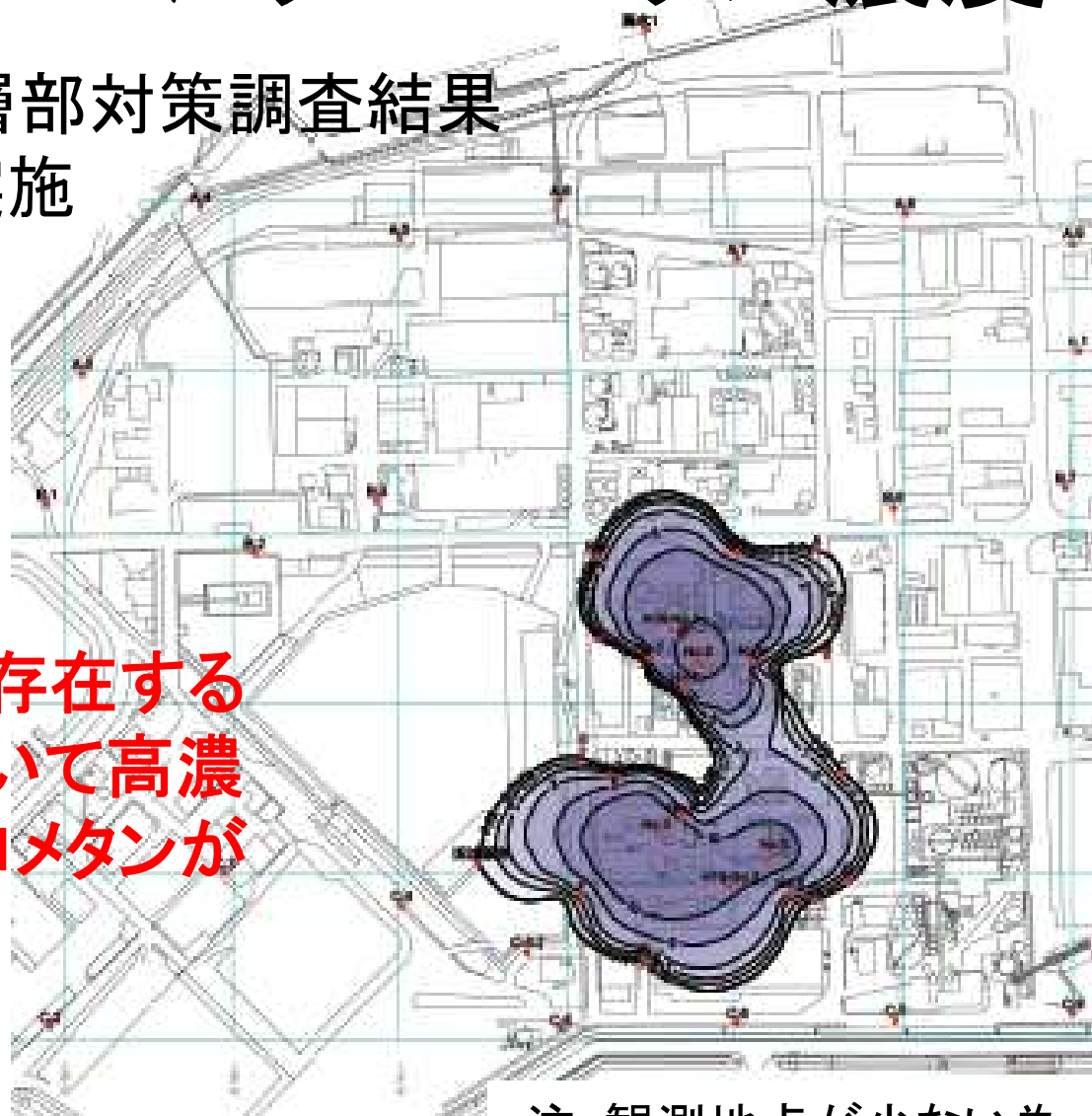
図-3-13(2) 地下水「1,2-ジクロロエタン」 検出地点 地下水基準 : 0.004mg/L



宙水中 地下水濃度 ジクロロメタン濃度

BS工場内表層部対策調査結果
H21年度実施

地下浅部に存在する
宙水中において高濃
度のジクロロメタンが
検出される。

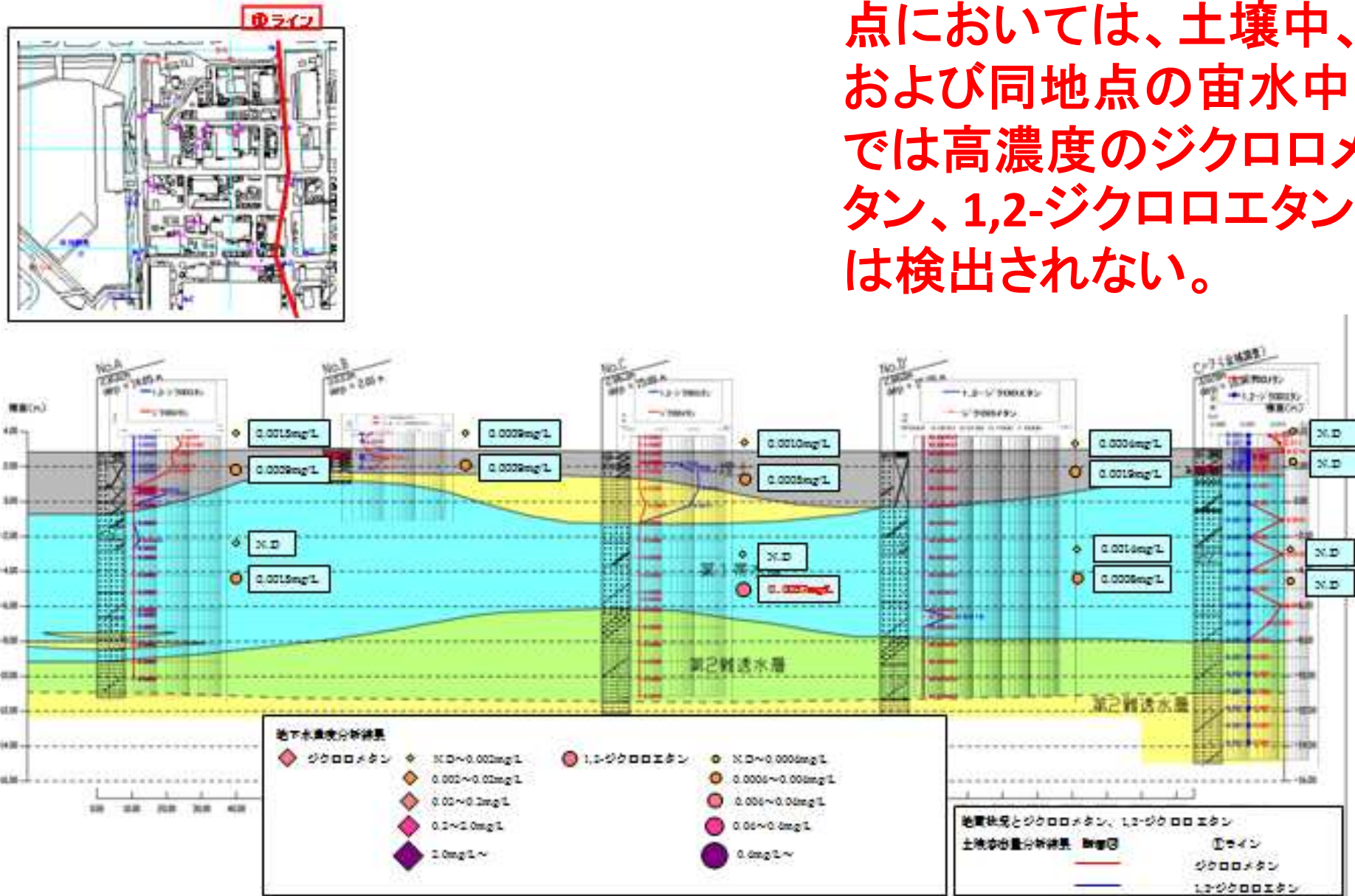


注：観測地点が少ない為、図上の濃度分布と実際の濃度分布は大きく異なることも考察される。



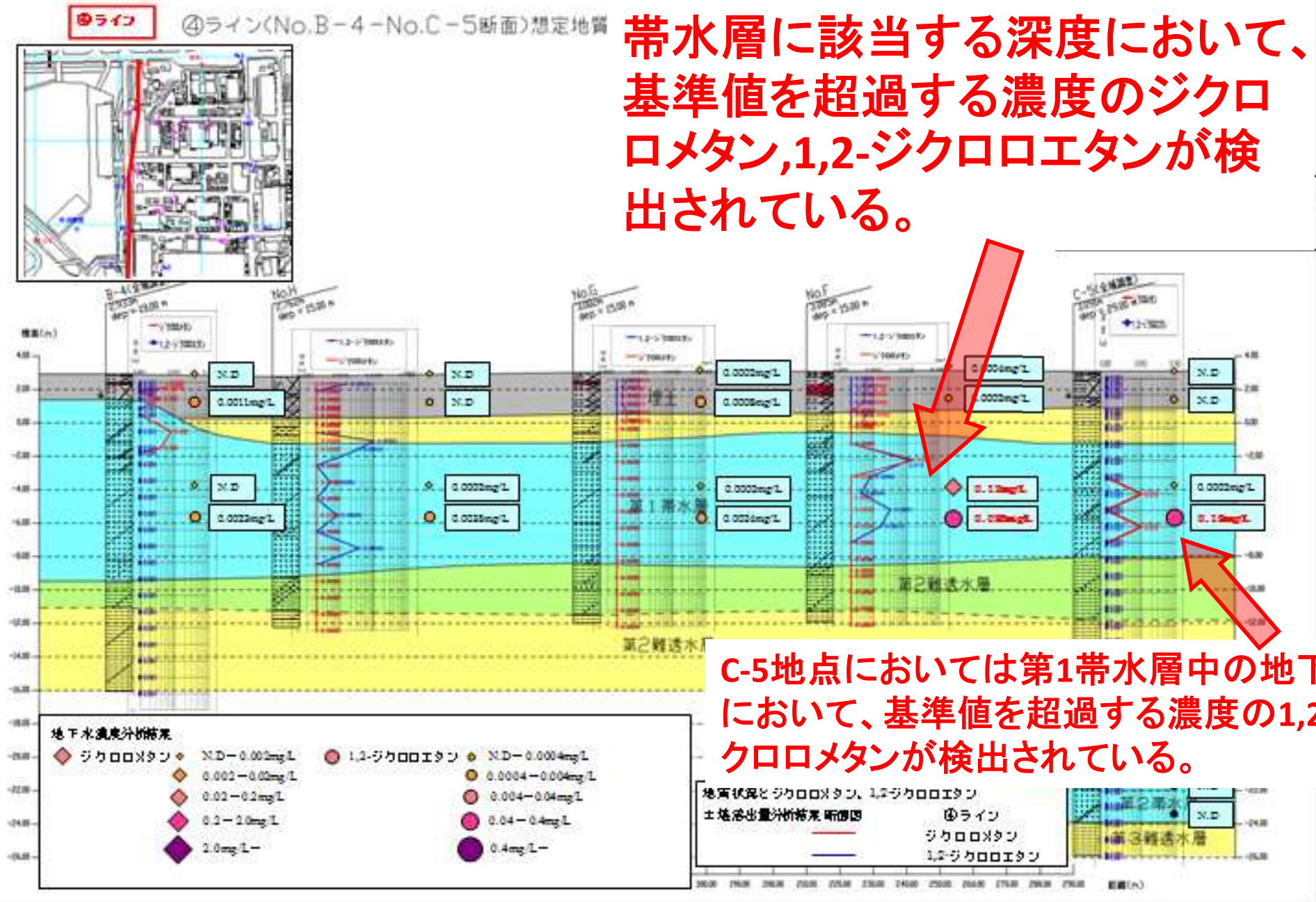
BS工場北側境界の
No.A,No.B,No.C,No.D地
点においては、土壤中、
および同地点の宙水中
では高濃度のジクロロメ
タン、1,2-ジクロロエタン
は検出されない。

①ライン(No.A-No.C-7断面)想定地質断面図 縮尺:1:1,000
SW:1:200

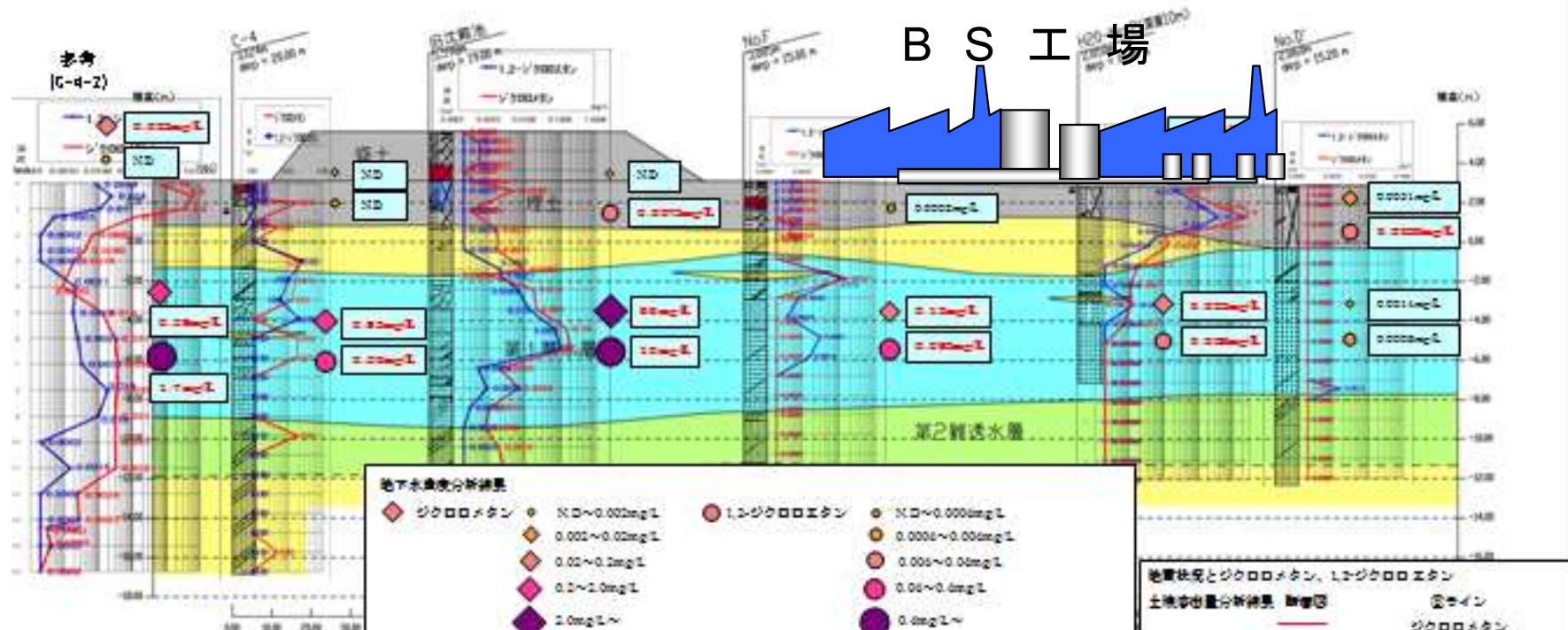
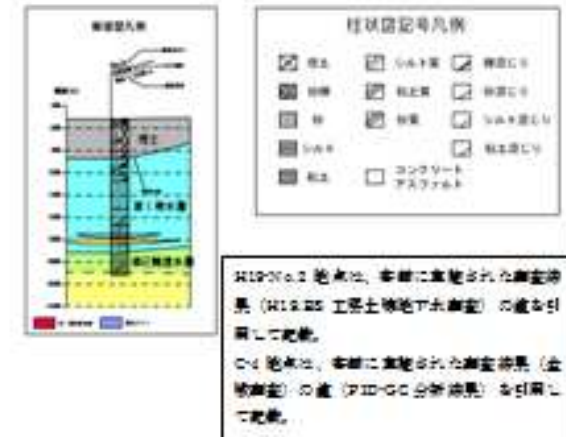


BS工場南側境界.

No.F地点において土壤中の第1帯水層に該当する深度において、基準値を超過する濃度のジクロロロメタン,1,2-ジクロロエタンが検出されている。

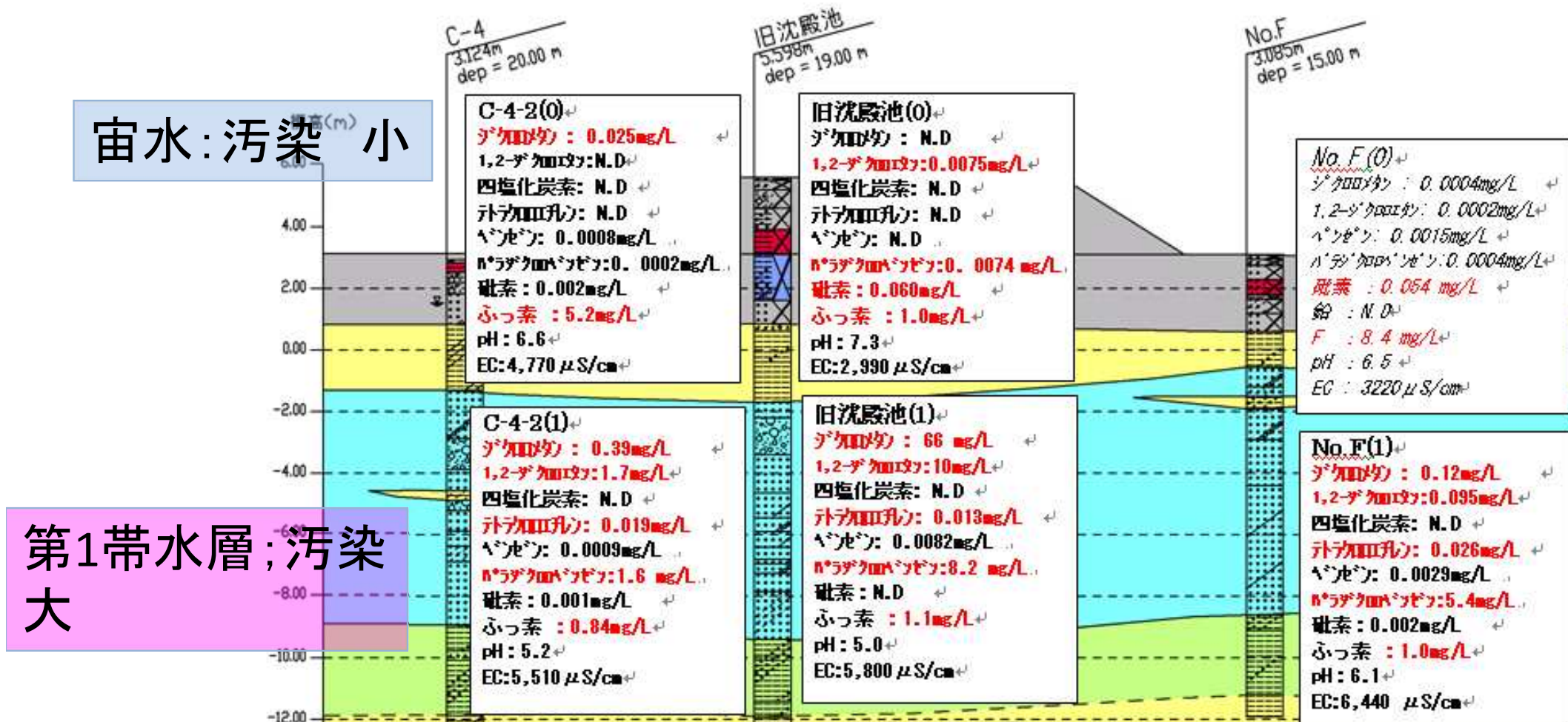


C-5地点においては第1帯水層中の地下水において、基準値を超過する濃度の1,2-ジクロロメタンが検出されている。



BS工場から旧沈殿池に至る断面図。C-4,旧沈殿池地点の第1帯水層において高濃度のジクロロメタン、1,2ジクロロエタンが検出されているが、BS工場内においては検出されていない。汚染の拡散経路が不明。

<削除予定> C-4地点,旧沈殿池地点 地下水汚染状況

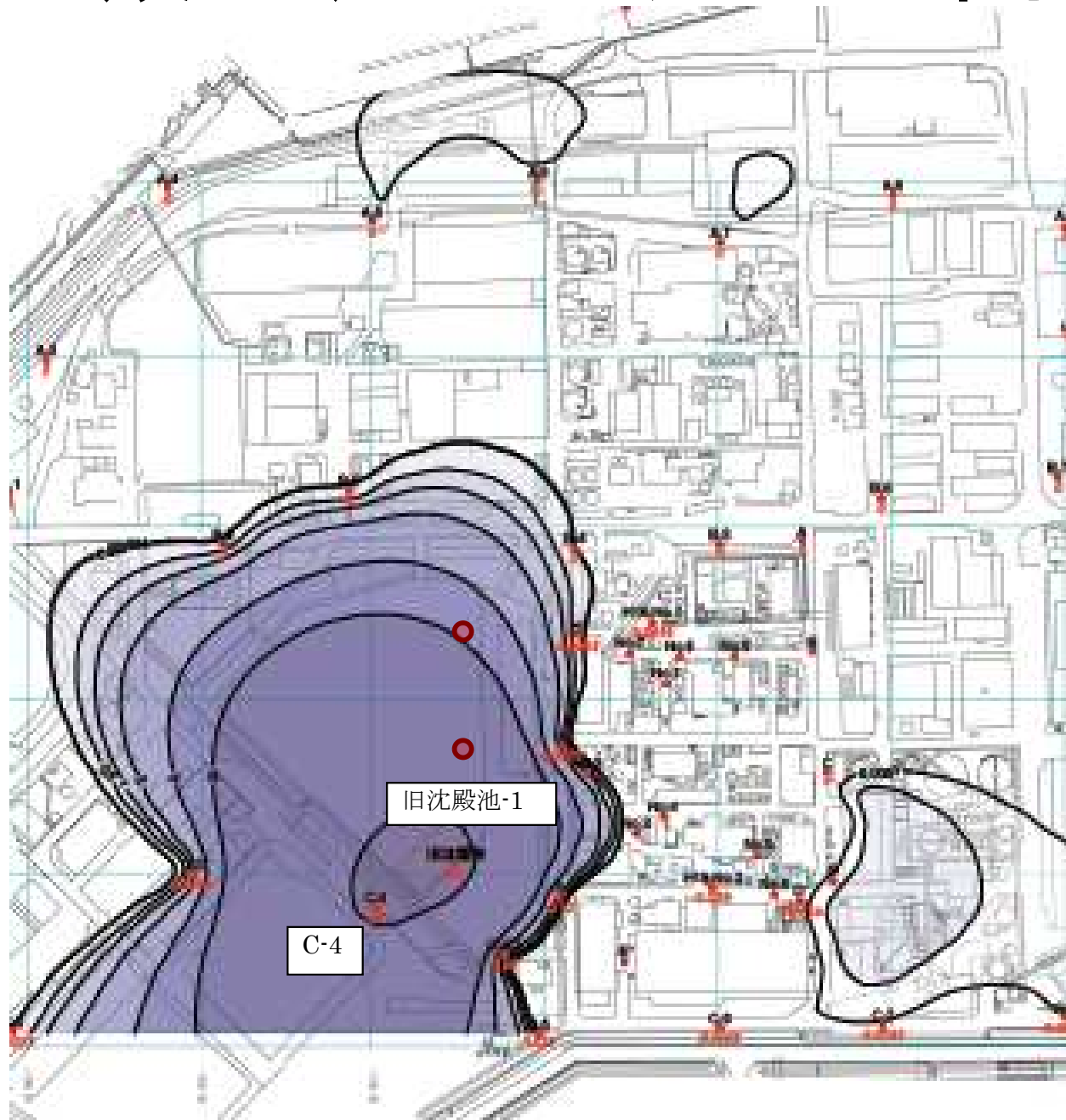


C-4地点,旧沈殿池地点; 第1帯水層中において高濃度のジクロロメタン、1,2ジクロロエタンが検出される。

周辺地域からの地下水流動に伴う移動・拡散によって、汚染が生じているものと推定。

第一帯水層

旧沈殿池、C-4地点にて高濃度



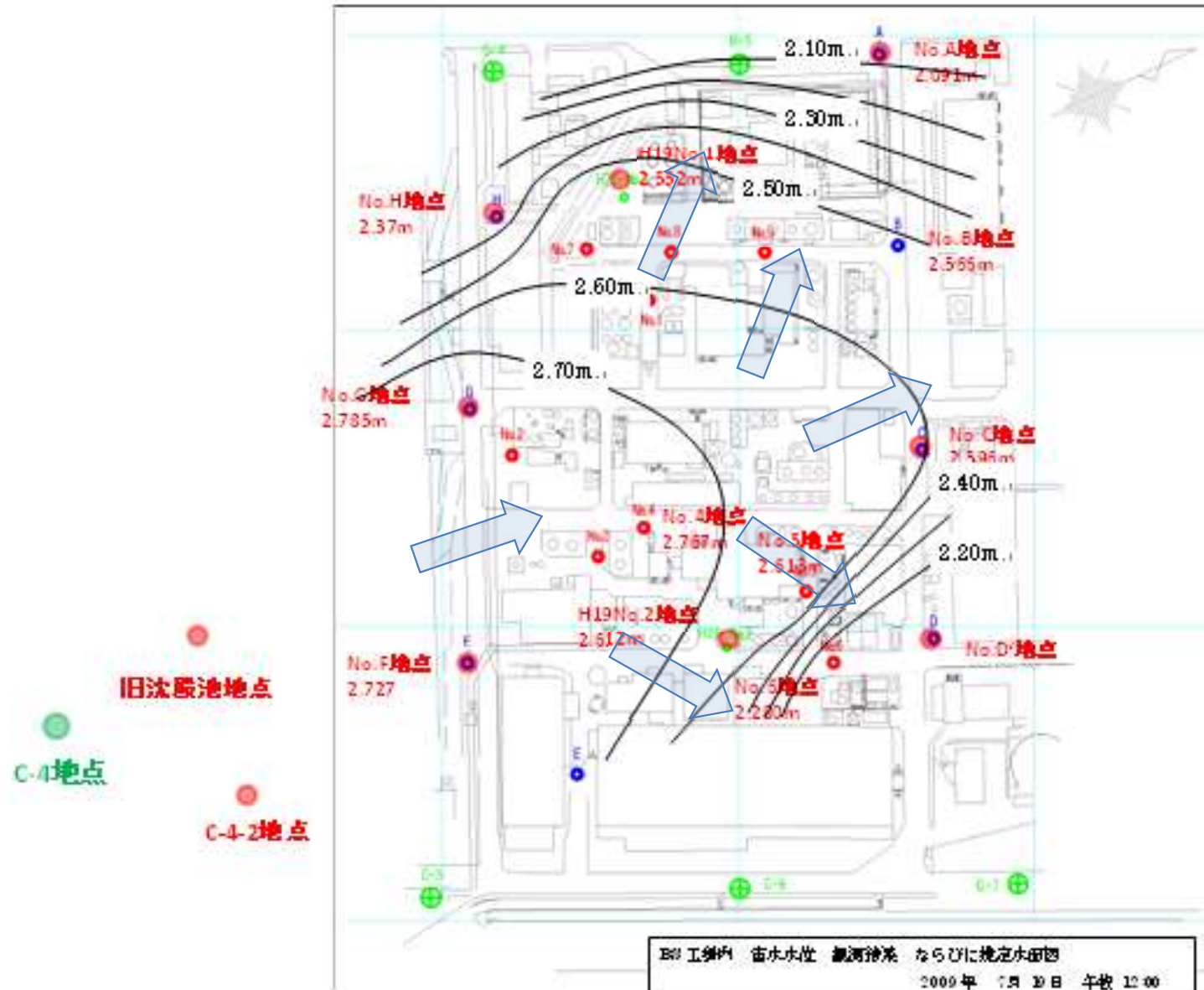
BS工場およびその周辺部の 地下水流動方向について

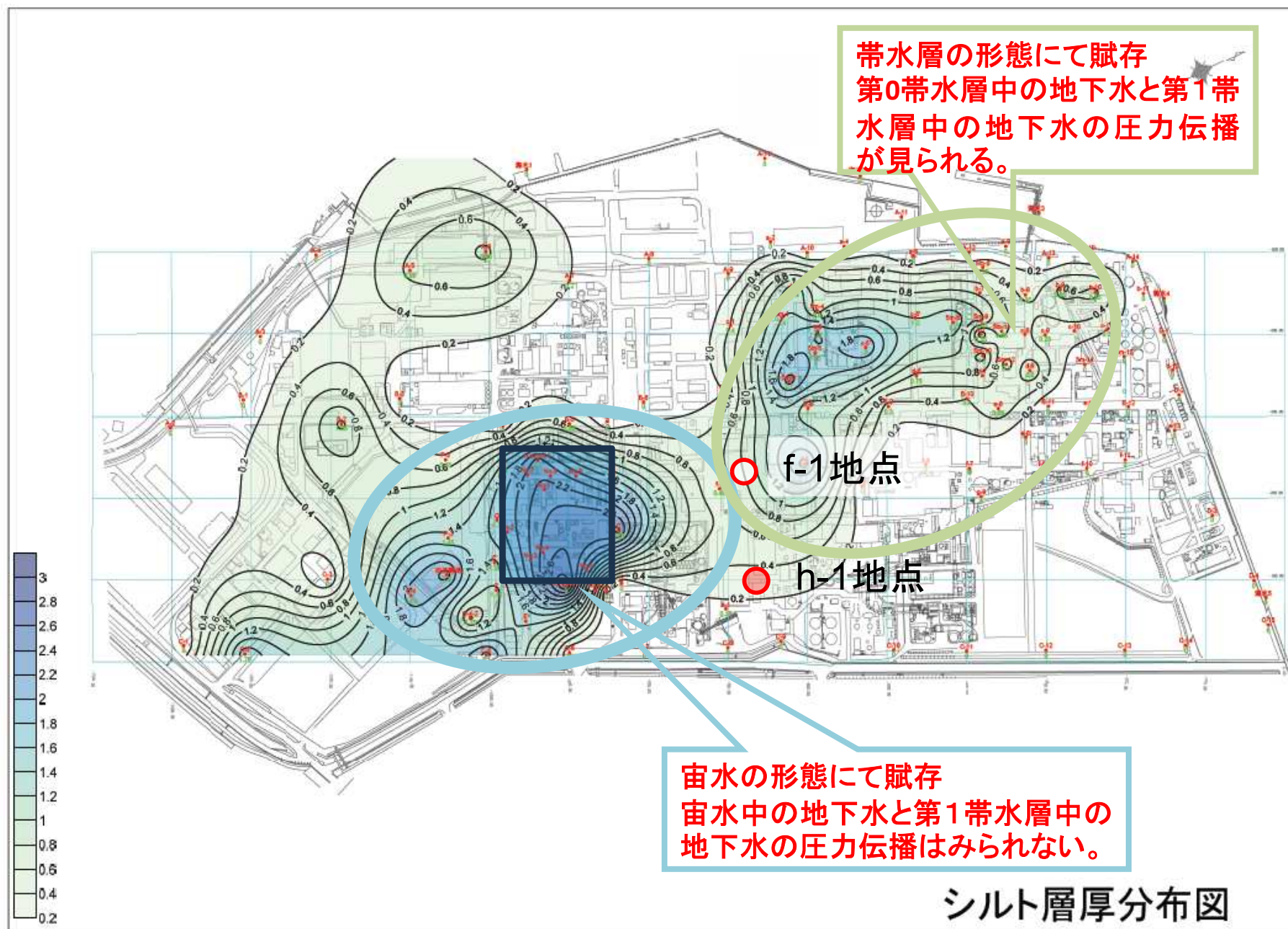
宙水地下水位測定結果

地点名	地点標高	管頭標高	掘削深度	無孔管	有孔管	有孔管	泥溜	水位計 測水 (GL-m)	水位 (m)	計測時刻2/4	湛水深 (m)
No.1	4.161	4.106	4.5m	0.0m～-0.7m	-0.7m～-3.5m	-3.5	-3.5m～-3.7m	-1.319	2.787	9:43	2.18
No.2	3.164	3.080	4.0m	0.0m～-0.7m	-0.7m～-3.4m	-3.4	-3.4m～-3.8m	-0.325	2.755	9:36	3.08
No.3	3.077	2.844	3.0m	0.0m～-0.7m	-0.7m～-2.5m	-2.5	-2.5m～-2.8m	-0.150	2.734	9:30	2.35
No.4	2.974	2.911	3.0m	0.0m～-0.4m	-0.4m～-1.8m	-1.8	-1.8m～2.0m	-0.150	2.761	9:32	1.65
No.5	2.890	2.762	3.0m	0.0m～-0.5m	-0.5m～-2.2m	-2.2	-2.2m～-2.3m	-0.280	2.482	9:35	1.92
No.6	2.808	2.742	3.3m	0.0m～-0.5m	-0.5m～-2.5m	-2.5	-2.5m～-2.6m	-0.520	2.222	9:36	1.98
No.7	4.255	4.098	3.5m	0.0m～-0.5m	-0.5m～-2.5m	-2.5	—	-1.140	2.958	9:43	1.36
No.8	4.164	4.073	4.0m	0.0m～-0.5m	-0.5m～-3.2m	-3.2	—	-1.134	2.939	9:30	2.07
No.9	4.205	4.099	3.8m	0.0m～-0.5m	-0.5m～3.0m	-3	—	-1.172	2.927	9:32	1.83
No.A	2.824	2.777	3.5m	0.0m～-0.5m	-0.5m～3.0m	-3	—	-0.751	2.206	9:37	2.25
No.B	3.153	3.033	2.0m	0.0m～-0.5m	-0.5m～-1.5m	-1.5	—	-0.508	2.525	9:39	0.99
No.C	2.903	2.776	2.0m	0.0m～-0.5m	-0.5m～-1.6m	-1.6	—	-0.191	2.585	9:41	1.41
No.D	2.933	2.902	5.0m	0.0m～-0.5m	-0.5m～-5.0m	-5	—	-1.387	1.515	9:43	3.61
No.E	2.895	2.868	2.5m	0.0m～-0.5m	-0.5m～-2.0m	-2	—	-0.675	2.193	9:30	1.33
No.F	3.045	2.993	2.8m	0.0m～-0.5m	-0.5m～-2.2m	-2.2	—	-0.305	2.688	9:32	1.90
No.G	2.962	2.931	2.5m	0.0m～-0.5m	-0.5m～-1.9m	-1.9	—	-0.165	2.766	9:35	1.74
No.H	2.779	2.648	3.0m	0.0m～-1.8m	-1.8m～-2.5m	-2.5	-2.5m～-3.0m	-0.170	2.478	9:40	2.33

BS工場内 宙水水位 観測結果 ならびに推定水面図

2009年7月19日 測定結果より作図





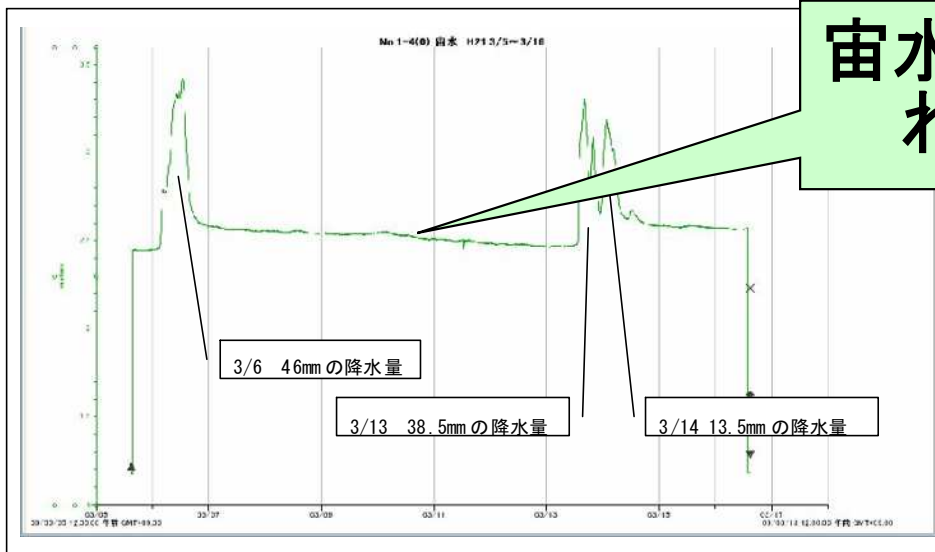
帯水層の形態にて賦存
第0帯水層中の地下水と第1帯
水層中の地下水の圧力伝播
が見られる。

f-1地点

h-1地点

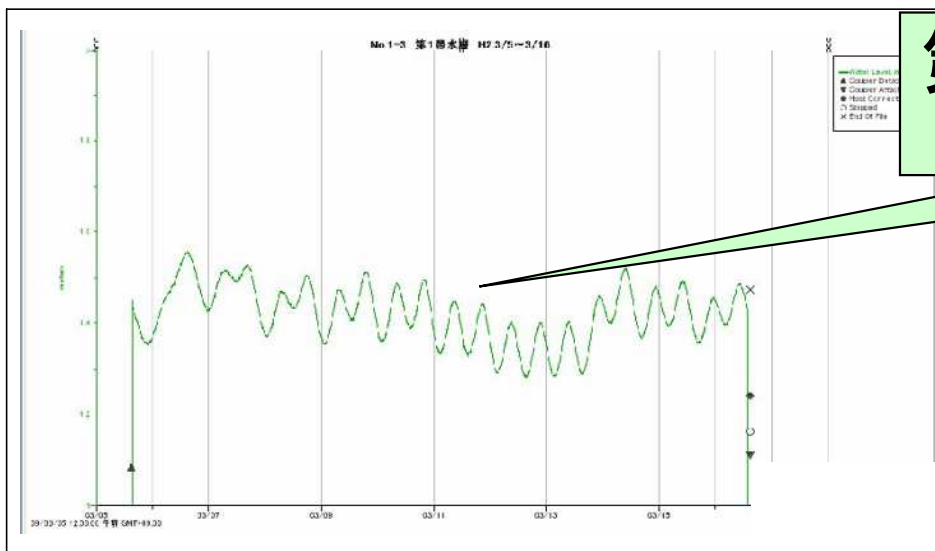
宙水の形態にて賦存
宙水中の地下水と第1帯水層中の
地下水の圧力伝播はみられない。

シルト層厚分布図



宙水：潮汐に伴う変動がみられない

図-3-4 H19. No. 1 地点 宙水の水位変動結果 H21. 3/5~3/16

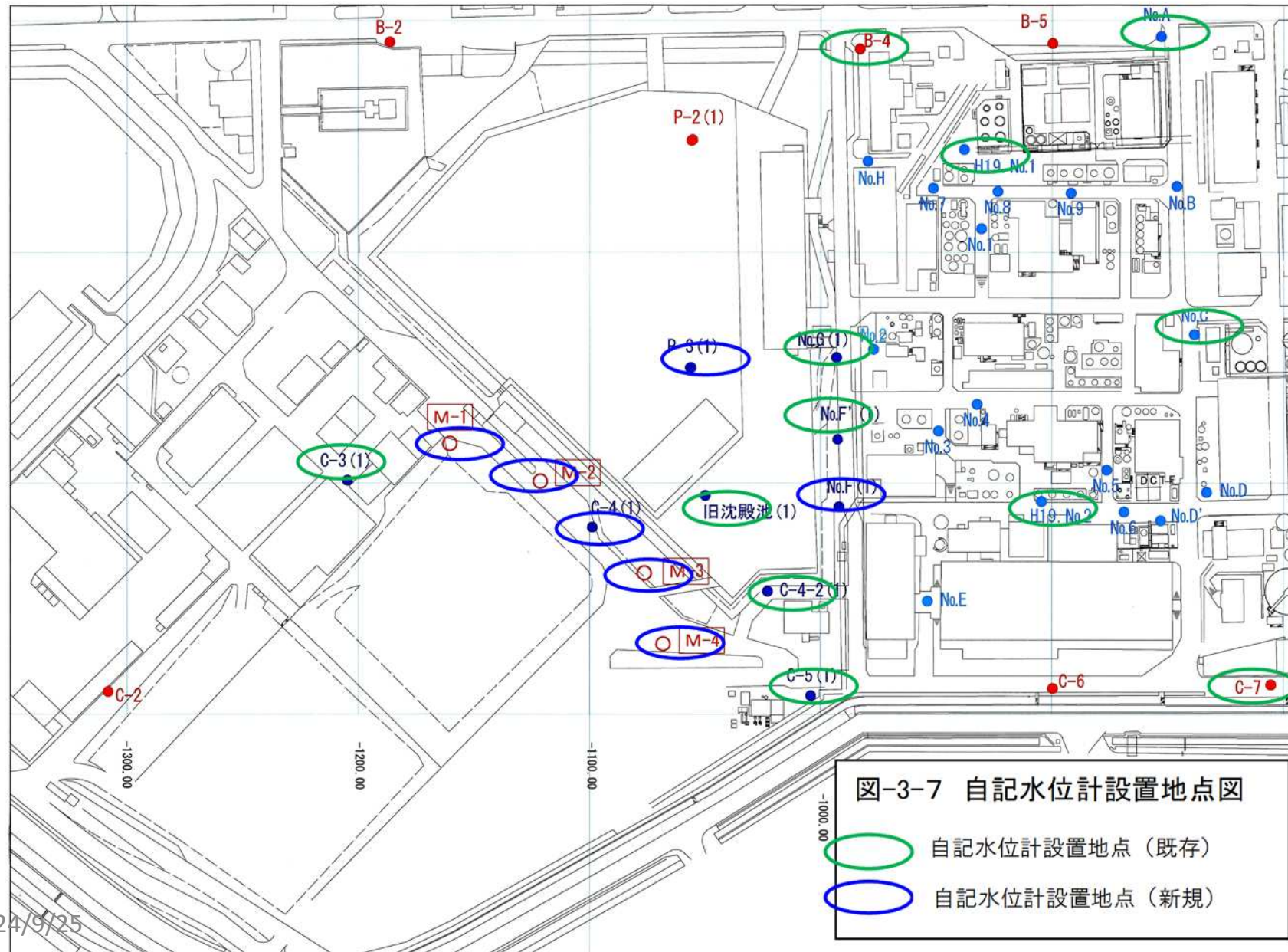


第1帯水層：潮汐に伴う変動がみられる

図-3-5 H19. No. 1 地点 第1帯水層の水位変動線

参考：BSサイト
H19.No.1における
地下水位の変動状況

第1帯水層地下水流動方向の考察



地下水流動方向の考察

BS工場周辺 第1帯水層水位 潮汐の影響

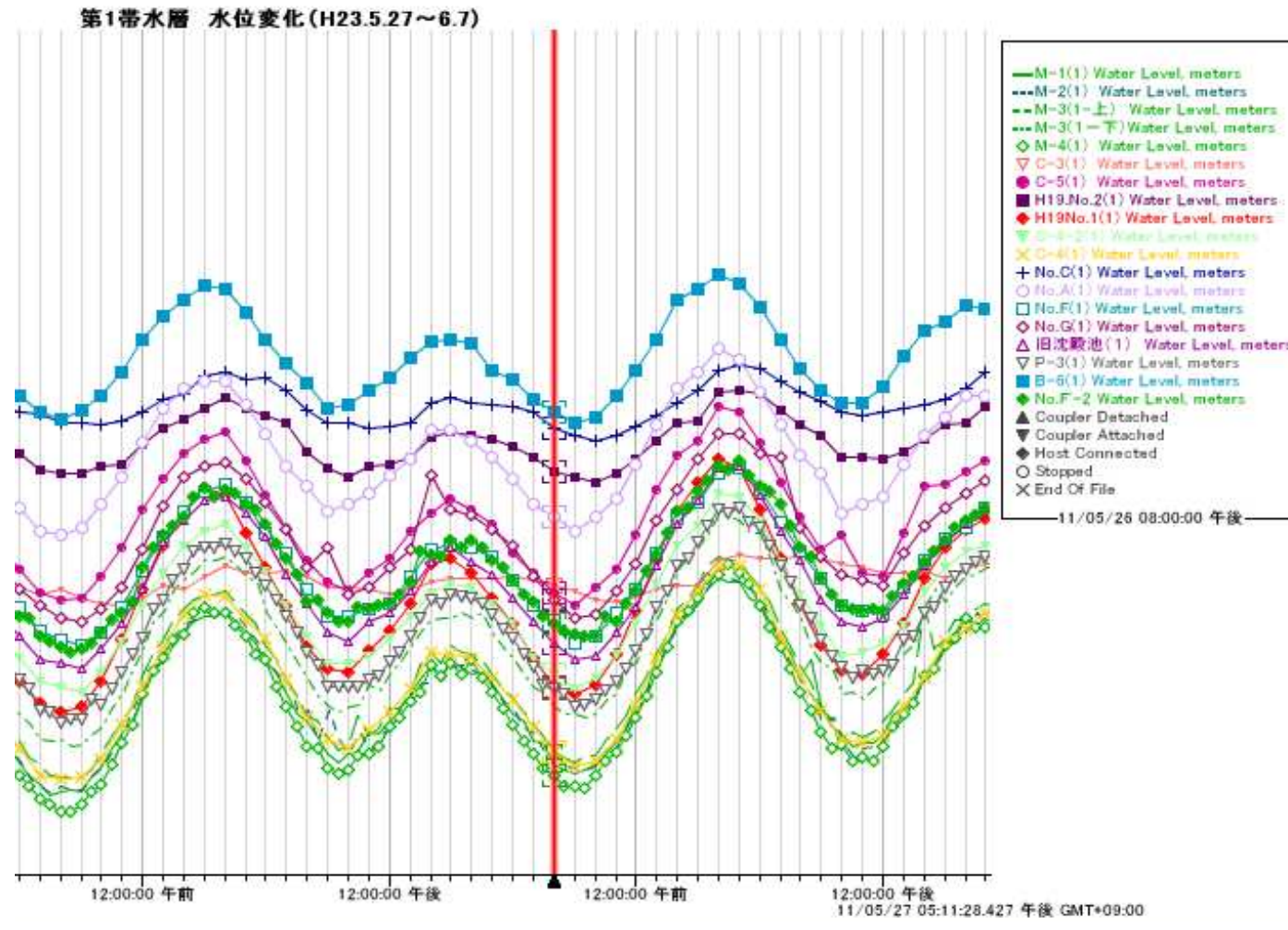
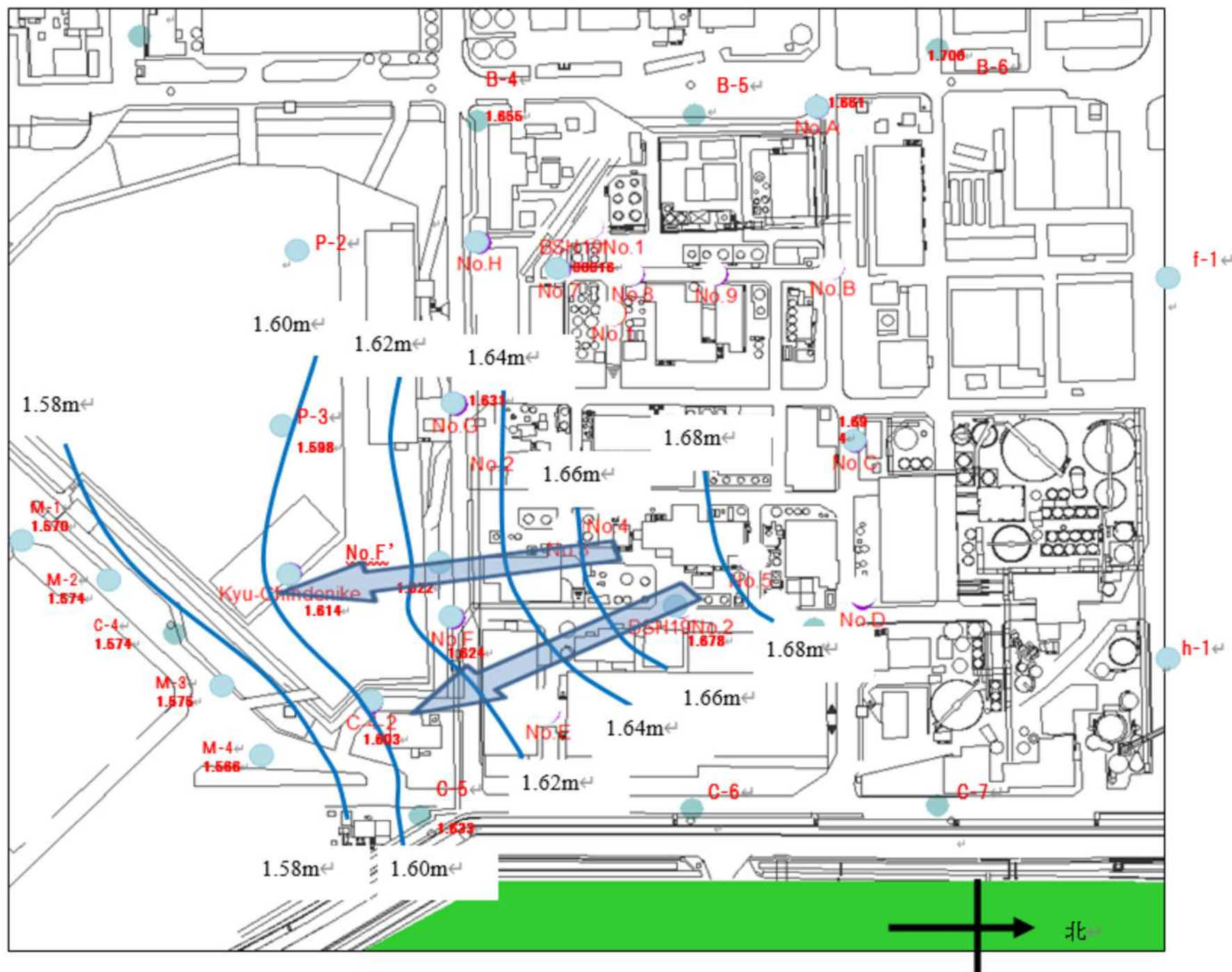


図-3-8(2) 地下水位時間変動 一部拡大
(H23.5/25~5/27)



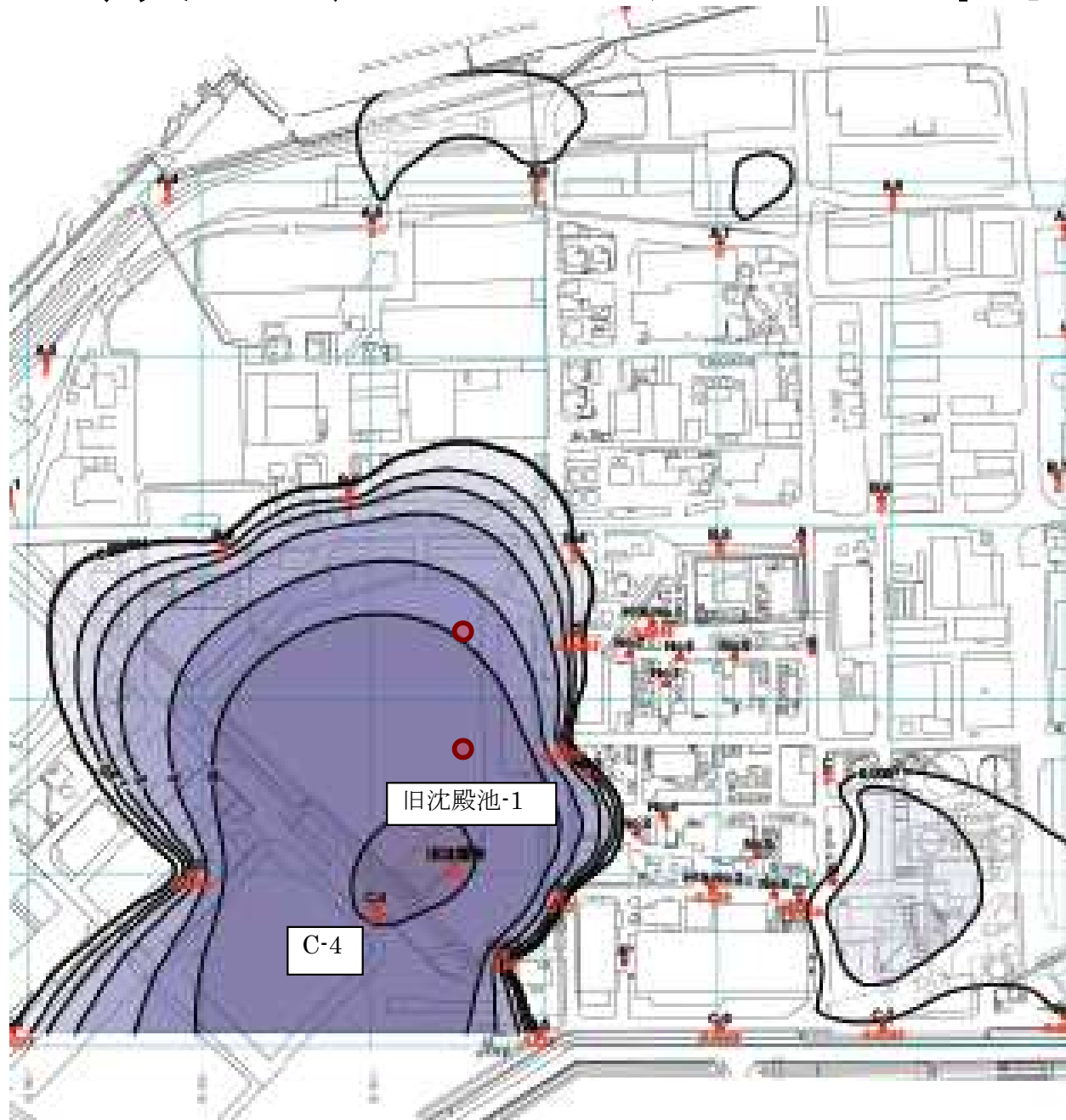
地下水位等高線図、推定地下水流動方向（H23.5/25～5/27）

2024/9/25

図-3-9 地下水位 および地下水位等高線図（第1帯水層 H23.5/26 PM 8:00）

第一帯水層

旧沈殿池、C-4地点にて高濃度

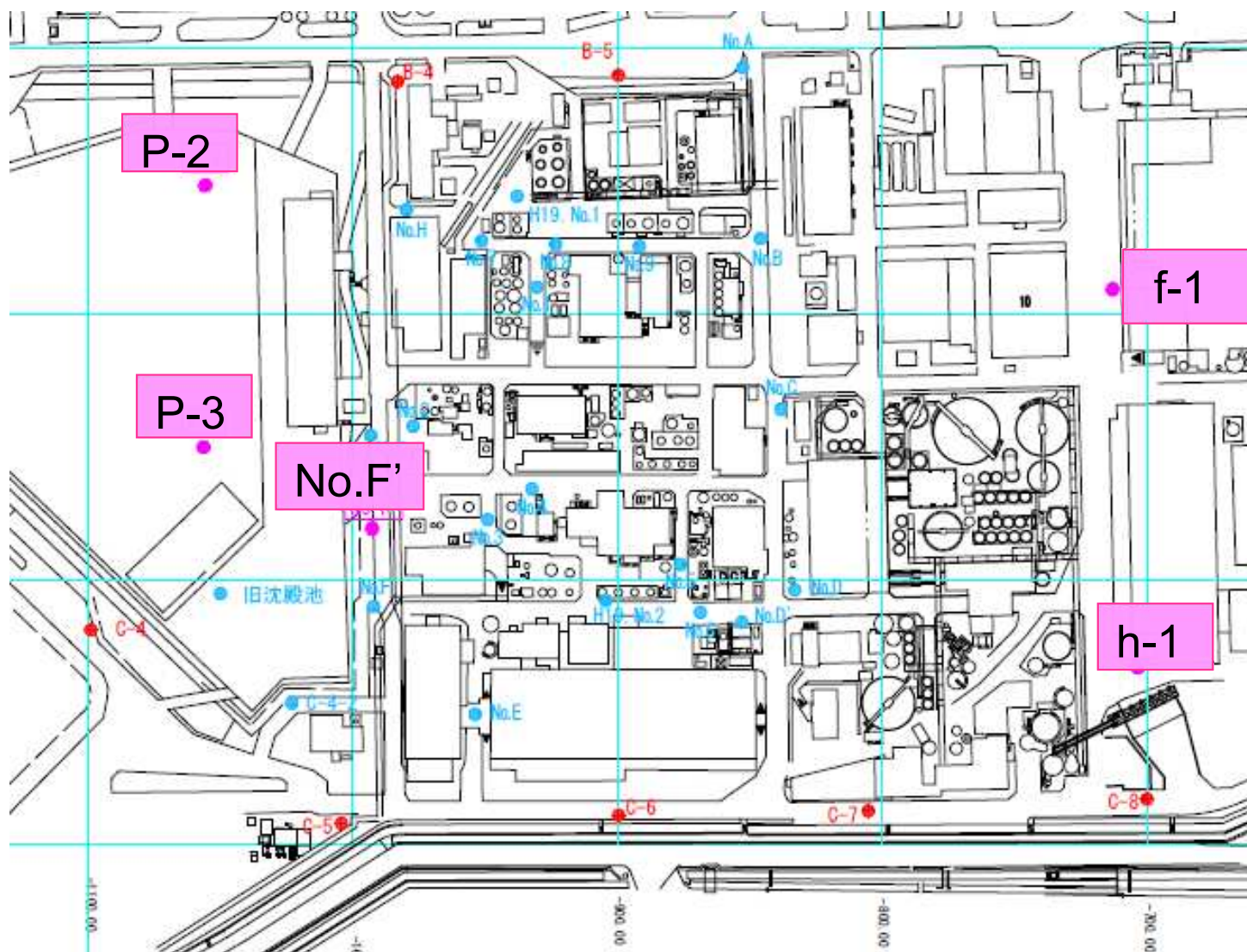




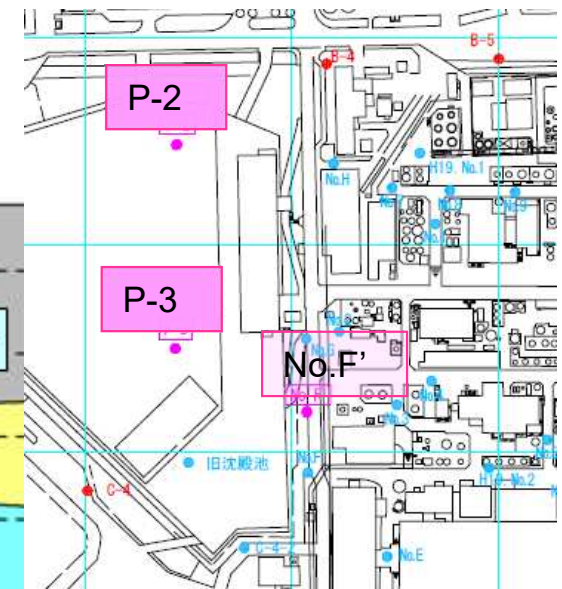
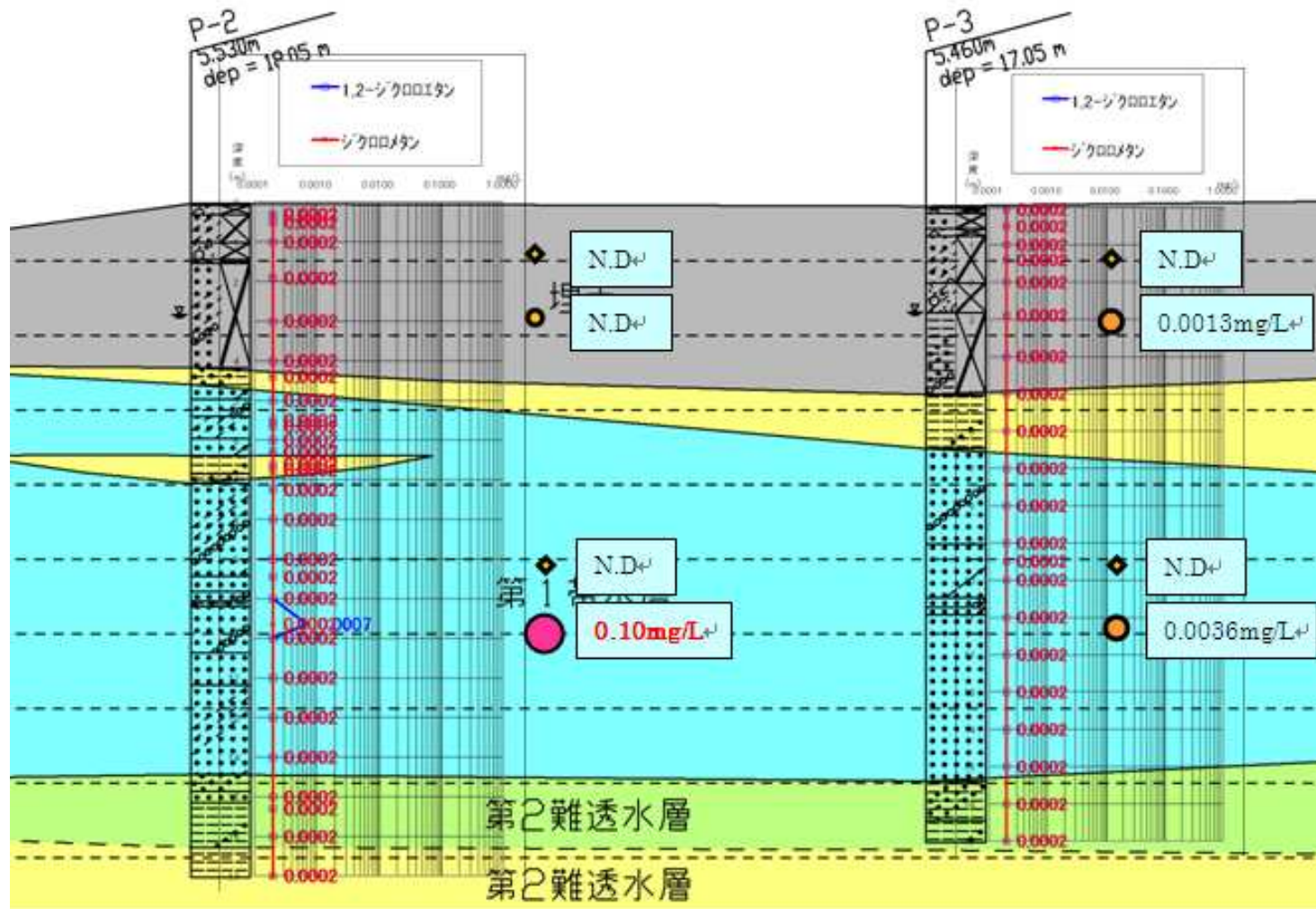
敷地と旧沈殿池地点
との関係は？



No.F'地点を含む追加調査の実施



P-2,P-3地点 調査結果



P-2地点の第1帯水層中にて地下水基準を超過する1, 2-ジクロロエタンを検出.
その他の地点では地下水基準値以下.土壌中の濃度も指定基準以下



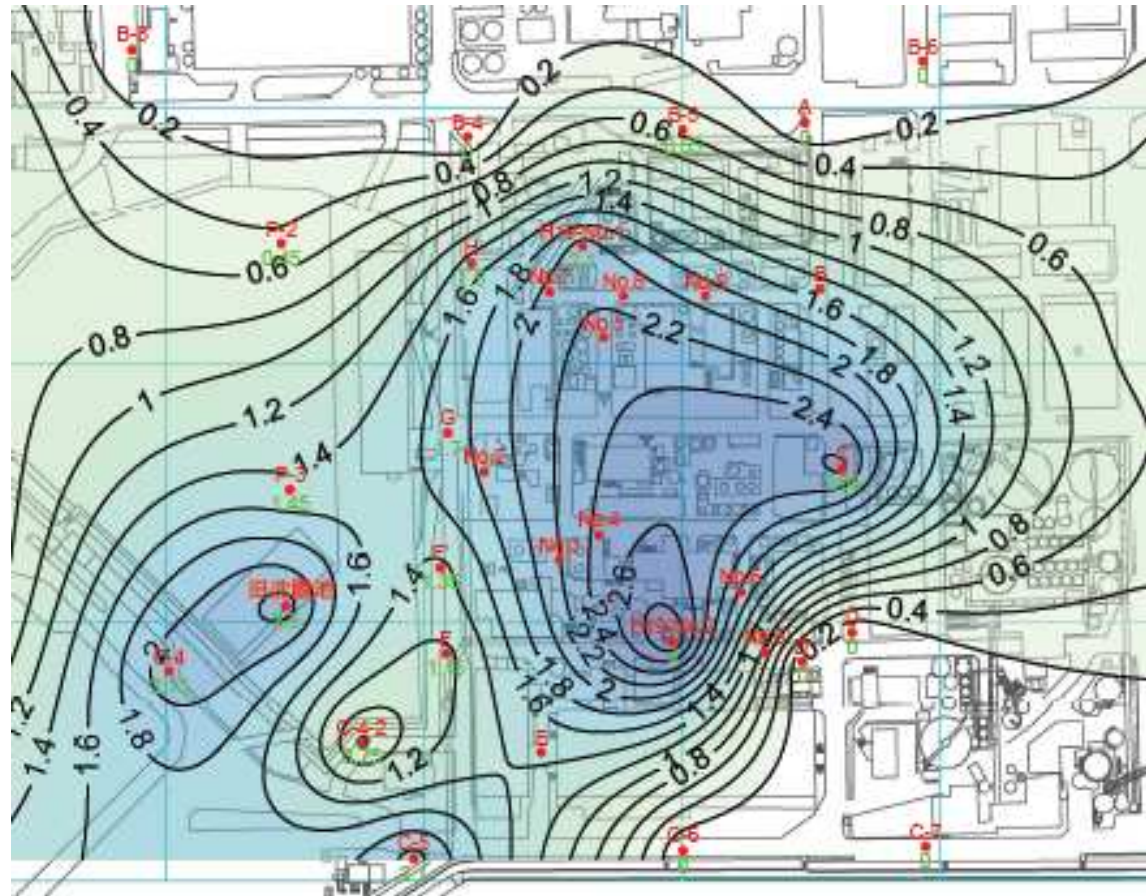
第1帯水層中のジクロロメタン濃度



BS工場およびその周辺部の 土壌・地下水汚染機構について

これまで実施してきた
地質状況、水理地質状況、地下水流動方向、
土壌汚染状況、地下水汚染状況
より考察

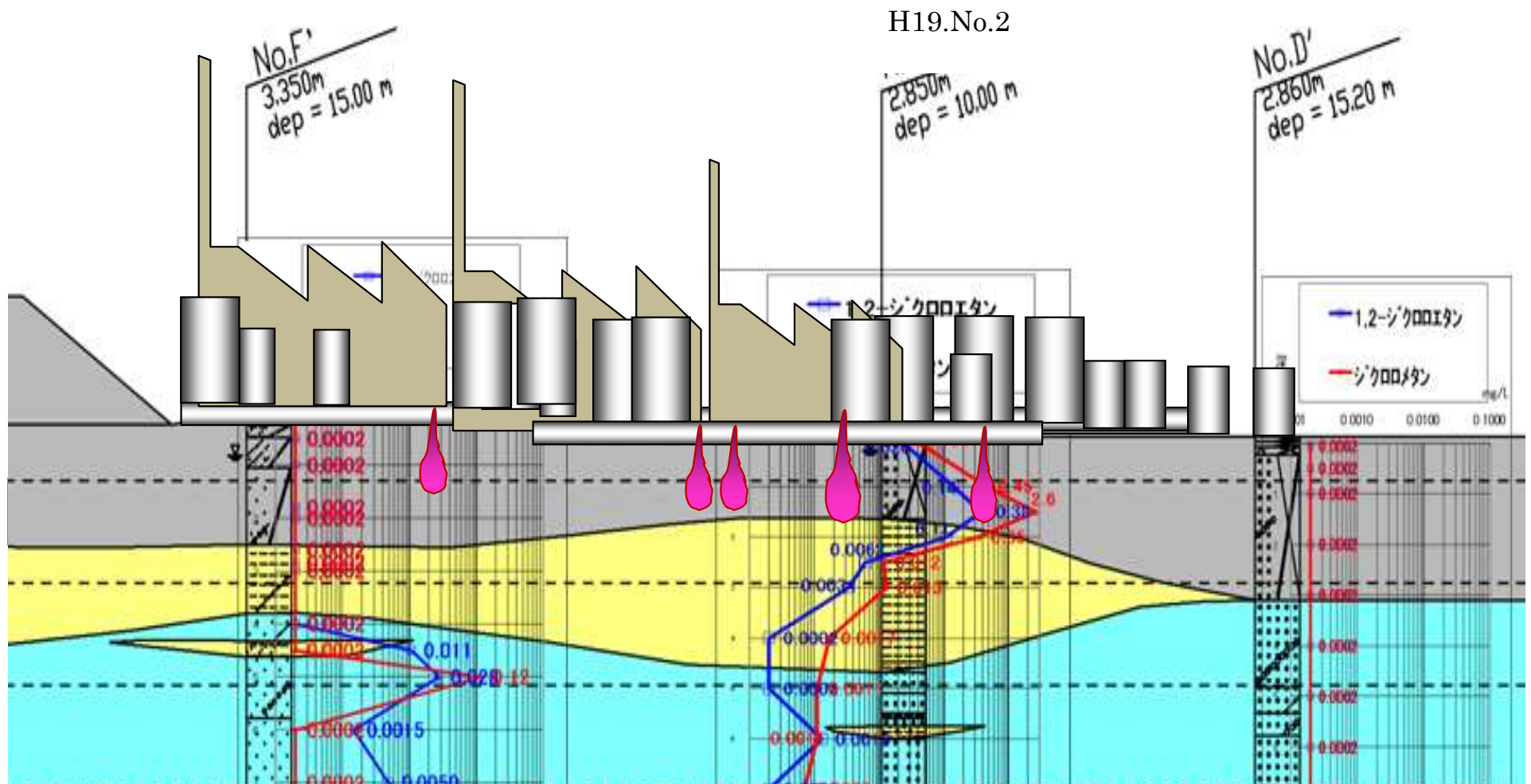
(地下浅部のシルト層分布状況)



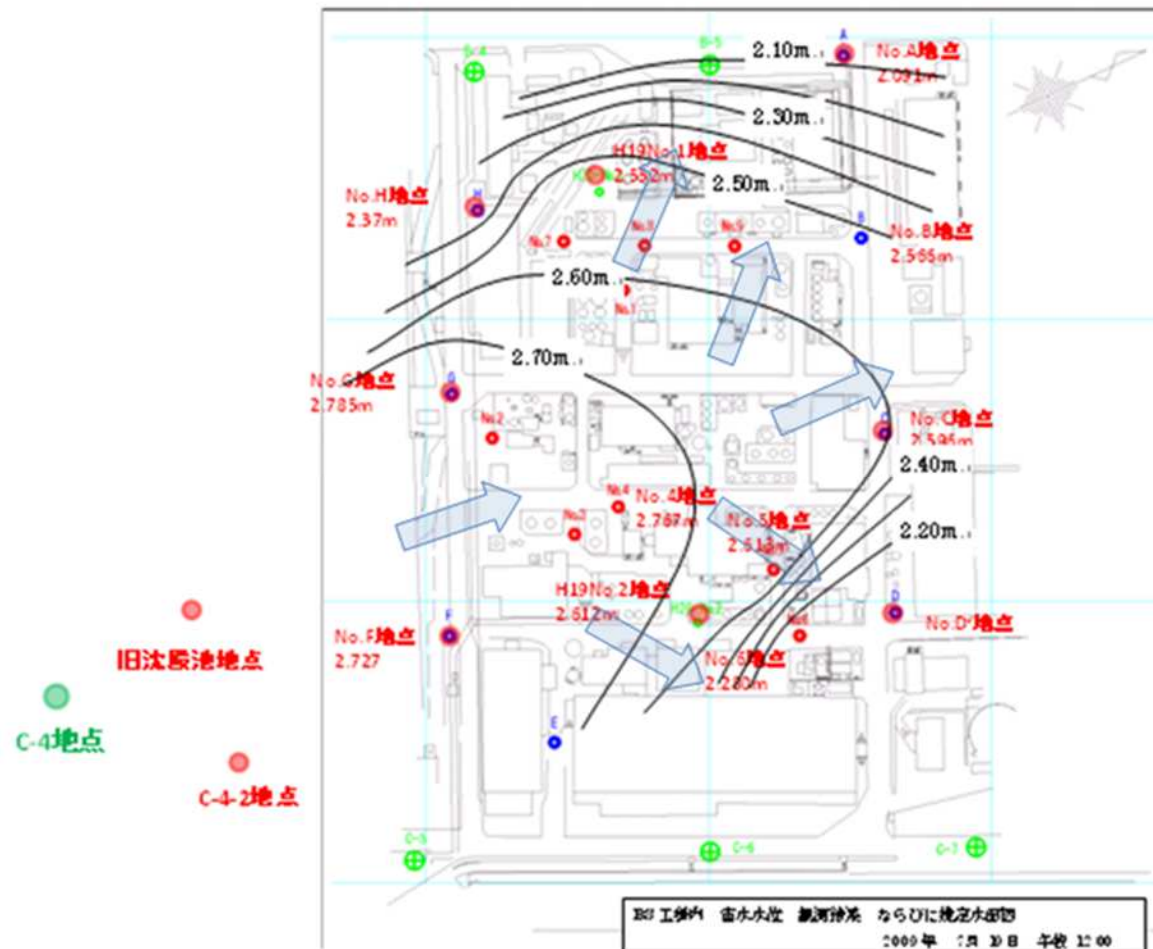
宙水中のジクロロメタン濃度



1.BS工場内から、何らかの要因による、ジクロロメタン、1,2-ジクロロエタン等の漏洩の発生。



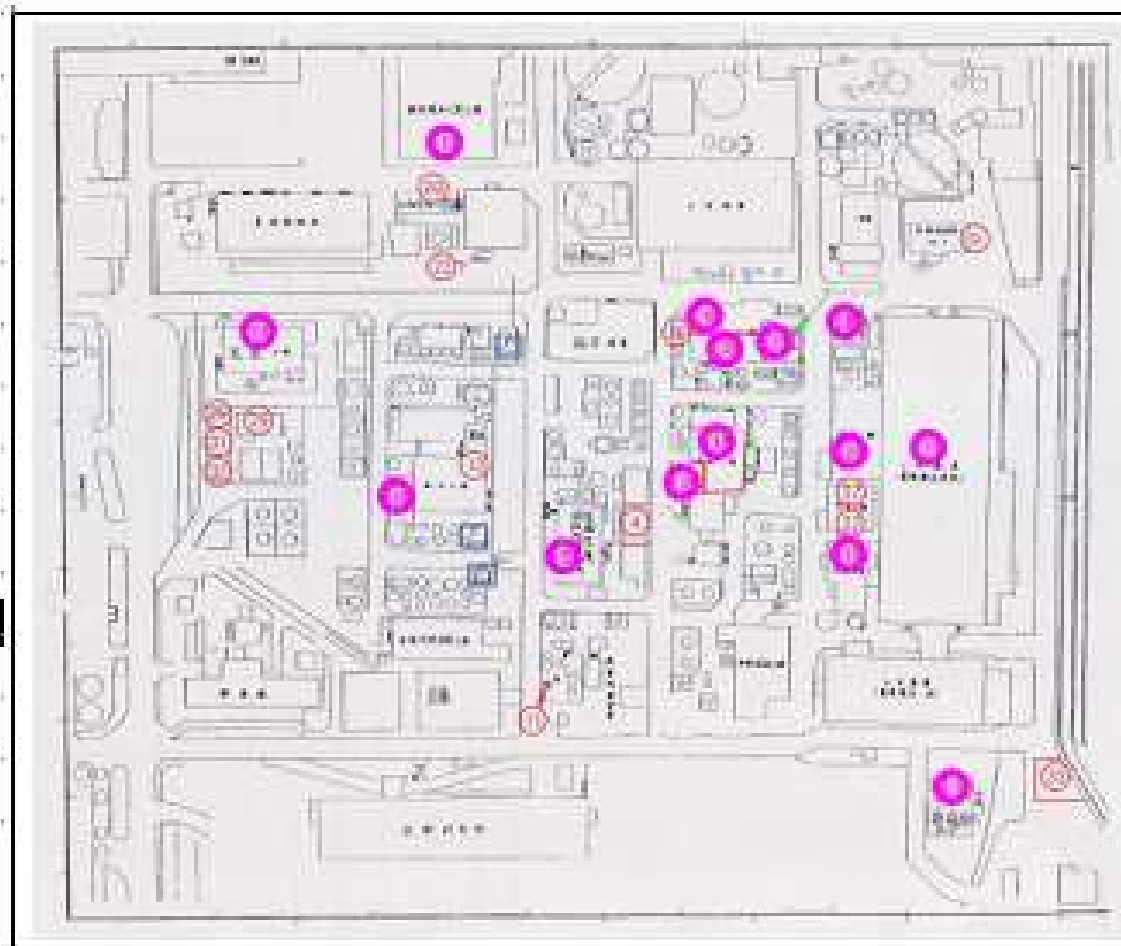
(宙水の推定流動方向)



3. 宙水の流動に伴う有害物質の移流・拡散

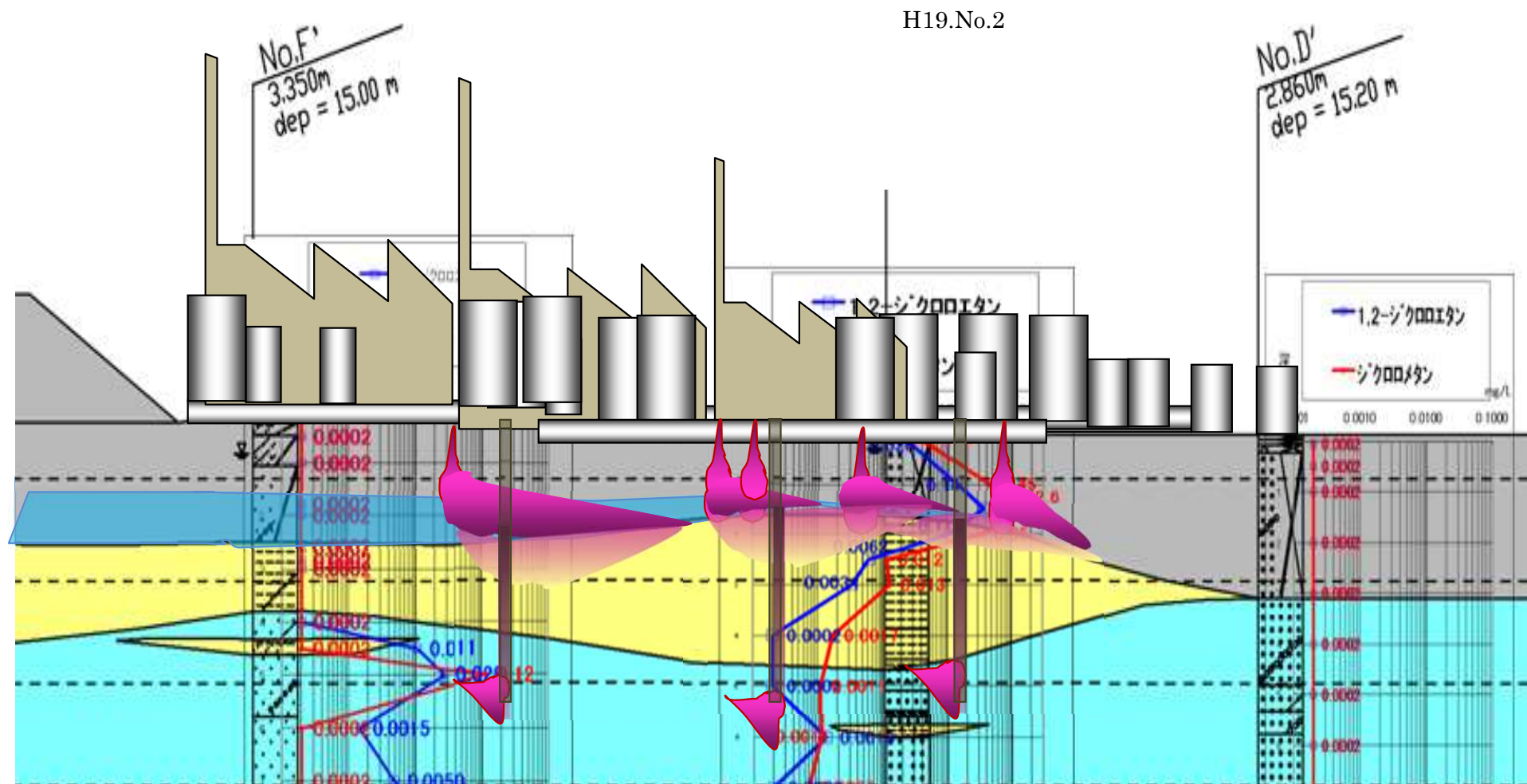


BS工場内の杭設置状況

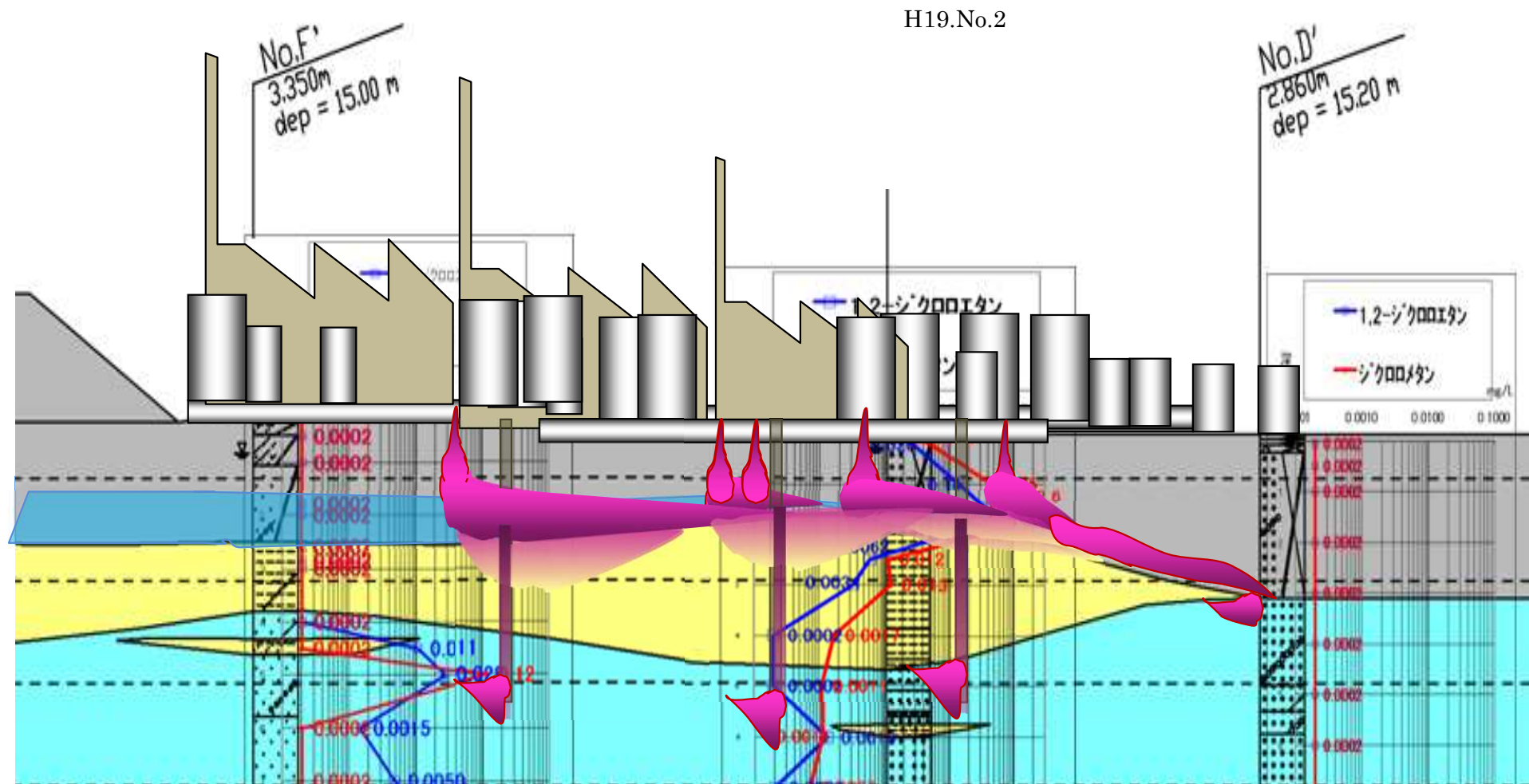


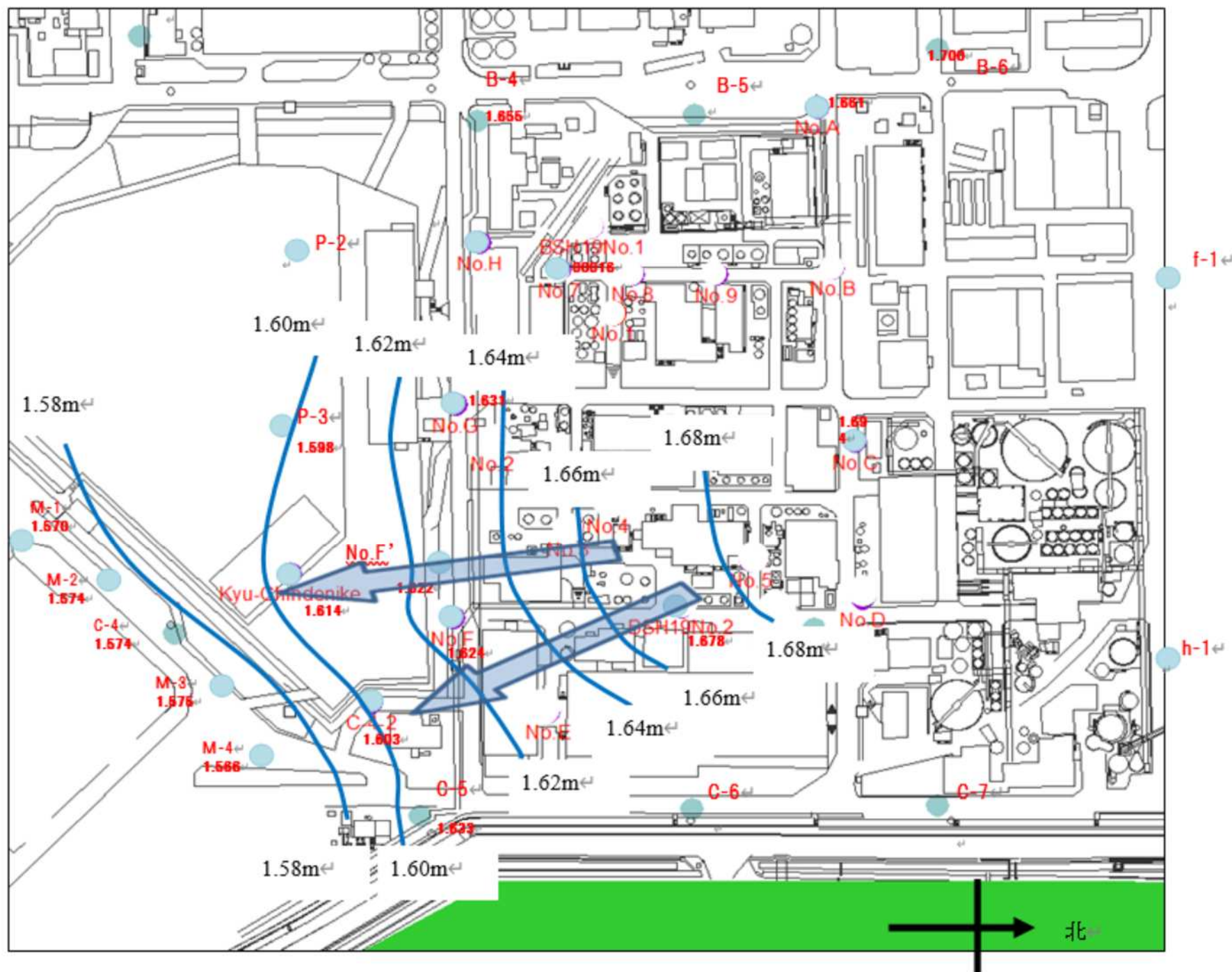
（杭長 3 m 以上の杭設置状況）

4.シルト層中の亀裂や孔、基礎杭等から 第1帯水層への移動



5.シルト層の消失に伴う第1帯水層への移流・拡散



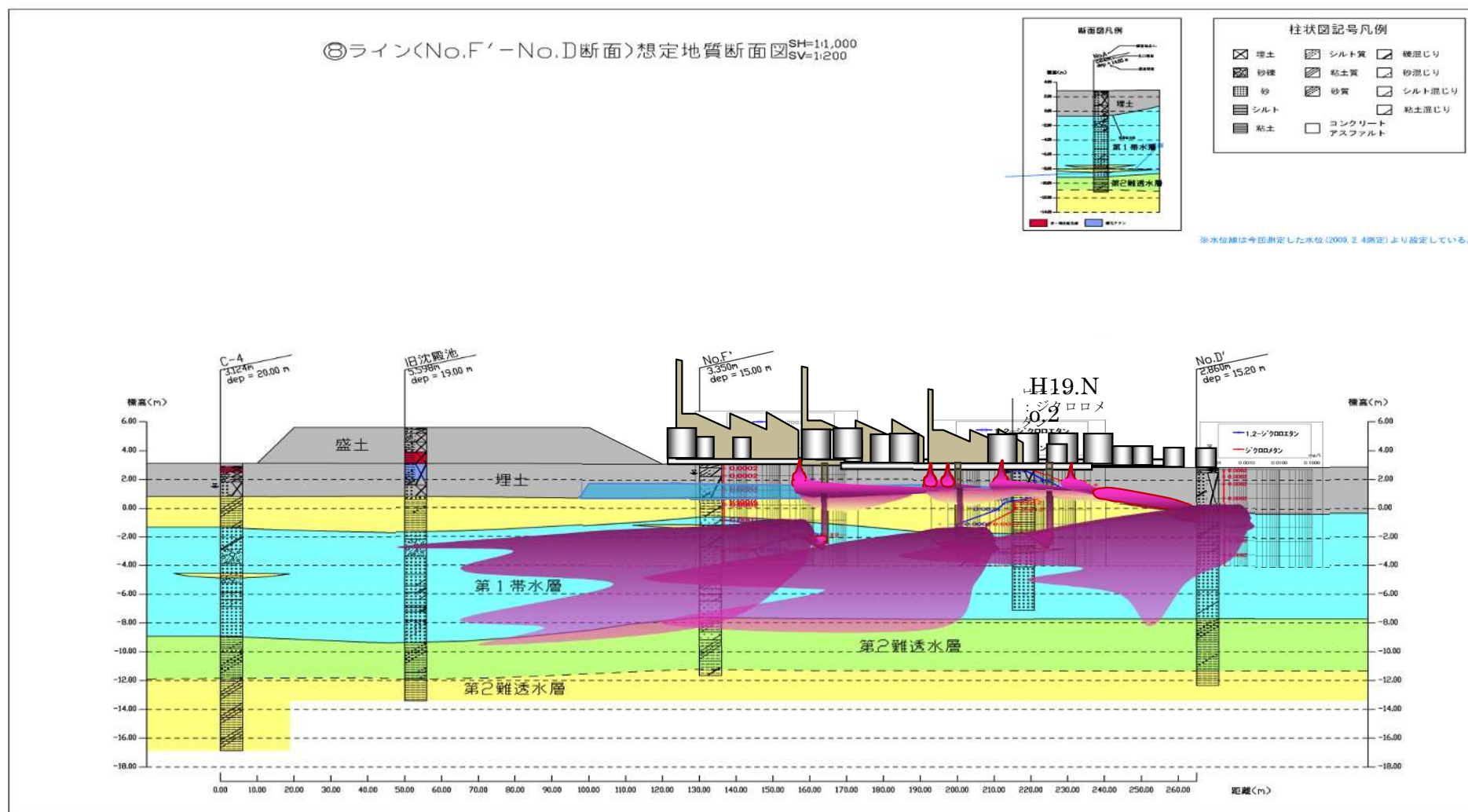


地下水位等高線図、推定地下水流動方向（H23.5/25～5/27）

2024/9/25

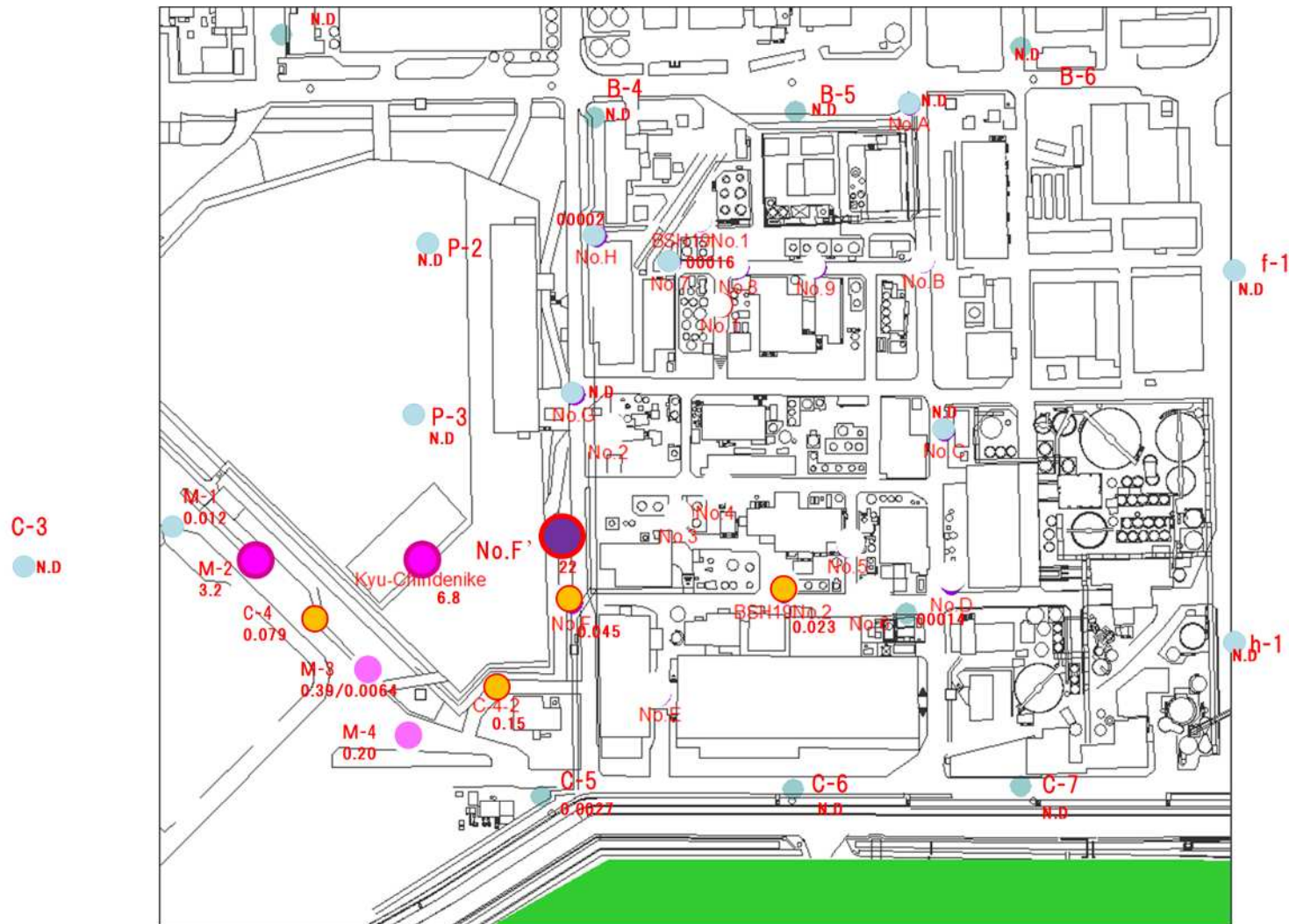
図-3-9 地下水位 および地下水位等高線図（第1帯水層 H23.5/26 PM 8:00）

6.第1帯水層の地下水流動に伴う 有害物質の 移流・拡散



揚水井・バリア井戸の地点、数量、 揚水量の検討

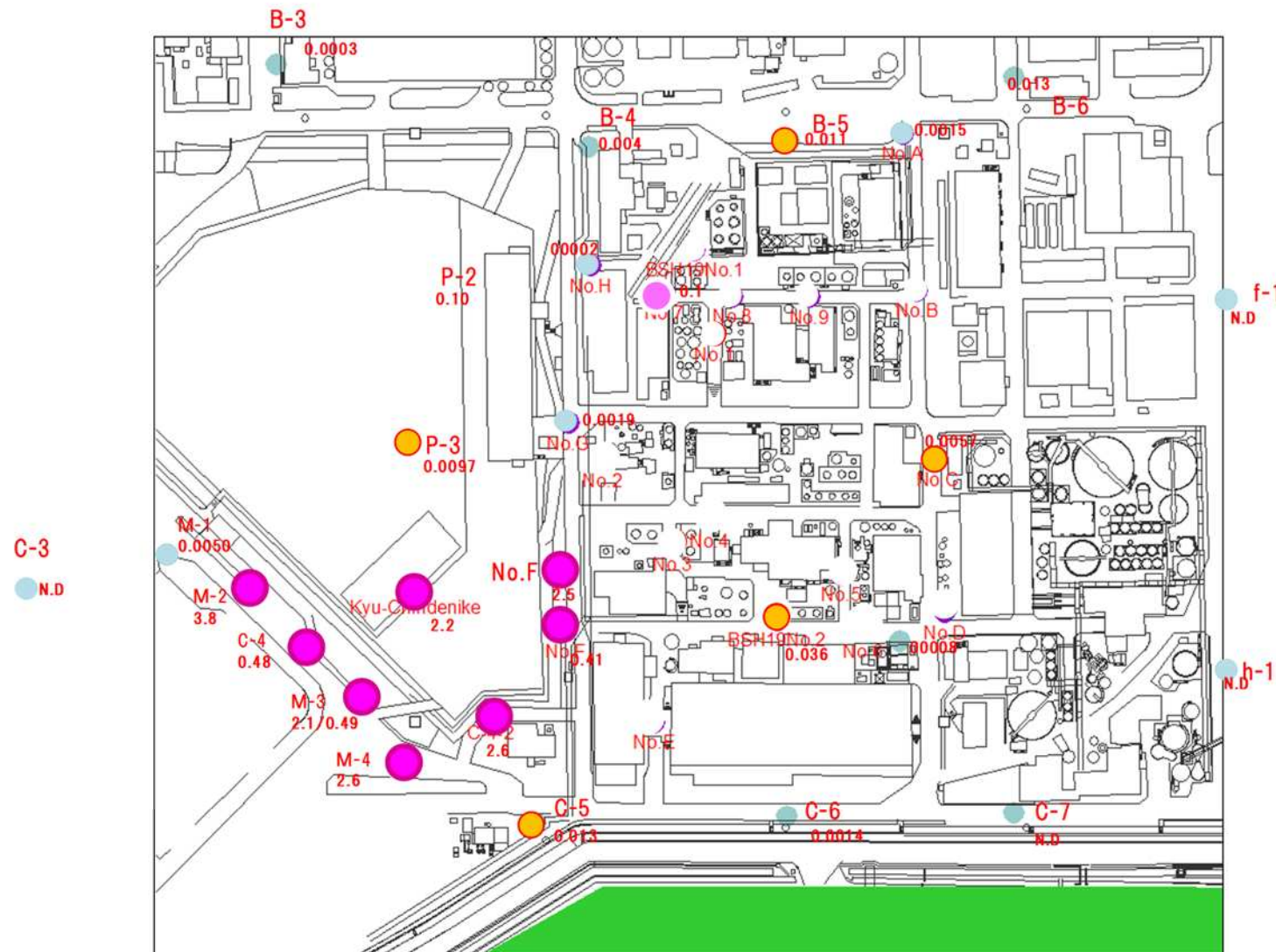
第1帯水層中 ジクロロメタン濃度



第1帯水層中のジクロロメタン濃度

- 0.02mg/L 以下 (地下水基準以下)
- 0.02~0.2mg/L
- 0.2~2.0mg/L
- 2.0~20mg/L
- ≥ 20mg/L

第1帯水層中 1, 2-ジクロロエタン濃度



第1帯水層中の1,2-ジクロロエタン濃度

- 0.004mg/L 以下 (地下水基準以下)
- 0.004~0.04mg/L
- 0.04~0.4mg/L
- 0.4~4.0mg/L

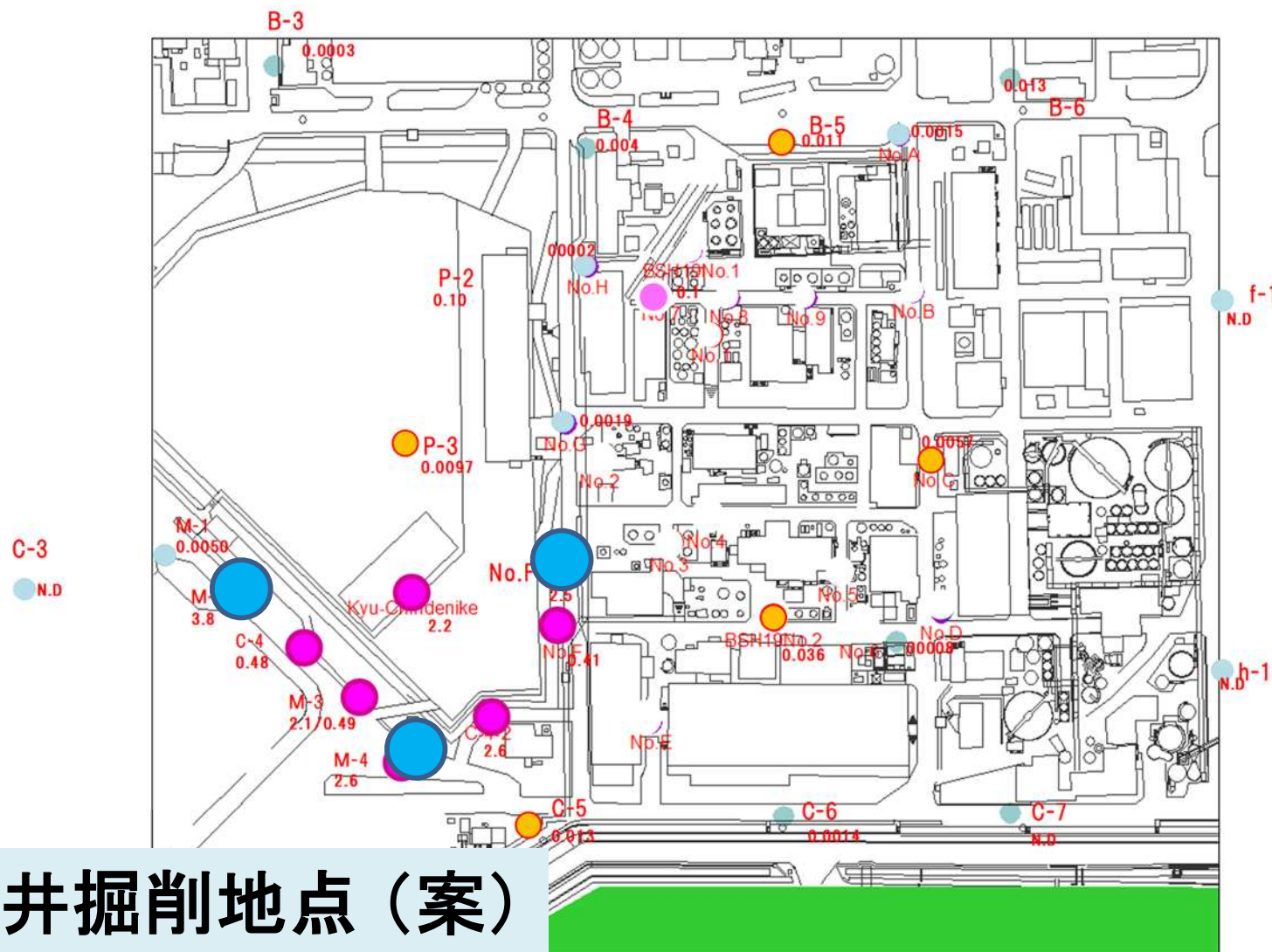
バリア井戸の設置地点の検討

①No.F' 地点での揚水に対して

現段階（H23）では、BS工場内における汚染源が特定されていない（BS工場内では、第1帯水層に対する観測井は、2地点にとどまる）。BS工場内での第1帯水層に対する観測井も順次整備し、汚染源を特定する必要がある。

ここで、**No.F' 地点**は、第1帯水層における有害物質のBS工場敷地外への流出箇所の一つと推定されるが、この地点にて揚水を行うことを検討する。

バリア井戸の設置地点の検討



揚水井掘削地点 (案)

- ①No.F' 地点
- ②M-2 地点
- ③M-4 地点

②M-2、M-4 地点での揚水に対して

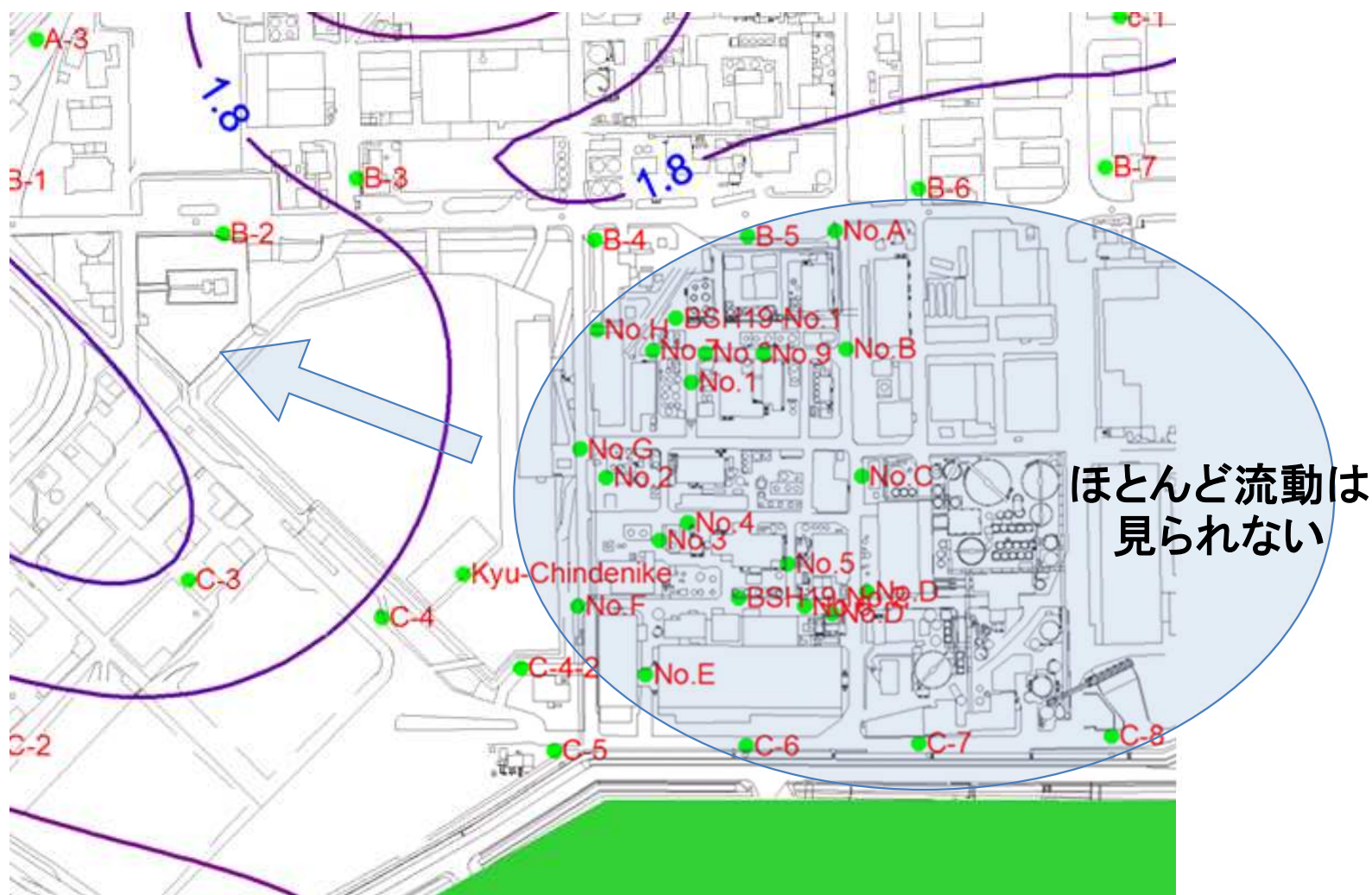
M-2、M-4 地点

敷地外への有害物質の流出を防止するために設置

敷地外への有害物質の流出を防止するためには、敷地境界にて揚水井を設けることは有効な対策案として考えられるが、この際、揚水量を過大に設定すると、汚染源であるBS工場から、汚染水を引き込むこととなる。

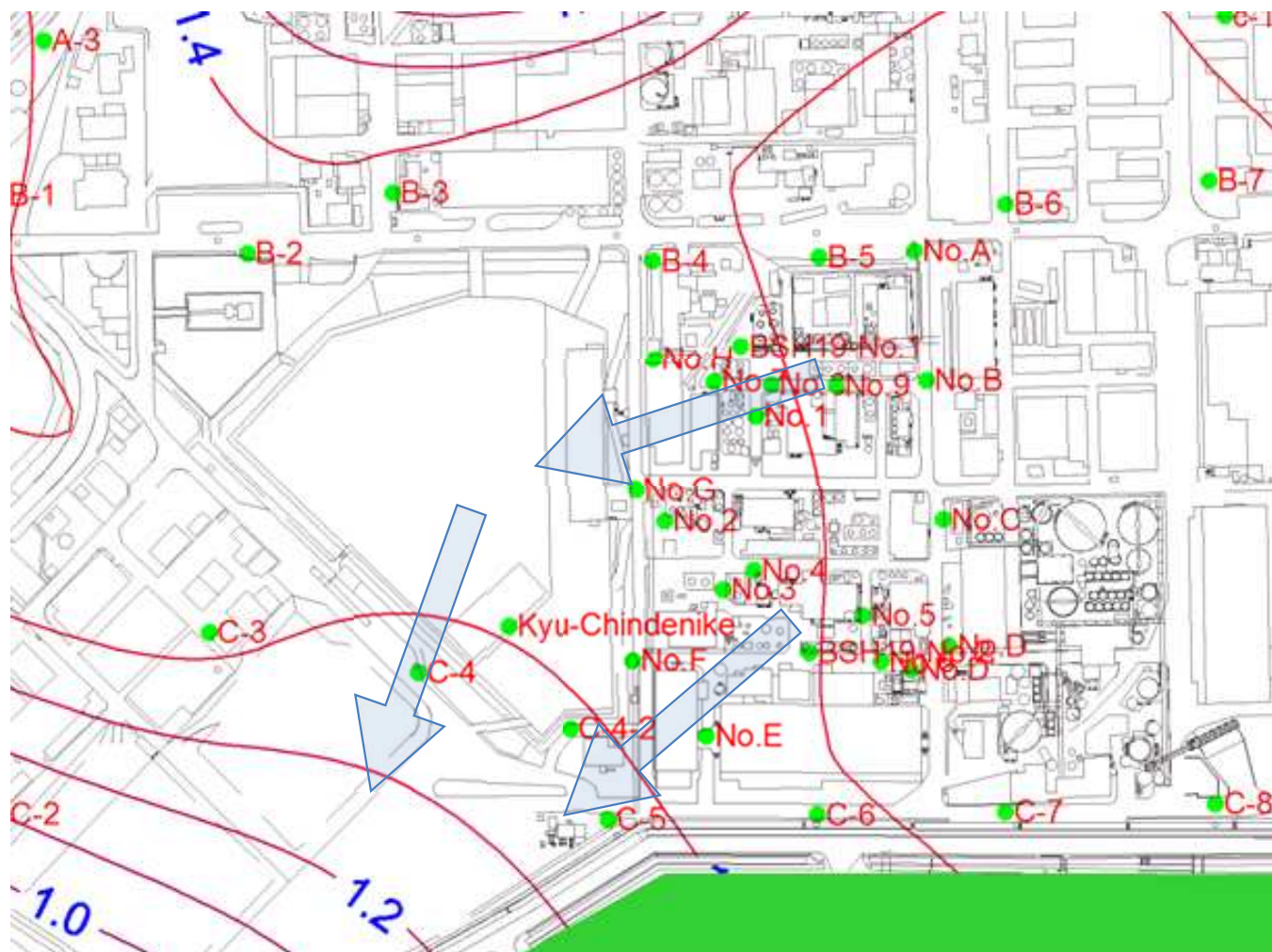
シミュレーションの実施 揚水井・バリア井戸の地点、数量、 揚水量の検討

第1帯水層地下水流動 シミュレーション結果（満潮時）



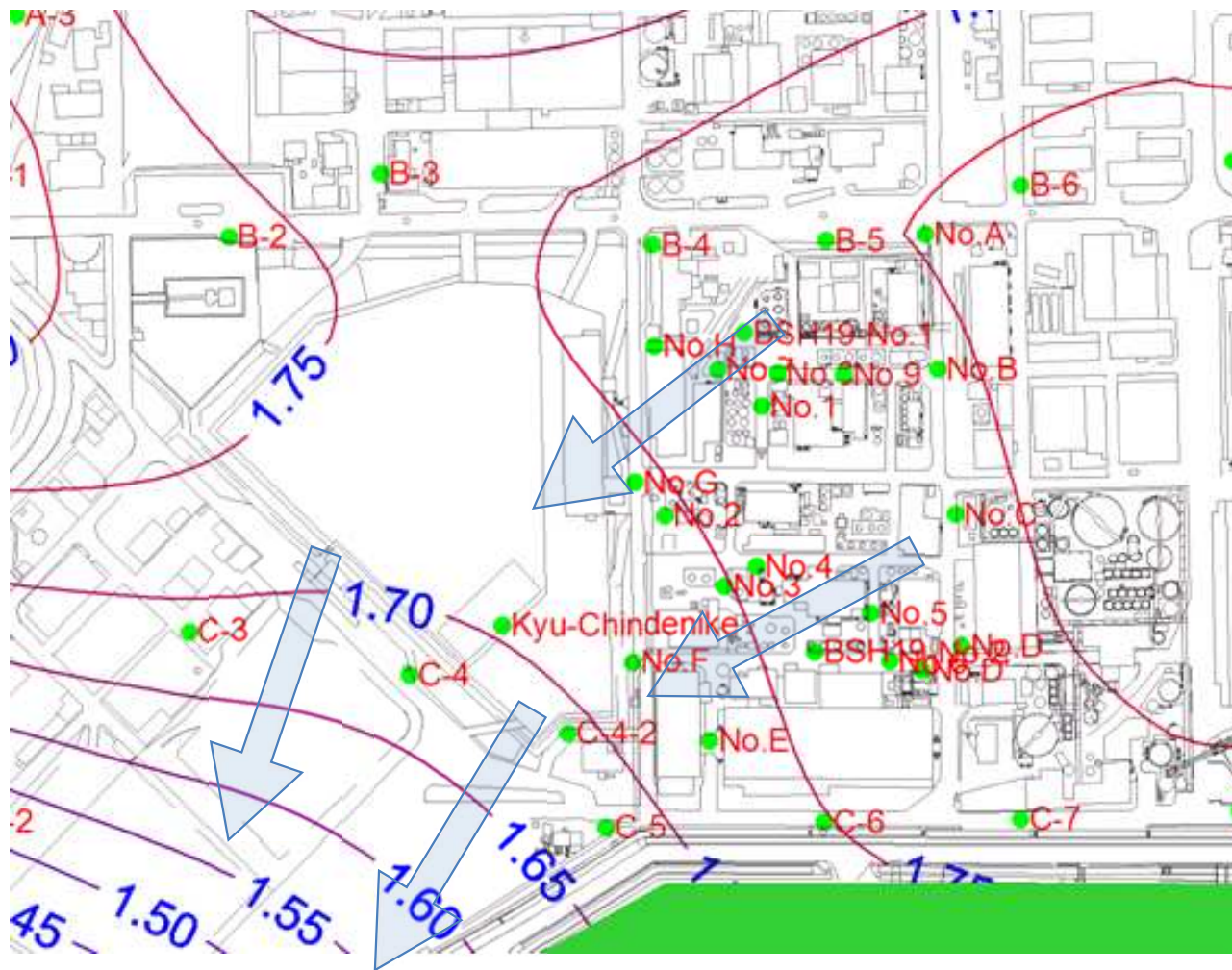
満潮時第1帯水層計算地下水頭分布(2009/9/6 18:00)

第1帯水層地下水流動 シミュレーション結果（干潮時）



干潮時第1帯水層計算地下水頭分布(2009/10/6 0:00)

第1帯水層地下水流動 シミュレーション結果（高潮位日）



高潮位日第1帯水層計算地下水頭分布(2009/10/8)

第1帯水層地下水流動 シミュレーション結果(低潮位日)



低潮位日第1帯水層計算地下水頭分布(2009/10/4)

SB-1(No.F'地点)、SB-2(M-4地点)、SB-3(M-2地点) 揚水量の検討



図-4-27 Case9 粒子追跡線の軌跡（上：全体図、下：拡大図）

井戸番号	揚水量(m ³ /d)								
	Case1	Case2	Case3	Case4	Case5	Case6	Case7	Case8	Case9
SB-1	60	40	60	60	60	60	60	55	50
SB-2	0	15	15	15	20	25	30	20	25
SB-3	0	10	10	15	20	25	30	25	25
合計	60	65	85	90	100	110	120	100	100

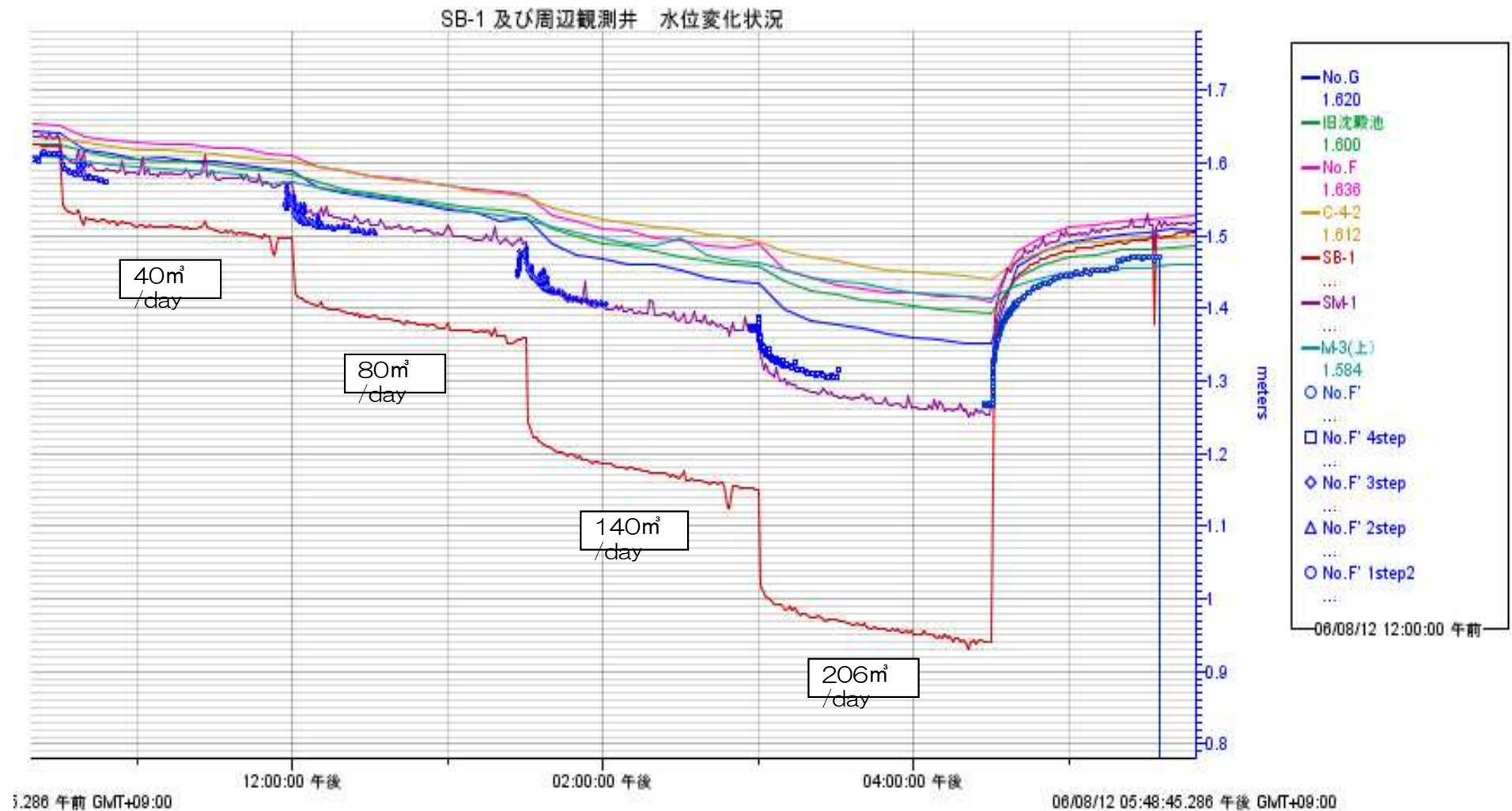
SB-1: 50m³/day

SB-2: 25m³/day

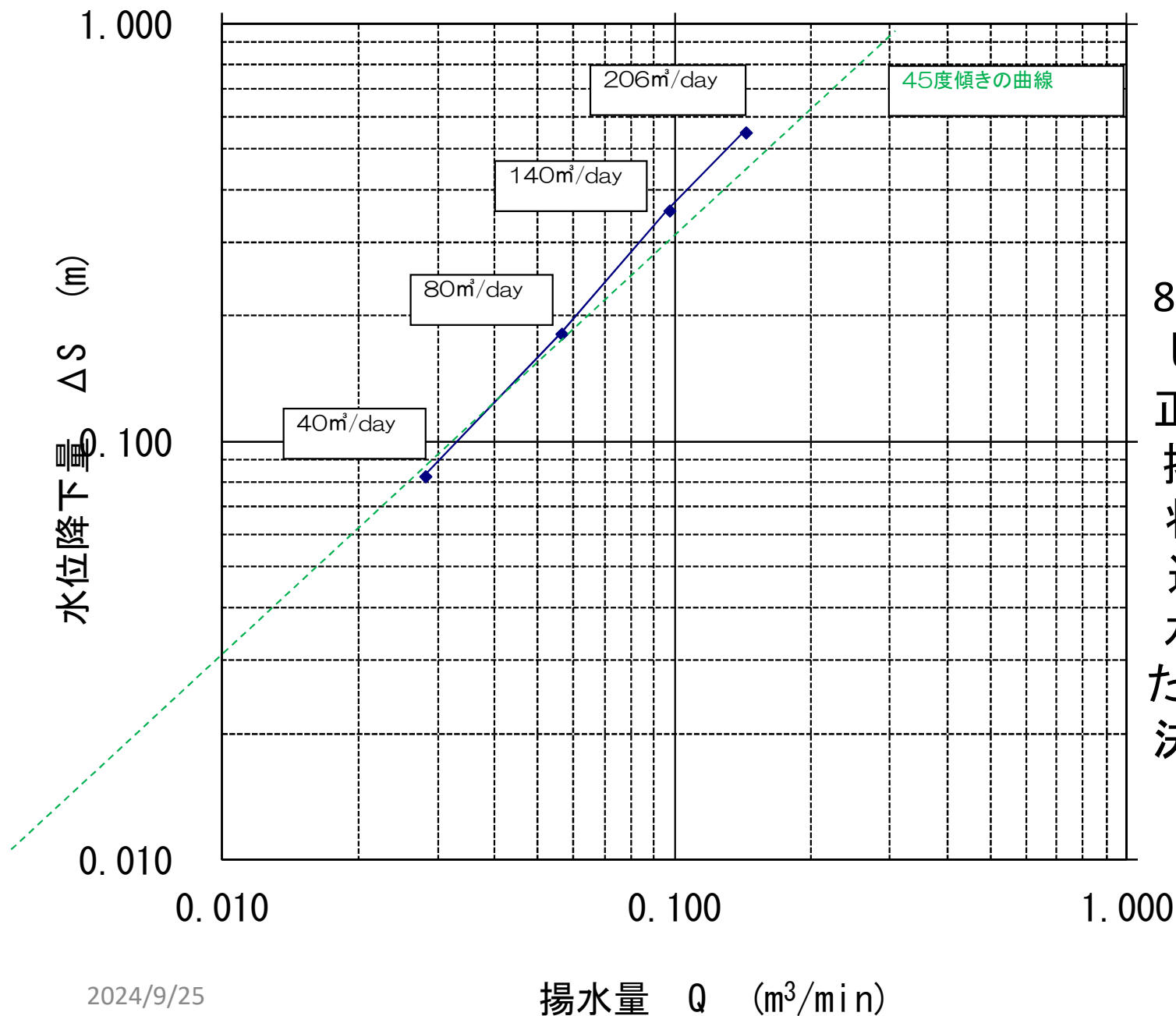
SB-3: 25m³/day

SB-1、SB-2、SB-3 揚水試験の実施
各地点の水理定数
影響圏の推定

SB-1 段階揚水試験 周辺観測井の水位変化状況



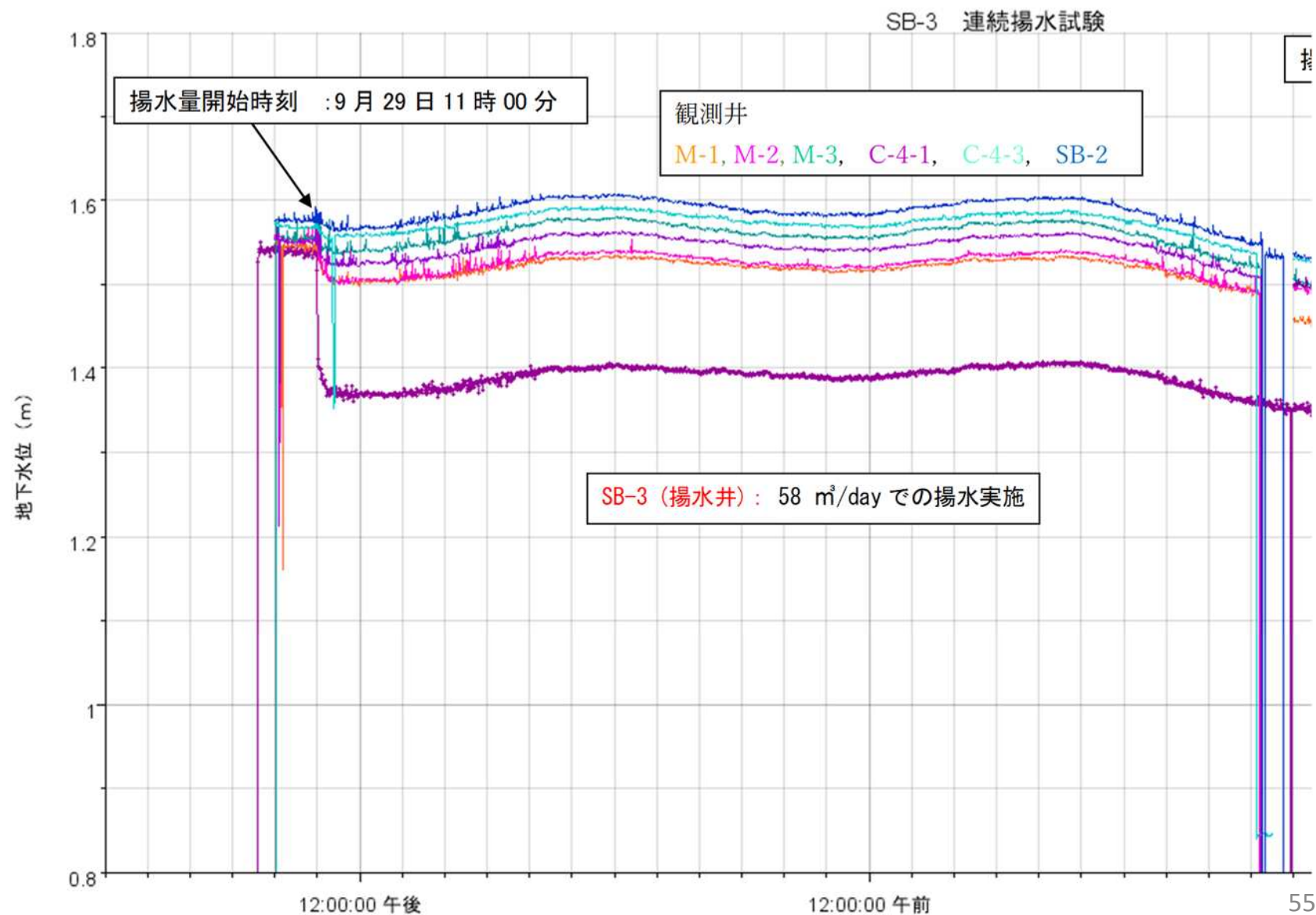
段階揚水試験、適正揚水量の考察



80 m^3 に安全率の0.8を乗じた64 m^3/day を仮の適正揚水量として、長時間揚水した際の水位低下状況を確認するための連続揚水試験を行い、水位低下状況を確認した後、最終的な揚水量を決定することを提案する。

。

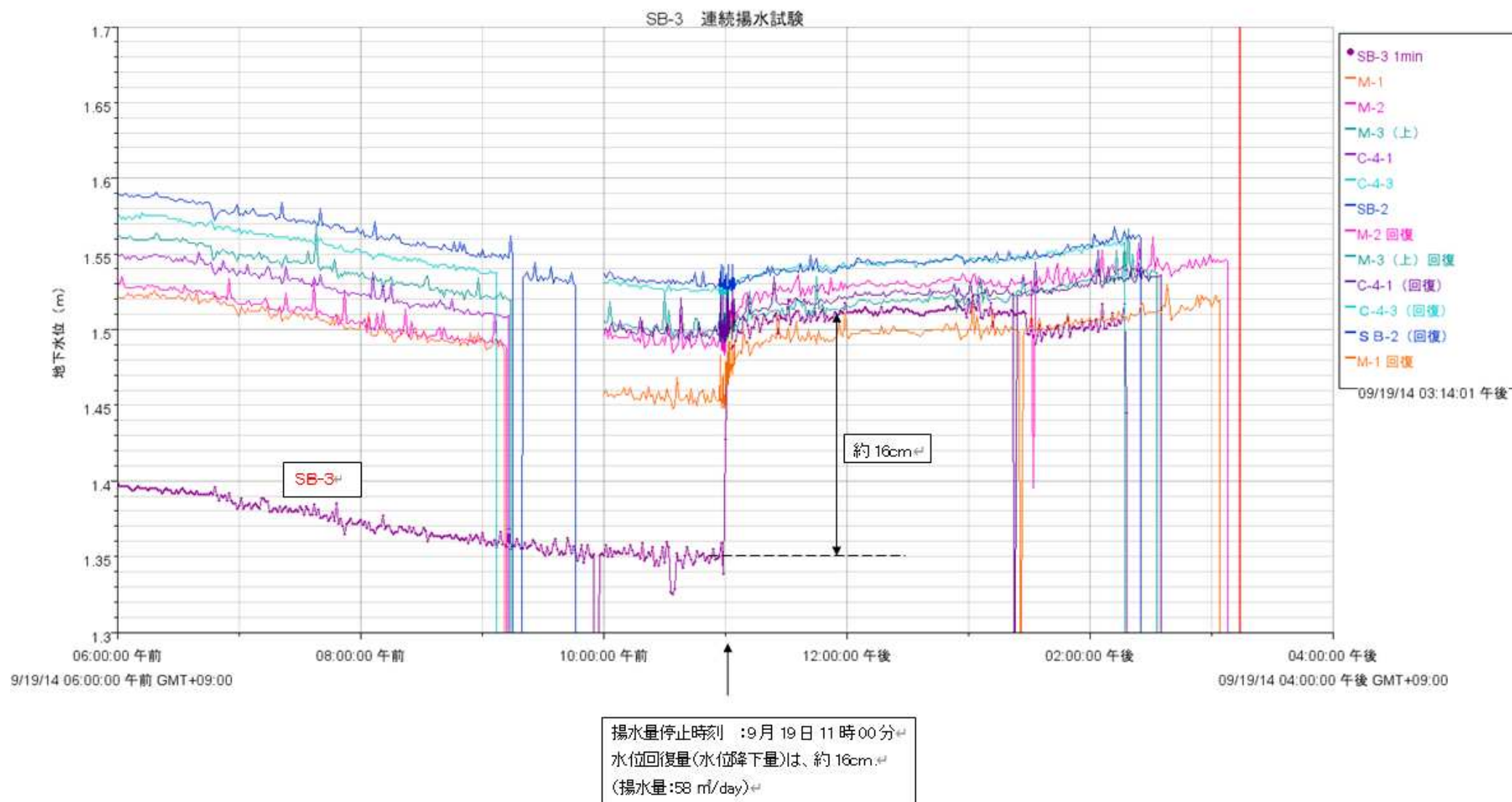
連続揚水試験



2024/9/25

09/18/14 06:00:00 午前 GMT+09:00

連続揚水試験、回復試験



バリア井戸における揚水試験、 揚水の影響範囲

2-3-3.SB-3 地点の水理定数の算定について

以下に、段階揚水試験ならびに連続揚水試験より解析した当該地点における水理定数を記す。

①s-log(r)プロットによる直線勾配法による解析結果

(段階揚水試験終了時の回復試験より算定 (58 ml/day 揚水停止時))

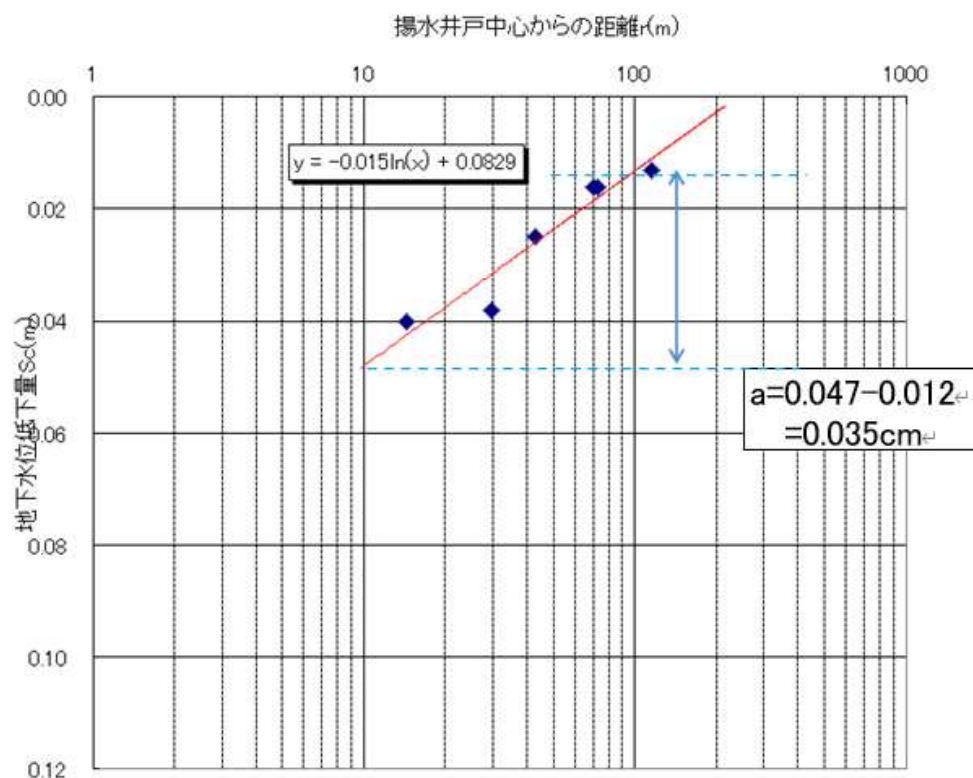


図-2-16 SB-3 揚水に伴う、揚水井からの距離と周辺の観測井の水位降下量の関係、(58 ml/day 揚水時)

表-2-5 SB-3 揚水井による 58 ml/day 揚水に伴う、周辺の観測井の水位降下量

連続揚水試験				
地点	回復時の水位 12:15	揚水時の水位 10:55	潮汐による変動の 考慮	水位回復量
SB-3	1.509	1.348	△ 0.002	0.159
M-2	1.532	1.490	△ 0.002	0.040
M-1	1.497	1.457	△ 0.002	0.038
C-4-1	1.523	1.496	△ 0.002	0.025
C-4-3	1.543	1.525	△ 0.002	0.016
M-3	1.517	1.499	△ 0.002	0.016
SB-2	1.544	1.529	△ 0.002	0.013

単位(m)

表-2-6 SB-3 揚水井による 58 ml/day 揚水に伴う、周辺の観測井の水位降下量、ならびに揚水井からの距離

地点	揚水井戸中心からの距離r (m)	地下水位低下量 (回復量) s(m)
SB-3	r_0 0	161
M-2	r_1 14.3	0.042
M-1	r_2 29.7	0.043
C-4-1	r_3 42.9	0.027
C-4-3	r_4 70.0	0.018
M-3	r_5 72.7	0.018
SB-2	r_6 114.7	0.015

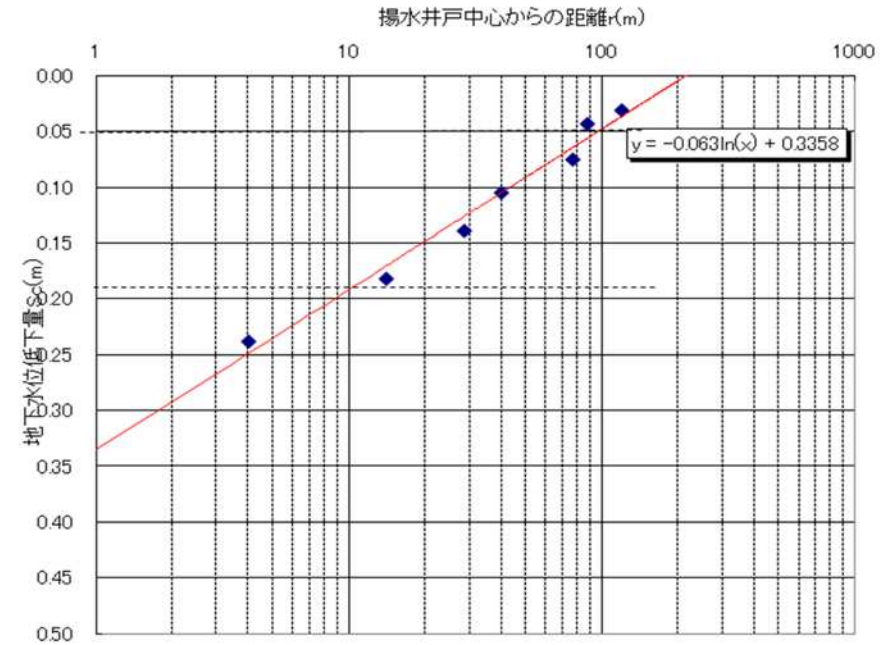
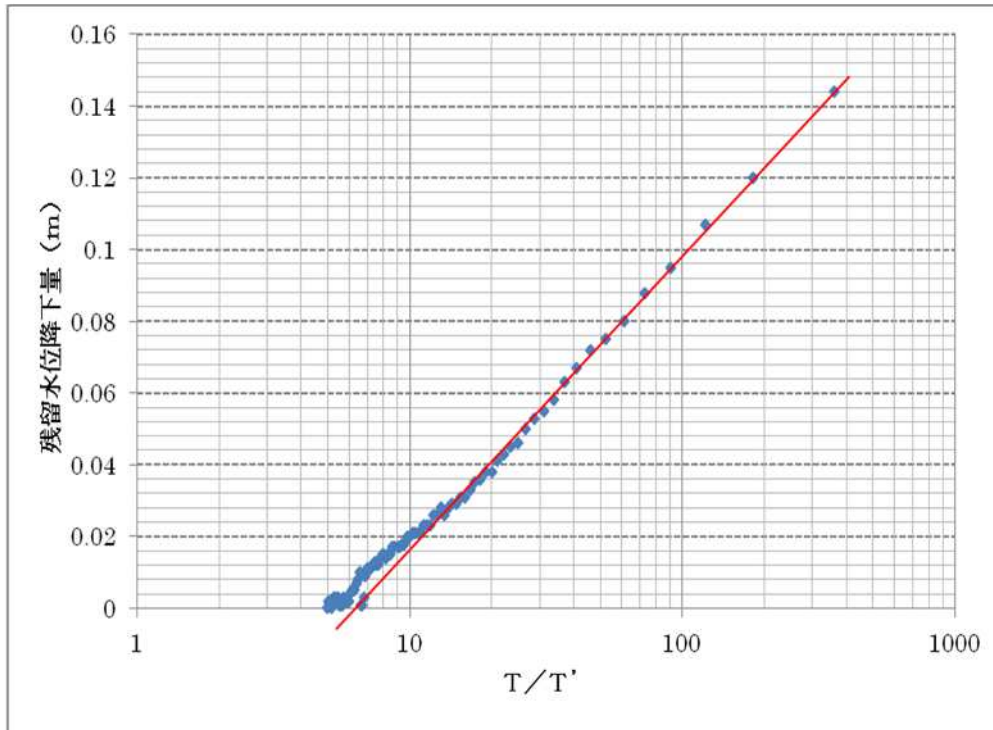
s-log(r)プロットによる直線勾配法

$$\begin{aligned}
 T &= \frac{2.30 Q_p}{2 \pi a} \\
 k &= \frac{T}{b} \\
 k &= \frac{2.30 Q_p}{2 \pi a b} \\
 &= \frac{0.049}{8.6} \text{ m/min} \\
 &= 4.9 \times 10^{-2} \text{ m/min} \\
 &= 8.17 \times 10^{-4} \text{ m/sec} \\
 &= 8.17 \times 10^{-2} \text{ cm/sec}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 Q &= \text{揚水量} &= 0.040 \text{ m}^3/\text{min} \text{ (58 m}^3/\text{日)} \\
 b &= \text{透水区間} &= 8.6 \text{ m} \\
 a &= \text{横軸1サイクルに対応するSc(m)の差} &= 0.0350 \text{ m}
 \end{aligned}$$

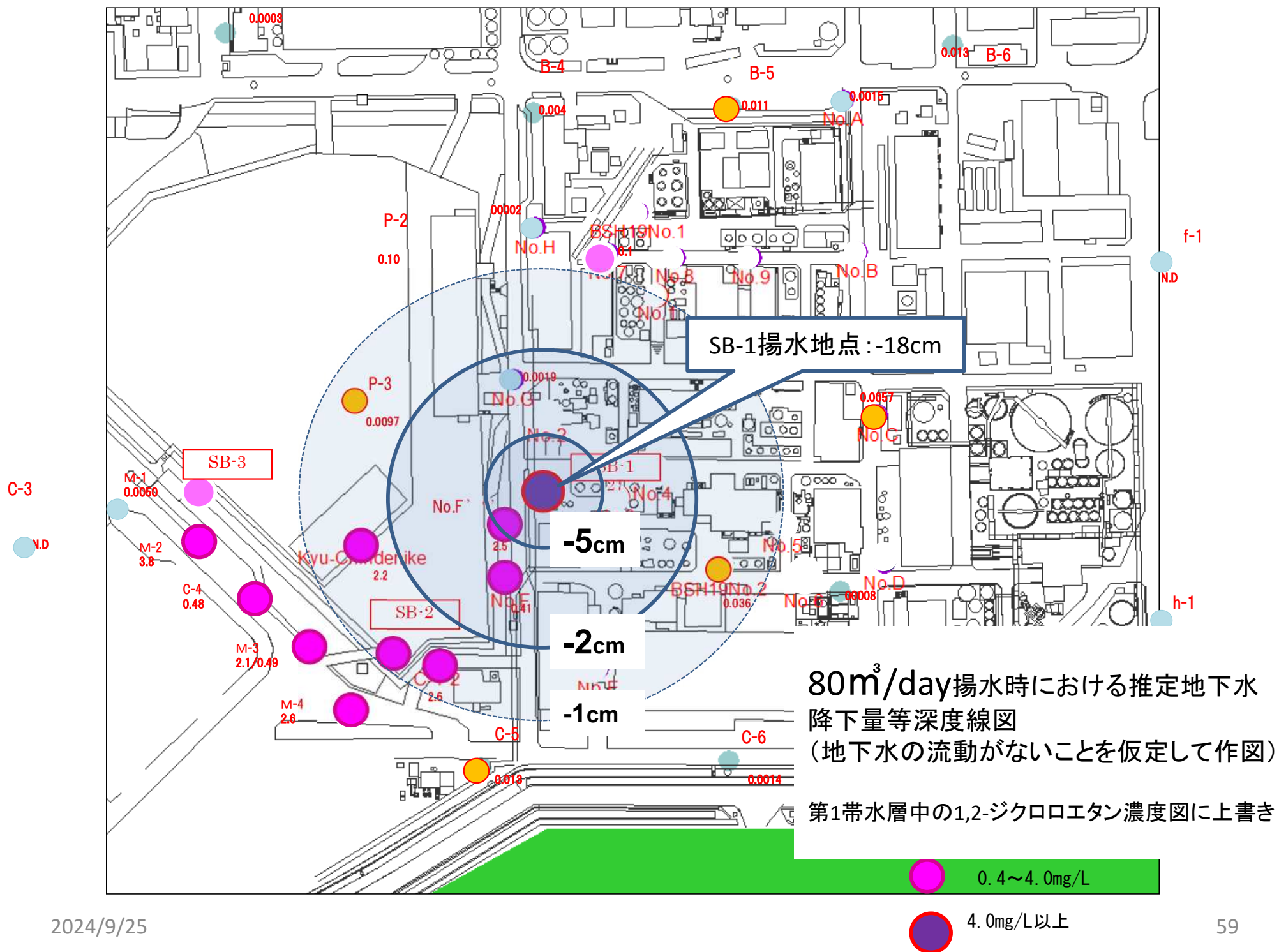
$$\begin{aligned}
 k &= \frac{2.30 \times 0.040}{2 \times 3.14 \times 8.6 \times 0.035} \\
 &= 0.092/1.890 \\
 &= 0.0487 \text{ m/min}
 \end{aligned}$$

透水係数の算定



回復法 ($s-\log(t/t')$) プロットによる直線勾配法による解析の結果、透水係数は $6.4 \times 10^{-2} \text{ cm/sec}$

$s-\log(r)$ プロットによる直線勾配法による解析の結果、透水係数は $7.3 \times 10^{-2} \text{ cm/sec}$ と算定された。



バリア井戸における揚水試験、 揚水の影響範囲

2-5. 揚水試験結果に基づく影響範囲の推定

揚水試験の結果に基づく、SB-2 地点、SB-3 地点、および SB-1 地点における、推定される地下水位低下影響圏を以下に記す。
(地下水の流動を考慮せず、円形にて作図)

SB-2 地点 (揚水量 : 64 m³/day)

- SB-2 地点における水位降下量 : -45cm
- -2cm の水位低下半径 : 約 75m
- -1cm の水位低下半径 : 約 160m

SB-3 地点 (揚水量 : 58 m³/day)

- SB-3 地点における水位降下量 : -16cm
- -2cm の水位低下半径 : 約 65m
- -1cm の水位低下半径 : 約 150m

参考

SB-1 地点 (揚水量 : 80 m³/day)

- SB-1 地点における水位降下量 : -18cm
- -2cm の水位低下半径 : 約 50m
- -1cm の水位低下半径 : 約 100m

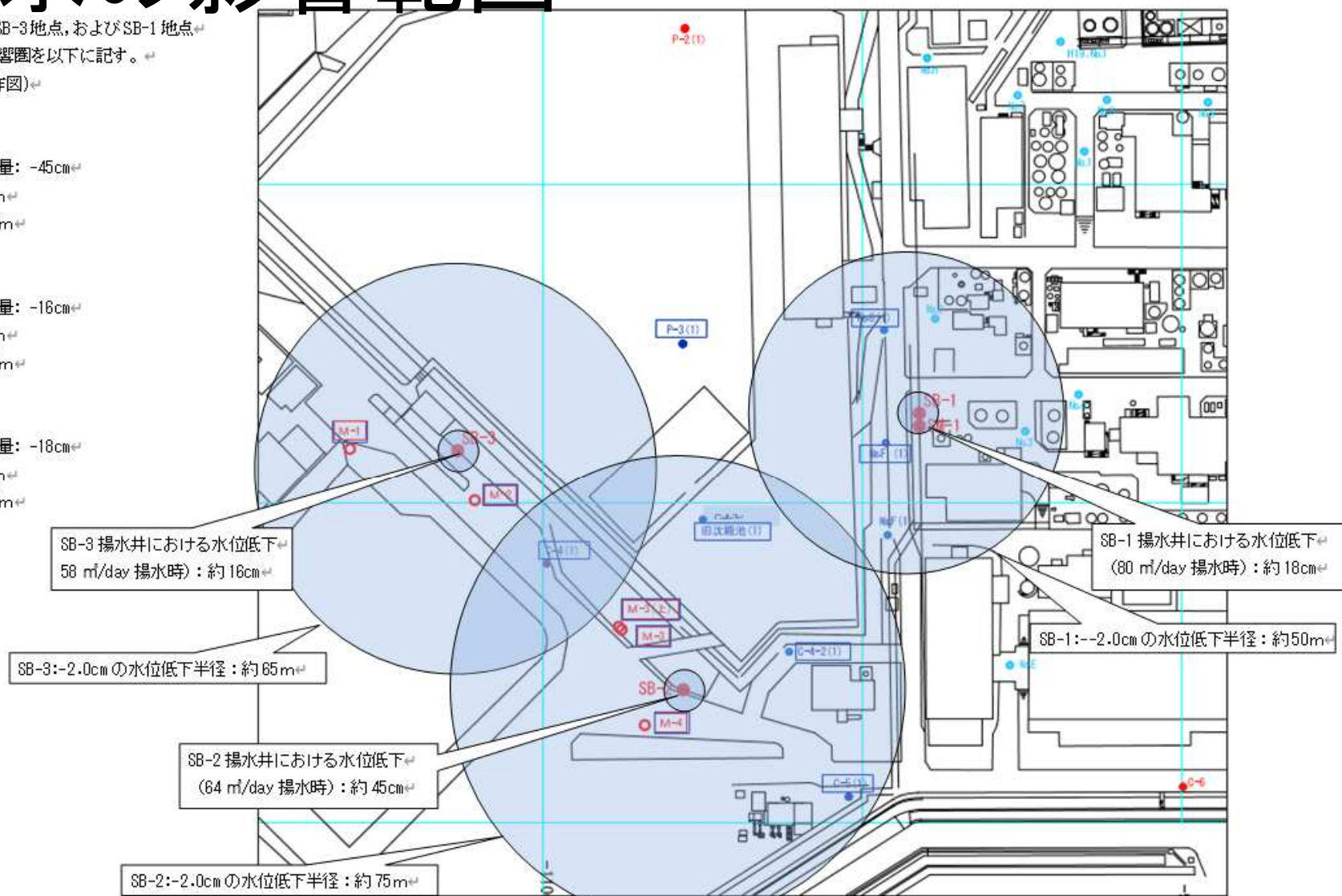


図-2-18 各地点における揚水時における推定地下水位降下量等深度線図

(SB-1 地点揚水量 : 80 m³/day, SB-2 地点揚水量 : 64 m³/day, SB-3 地点揚水量 : 58 m³/day)
(地下水の流動がないことを仮定して円形にて作図)

SB-1(No.F'地点)、SB-2(M-4地点)、SB-3(M-2地点) 揚水量の検討



図-4-27 Case9 粒子追跡線の軌跡（上：全体図、下：拡大図）

井戸番号	揚水量(m ³ /d)								
	Case1	Case2	Case3	Case4	Case5	Case6	Case7	Case8	Case9
SB-1	60	40	60	60	60	60	60	55	50
SB-2	0	15	15	15	20	25	30	20	25
SB-3	0	10	10	15	20	25	30	25	25
合計	60	65	85	90	100	110	120	100	100

SB-1: 50m³/day

SB-2: 25m³/day

SB-3: 25m³/day

南東域バリア井戸 地下水モニタリング結果

1. 南東域地下水モニタリング地点

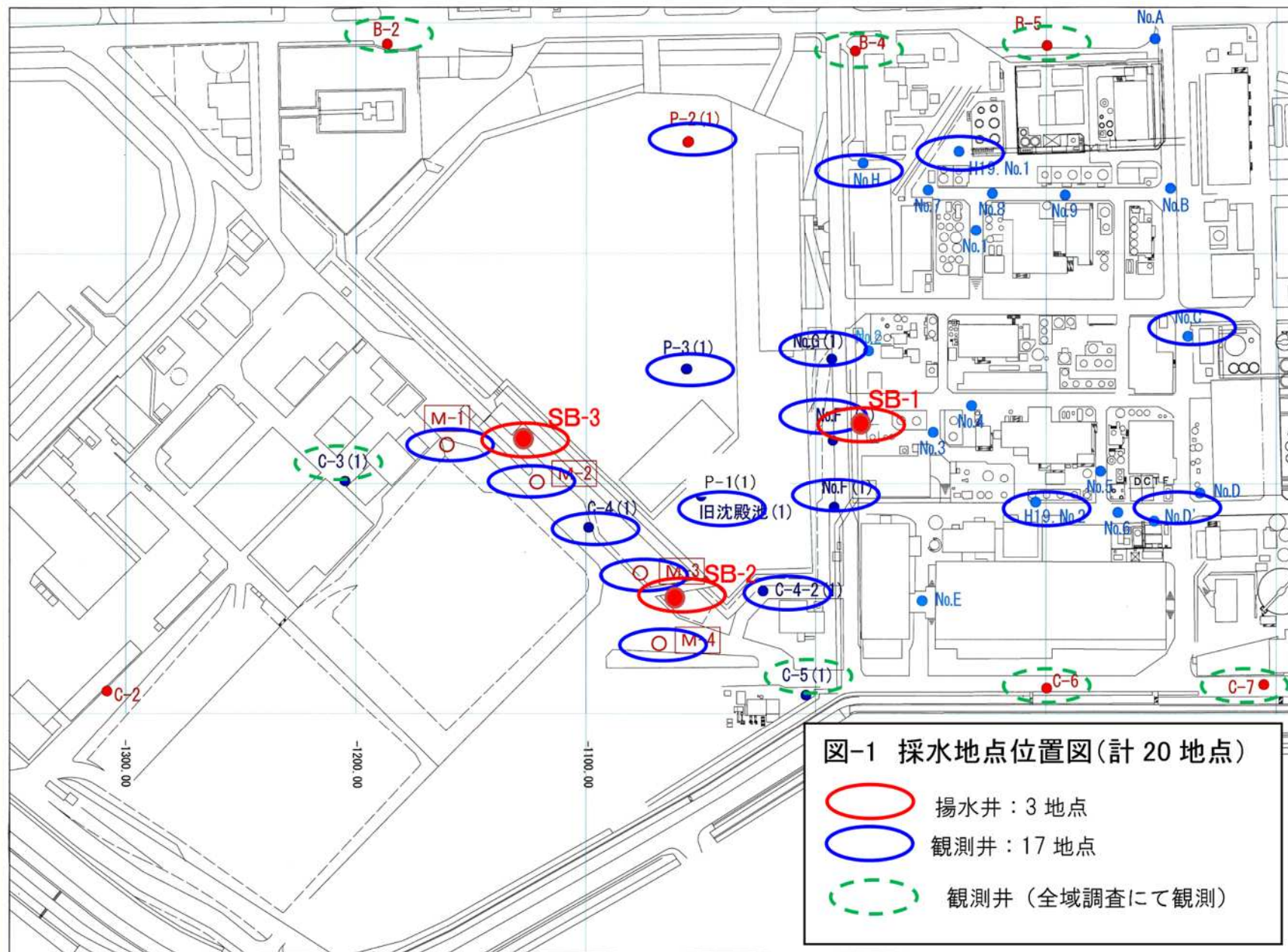
- 揚水井（バリア井戸）

SB-1,SB-2,SB-3

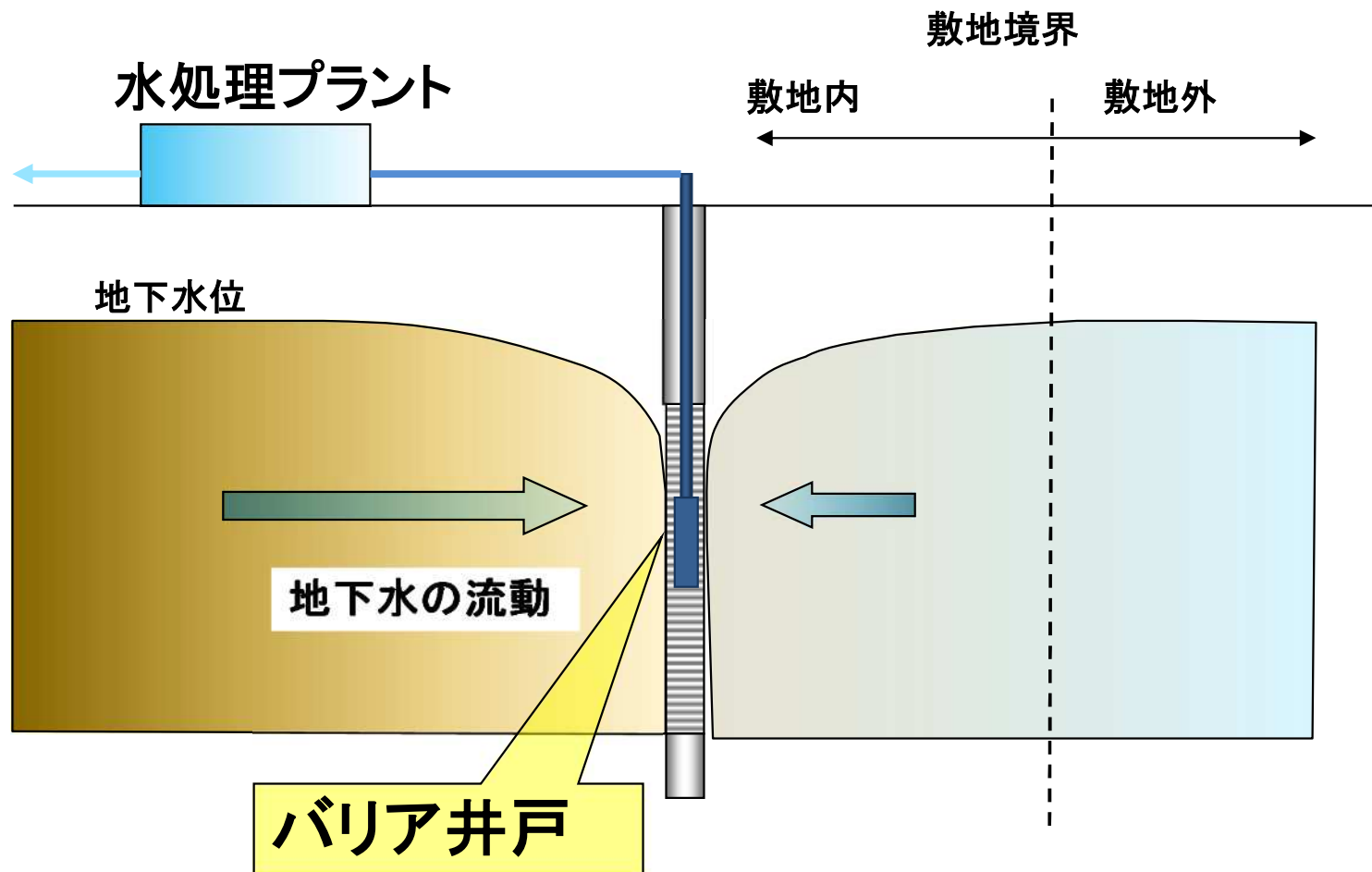
- 観測井

H19.No.1, H19.No.2,M-1,M-2,M-3,M-4,No.C No.D',No.F,
No.F',No.G,No.H,P-1,P-2,P-3,C-4,C-4-2

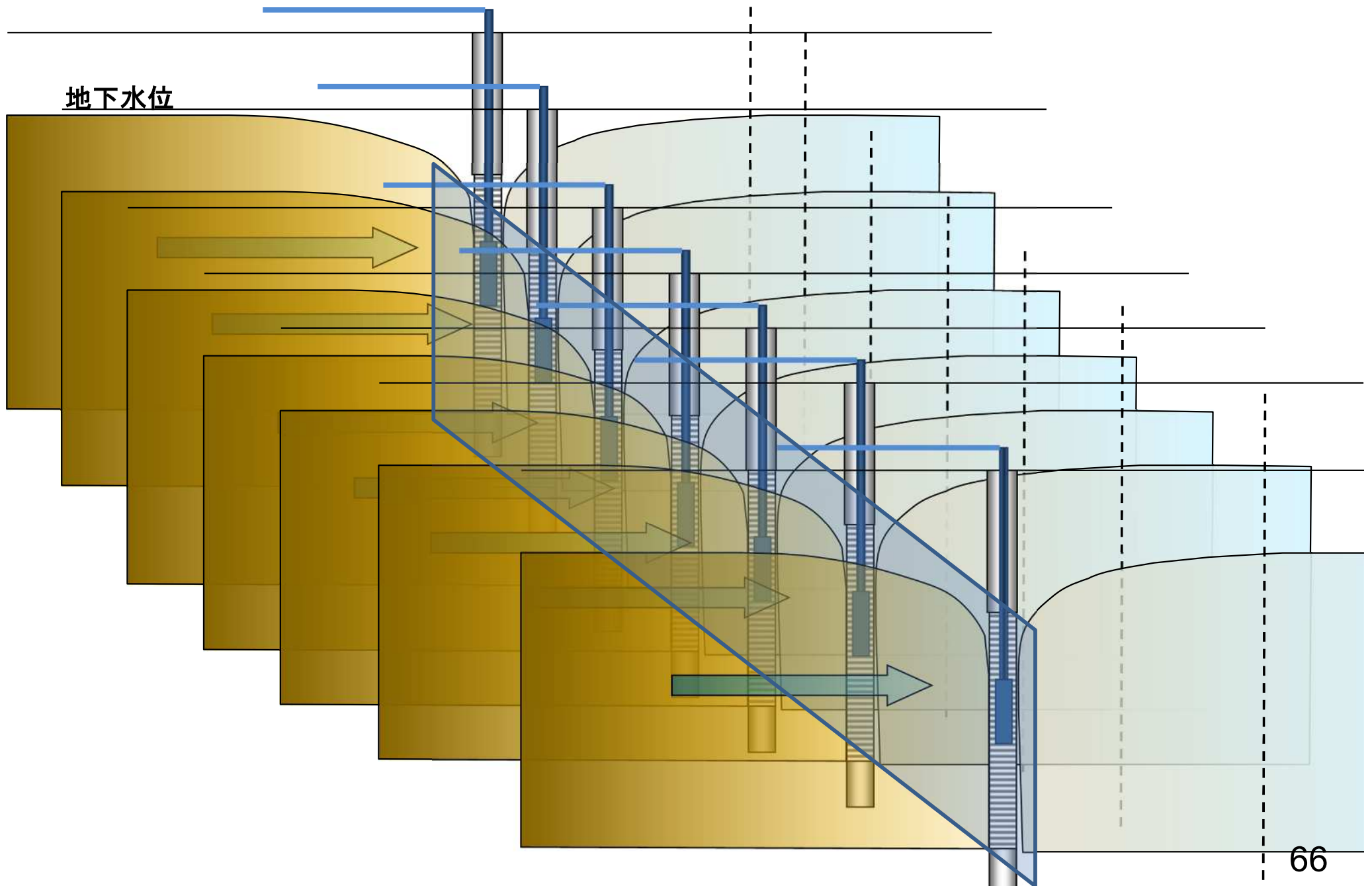
計20地点にて地下水のモニタリングを実施



バリア井戸とは



揚水井を連続的に配置



バリア井戸の設置の検討（2015年） 地下水流動のシミュレーションの結果を基に考察

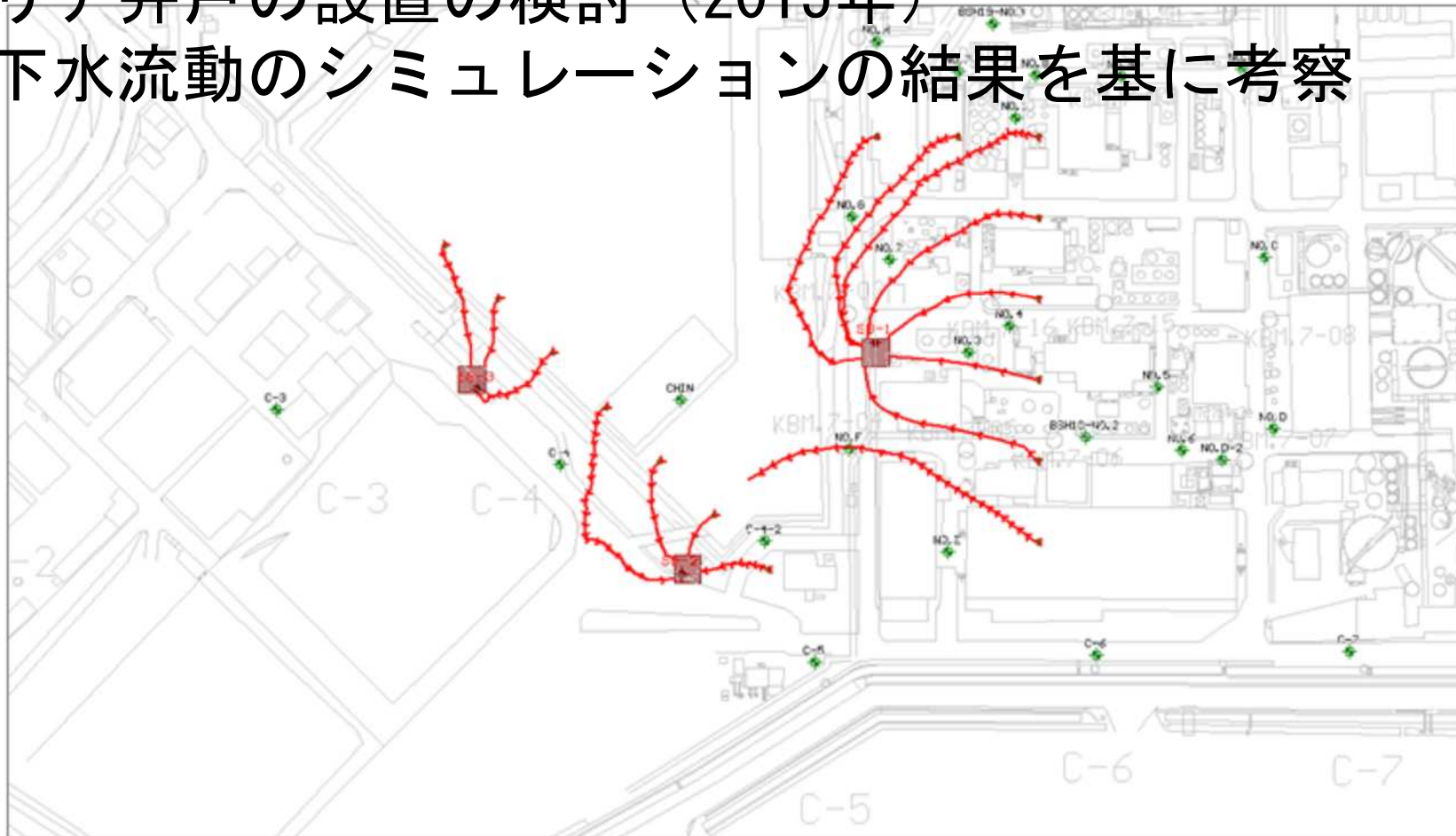


図-4-27 Case9 粒子追跡線の軌跡（上：全体図、下：拡大図）

井戸番号	揚水量(m ³ /d)								
	Case1	Case2	Case3	Case4	Case5	Case6	Case7	Case8	Case9
SB-1	60	40	60	60	60	60	60	55	50
SB-2	0	15	15	15	20	25	30	20	25
SB-3	0	10	10	15	20	25	30	25	25
合計	60	65	85	90	100	110	120	100	100

配置したすべての粒子が3地点のいずれかの揚水井戸に捕捉される

バリア井戸における揚水試験、 揚水の影響範囲

2-5. 揚水試験結果に基づく影響範囲の推定

揚水試験の結果に基づく、SB-2 地点、SB-3 地点、および SB-1 地点における、推定される地下水位低下影響圏を以下に記す。
(地下水の流動を考慮せず、円形にて作図)

SB-2 地点 (揚水量 : 64 m³/day)

- ・ SB-2 地点における水位降下量 : -45cm
- ・ -2cm の水位低下半径 : 約 75m
- ・ -1cm の水位低下半径 : 約 160m

SB-3 地点 (揚水量 : 58 m³/day)

- ・ SB-3 地点における水位降下量 : -16cm
- ・ -2cm の水位低下半径 : 約 65m
- ・ -1cm の水位低下半径 : 約 150m

参考

SB-1 地点 (揚水量 : 80 m³/day)

- ・ SB-1 地点における水位降下量 : -18cm
- ・ -2cm の水位低下半径 : 約 50m
- ・ -1cm の水位低下半径 : 約 100m

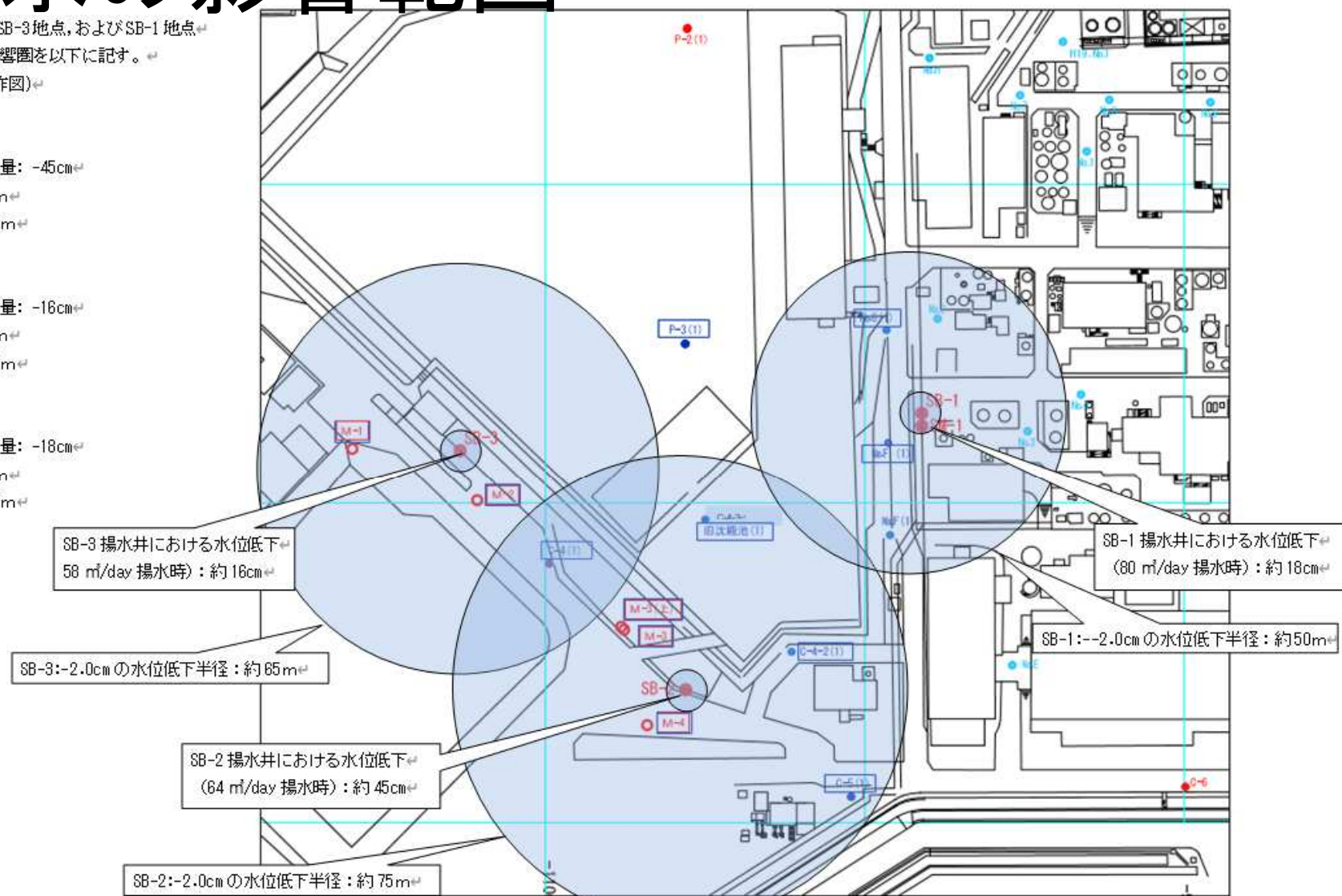


図-2-18 各地点における揚水時における推定地下水降下量等深度線図

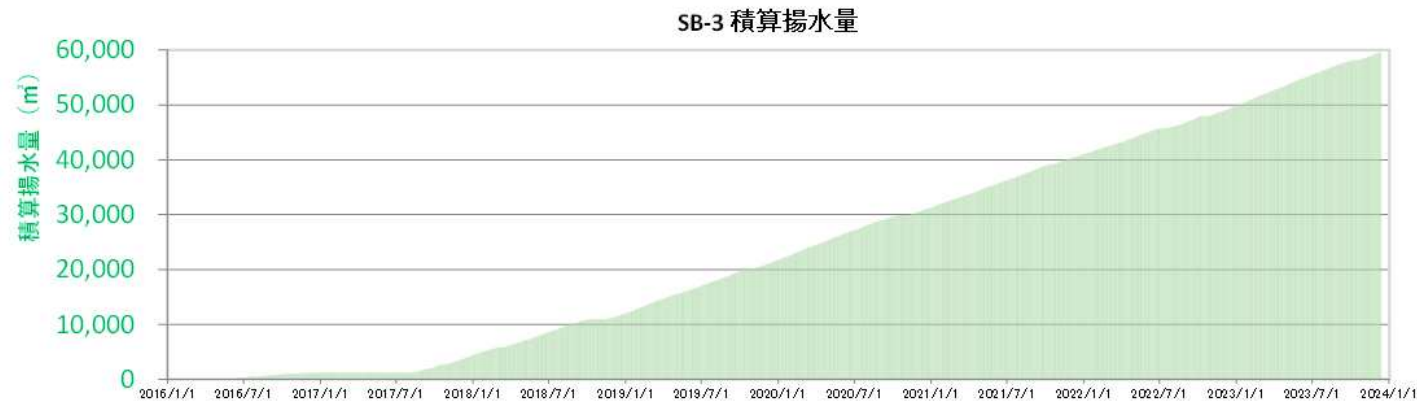
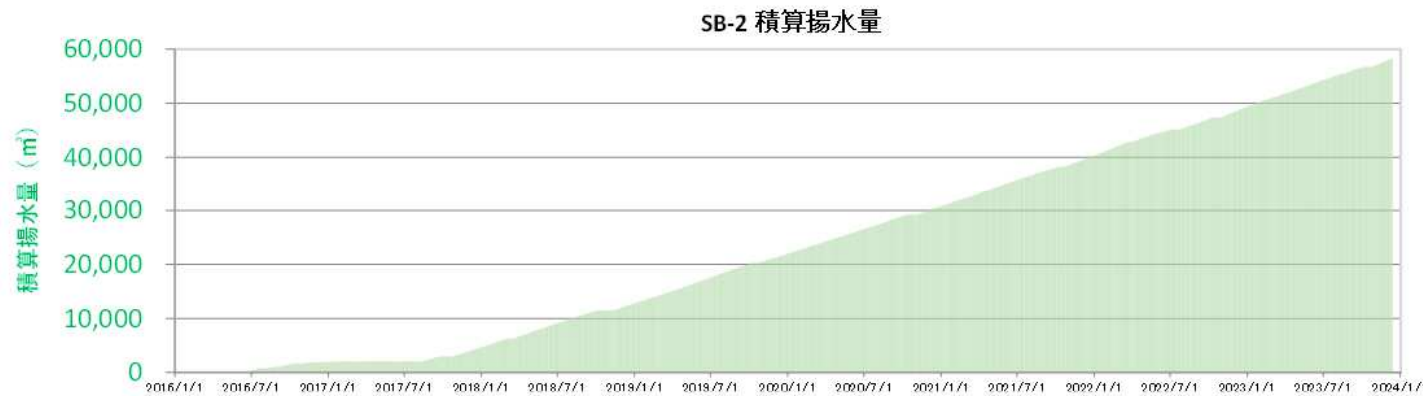
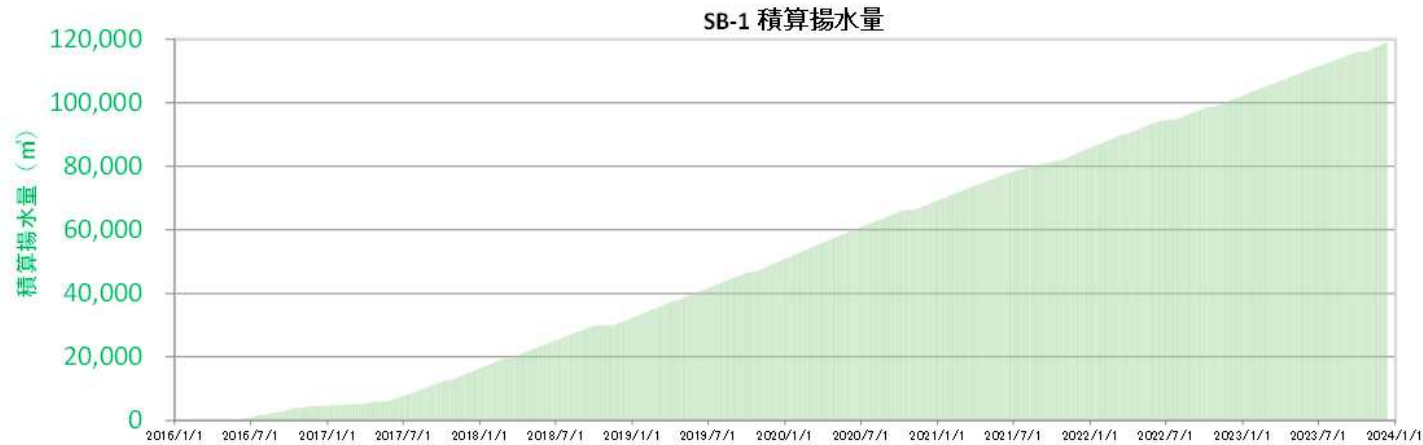
(SB-1 地点揚水量 : 80 m³/day, SB-2 地点揚水量 : 64 m³/day, SB-3 地点揚水量 : 58 m³/day)
(地下水の流動がないことを仮定して円形にて作図)

2. モニタリング項目

- 地下水位
SB-1,SB-2,SB-3(揚水井)の3地点にて実施
- 地下水水質
 - ジクロロメタン
 - 1,2-ジクロロエタン
 - テトラクロロエチレン
 - pH・電気伝導度・水温(テトラクロロエチレンについては、3ヶ月に一度の測定間隔)

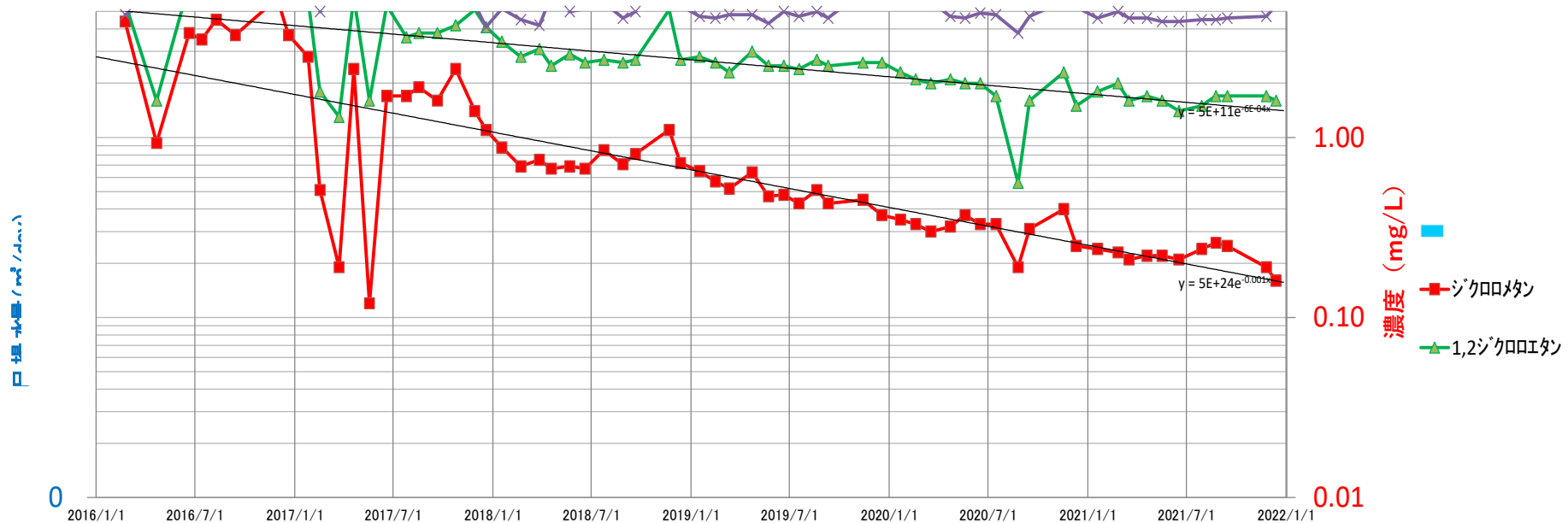
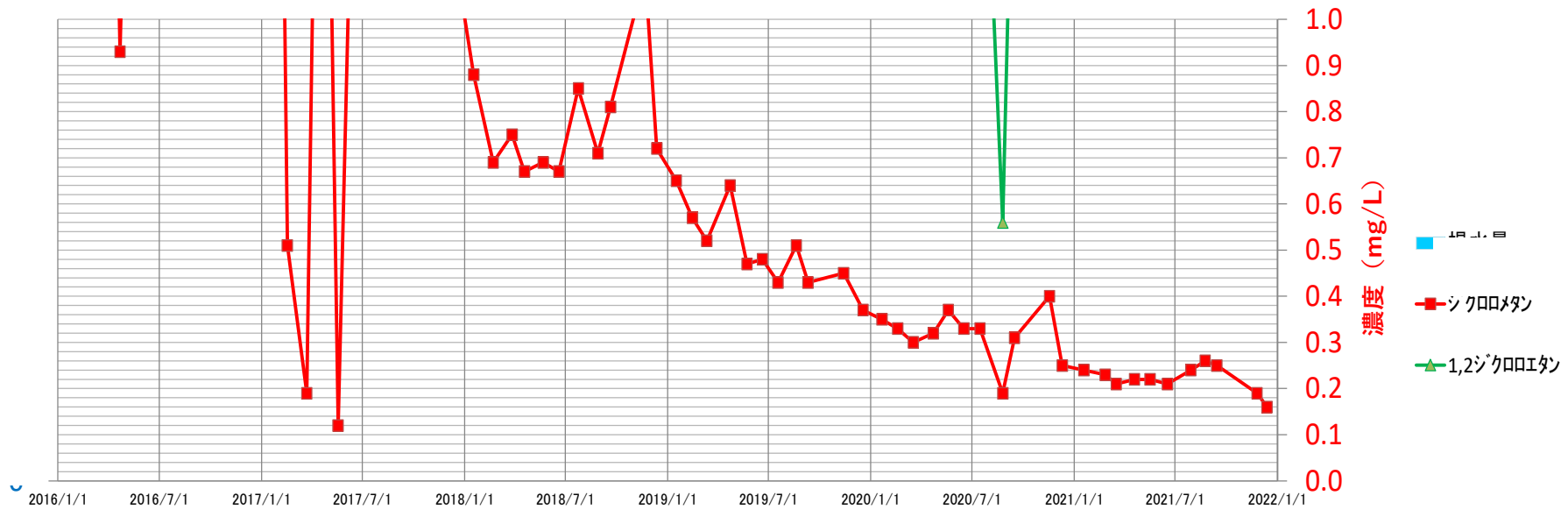
ジクロロメタン、1,2-ジクロロエタンに対して
回収量の計算

SB-1,SB-2,SB-3 積算揚水量



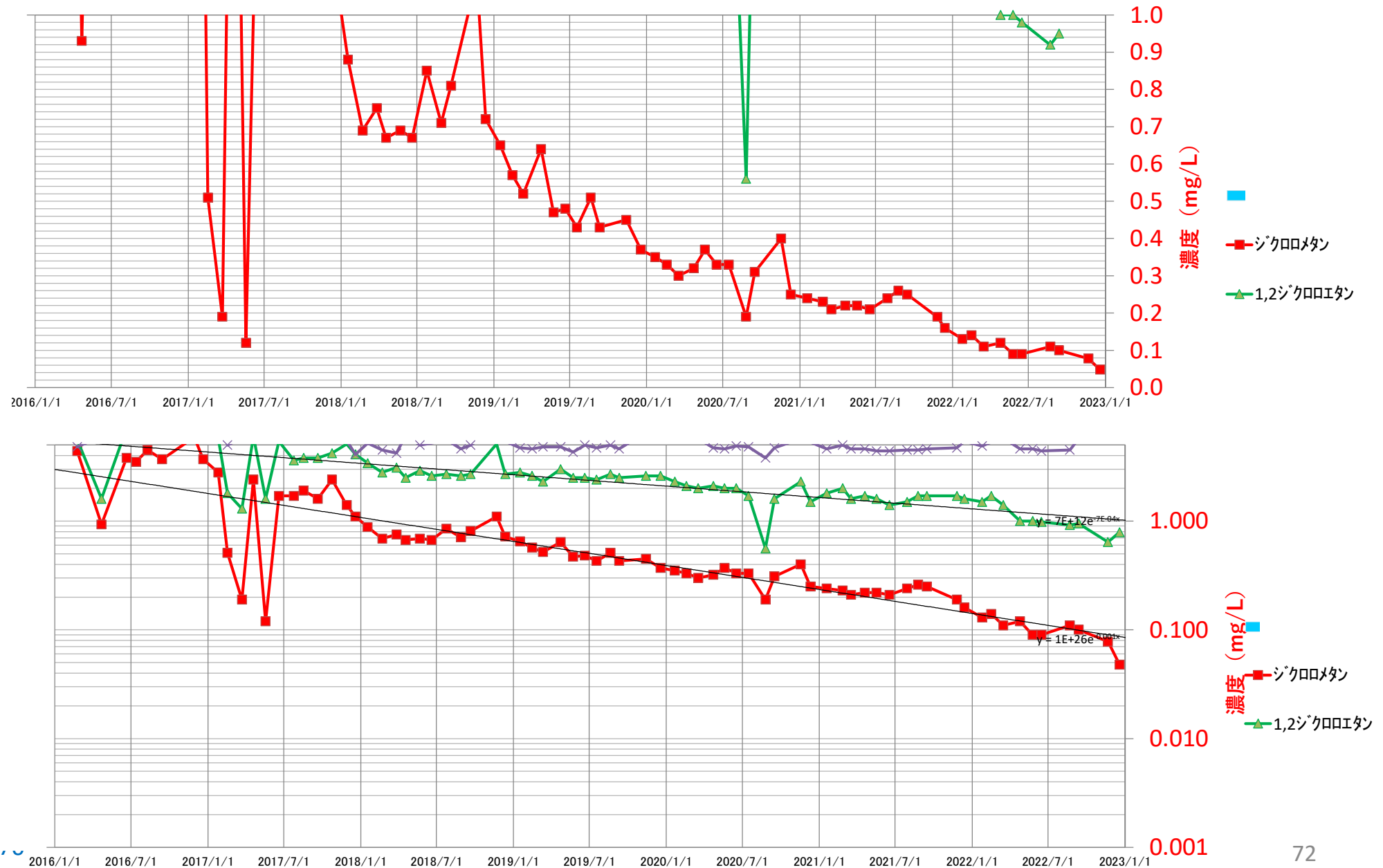
2022年. 3月 分科会 報告時

SB-1 濃度経時変化

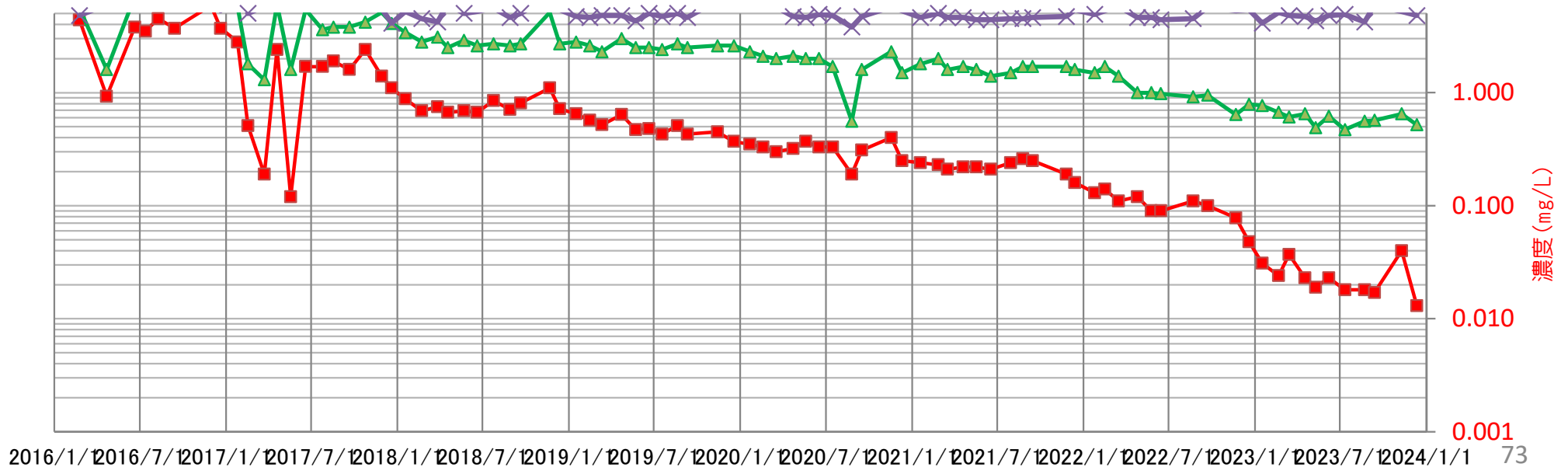
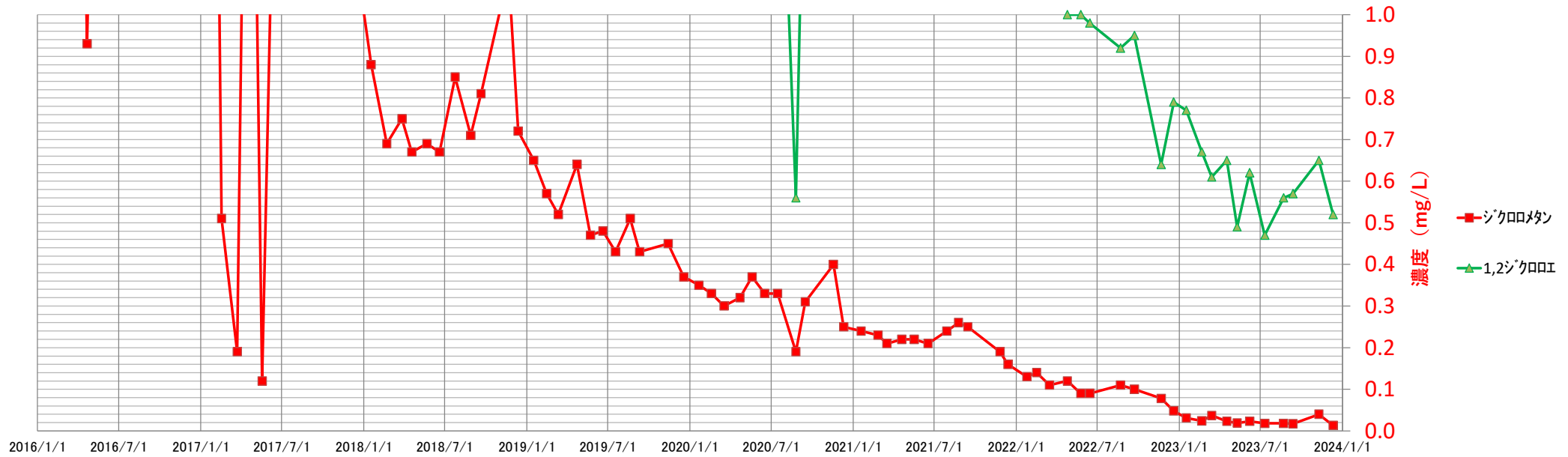


2023年. 3月 分科会 報告時

SB-1 濃度経時変化

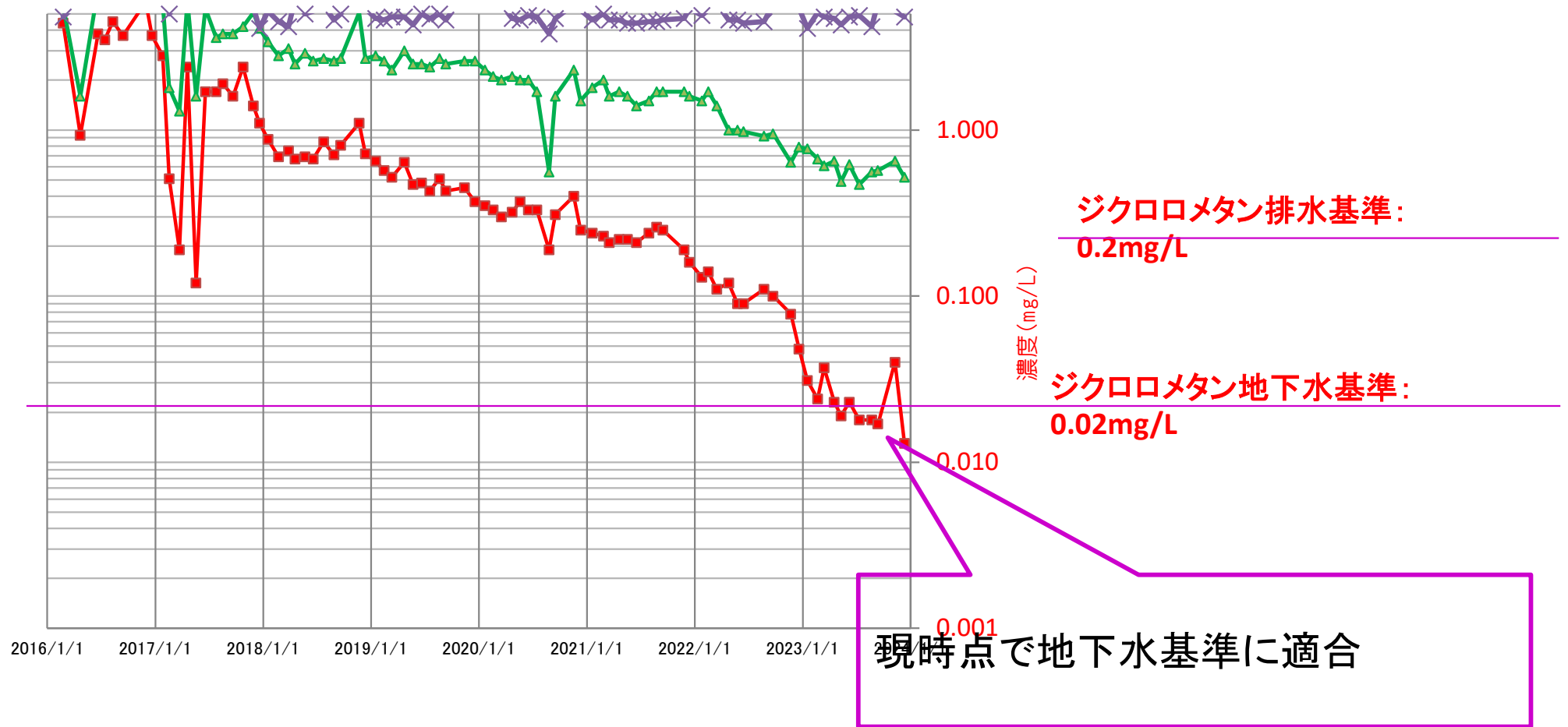


SB-1 濃度経時変化

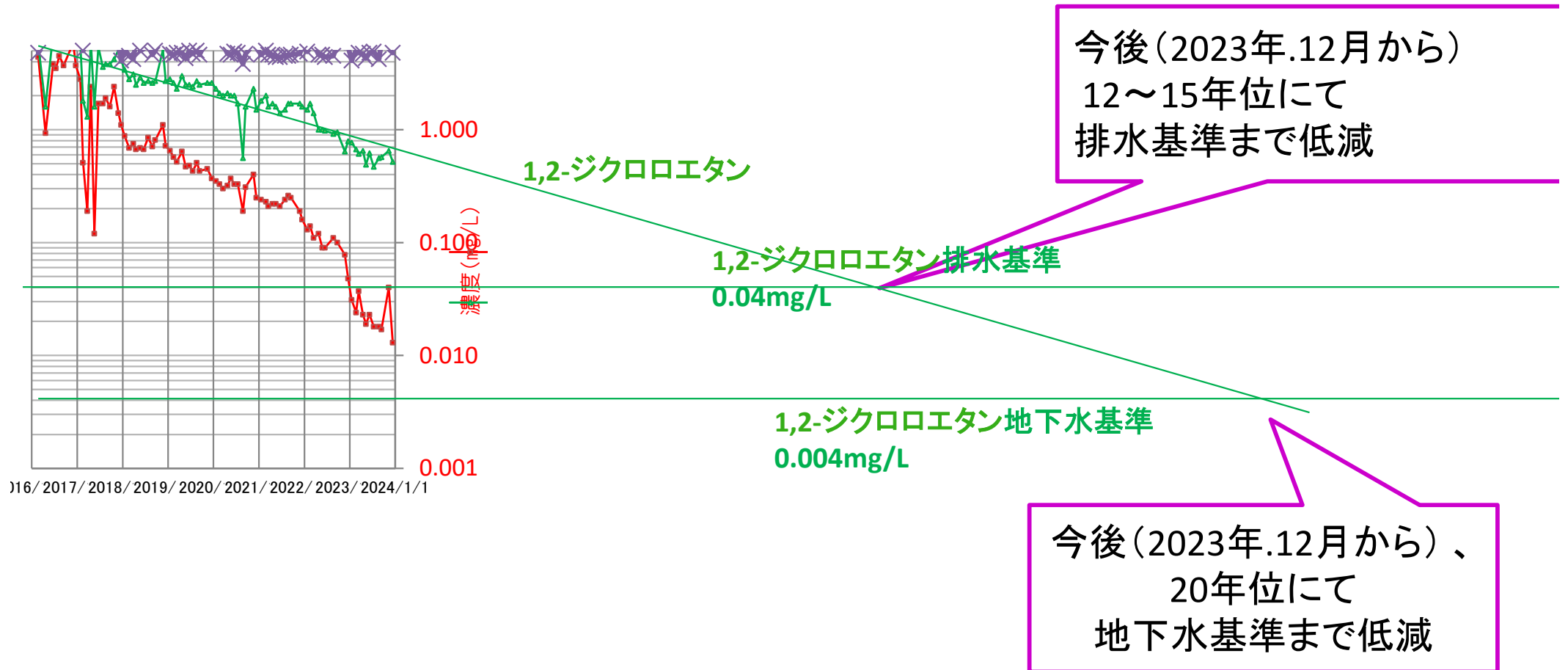


2024年. 3月 分科会 報告

SB-1 今後のジクロロメタン濃度の推定 (2023年.12月までの観測結果から)



SB-1 今後の1,2-ジクロロエタン濃度の推定 (2023年.12月までの観測結果から)



ジクロロメタン回収量

(2022年.12月までの観測結果まで)

ジクロロメタン回収量

		第1回～第83回計 H28. 6. 1 ～R5. 9. 12	第84回モニタリング 期間 R5. 9. 13 ～R5. 11. 9	第85回モニタリング 期間 R5. 11. 10 ～R5. 12. 11	—	第84回～第85回 モニタリング期間 R5. 9. 13 ～R5. 12. 11	計 H28. 6. 1 ～R5. 12. 11
SB-1	揚水量(m³)	114933	2136.0	1840.2		3976.2	118909
	代表とする濃度(mg/L) (※2)	0.62	0.040	0.013		0.028	0.60
	回収量(g)	71586	85.4	23.9		109.4	71695
SB-2	揚水量(m³)	56100	1092.0	1062.5		2154.5	58254
	代表とする濃度(mg/L) (※2)	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00
	回収量(g)	0.43	0.0	0.0		0.0	0.43
SB-3	揚水量(m³)	57558	1065.7	991.7		2057.4	59615
	代表とする濃度(mg/L) (※2)	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00
	回収量(g)	0.00	0.0	0.0		0.0	0.0
SB-1 ～SB-3 総計	揚水量(m³)	228590	4293.7	3894.4		8188.1	236778
	平均濃度(mg/L)	0.31	0.02	0.01		0.01	0.30
	回収量(g)	71586	85	24		109	71695

2023年(R5年) 12月までに
のべ約72kgのジクロロメタンを回収

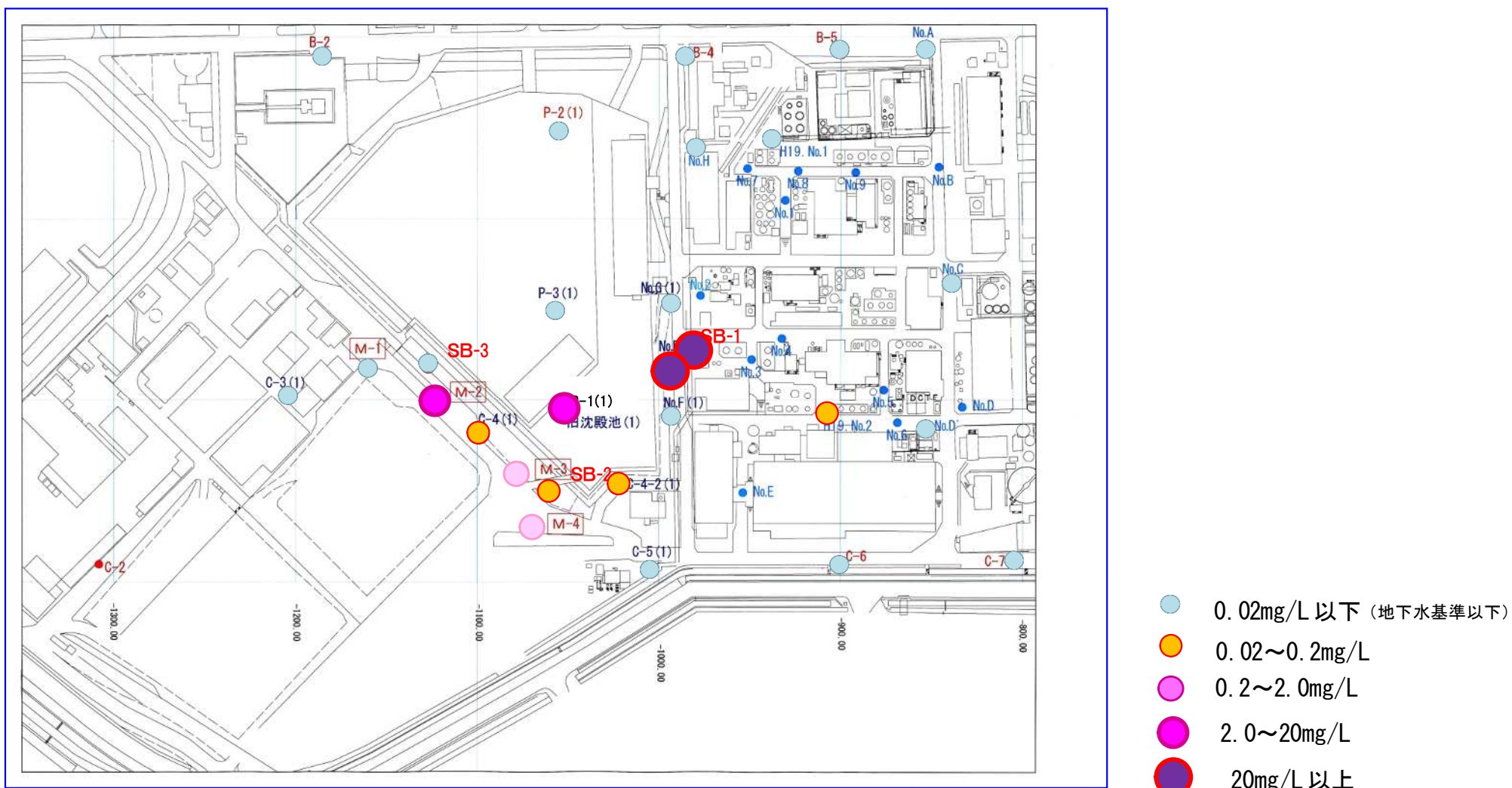
1,2-ジクロロエタン回収量

(2022年.12月までの観測結果まで)

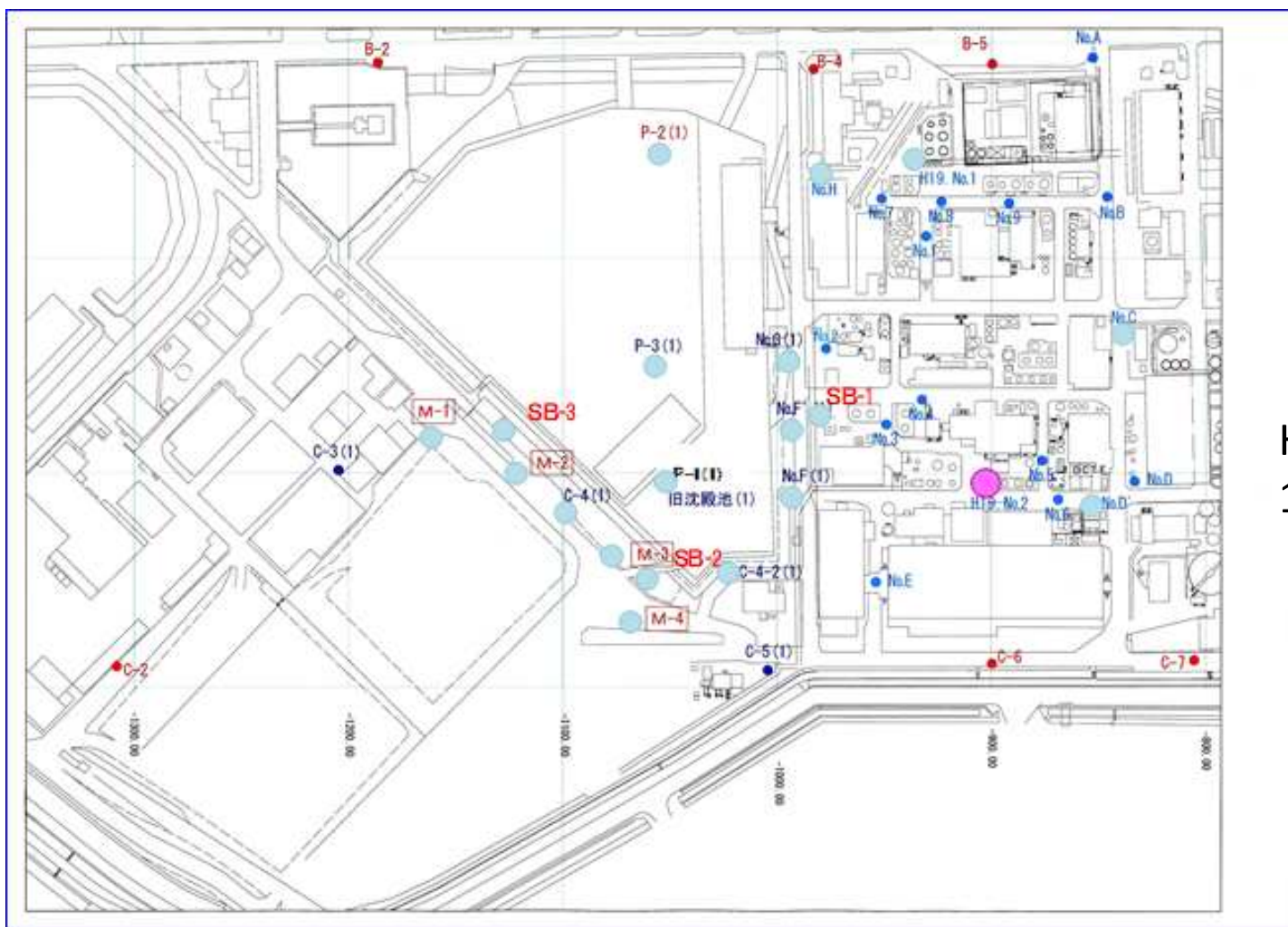
1,2-ジクロロエタン回収量

		第1回～第83回計 H28. 6. 1 ～R5. 9. 12	第84回モニタリング 期間 R5. 9. 13 ～R5. 11. 9	第85回モニタリング 期間 R5. 11. 10 ～R5. 12. 11	—	第84回～第85回 モニタリング期間 R5. 9. 13 ～R5. 12. 11	計 H28. 6. 1 ～R5. 12. 11
SB-1	揚水量(m³)	114933	2136.0	1840.2		3976.2	118909
	代表とする濃度(mg/L) (※2)	2.3	0.65	0.52		0.59	2.2
	回収量(g)	259375	1388.4	956.9		2345.3	261721
SB-2	揚水量(m³)	56100	1092.0	1062.5		2154.5	58254
	代表とする濃度(mg/L) (※2)	0.026	0.0042	0.0029		0.0036	0.025
	回収量(g)	1474	4.6	3.1		7.7	1482
SB-3	揚水量(m³)	57558	1065.7	991.7		2057.4	59615
	代表とする濃度(mg/L) (※2)	0.0022	0.0000	0.0000		0.0000	0.0022
	回収量(g)	129	0.0	0.0		0.0	129
SB-1 ～SB-3 総計	揚水量(m³)	228590	4293.7	3894.4		8188.1	236778
	平均濃度(mg/L)	1.1	0.32	0.25		0.29	1.1
	回収量(g)	260979	1393	960		2353	263332

2023年(R5年) 12月までに
のべ約263 kgの1,2-ジクロロエタンを回収



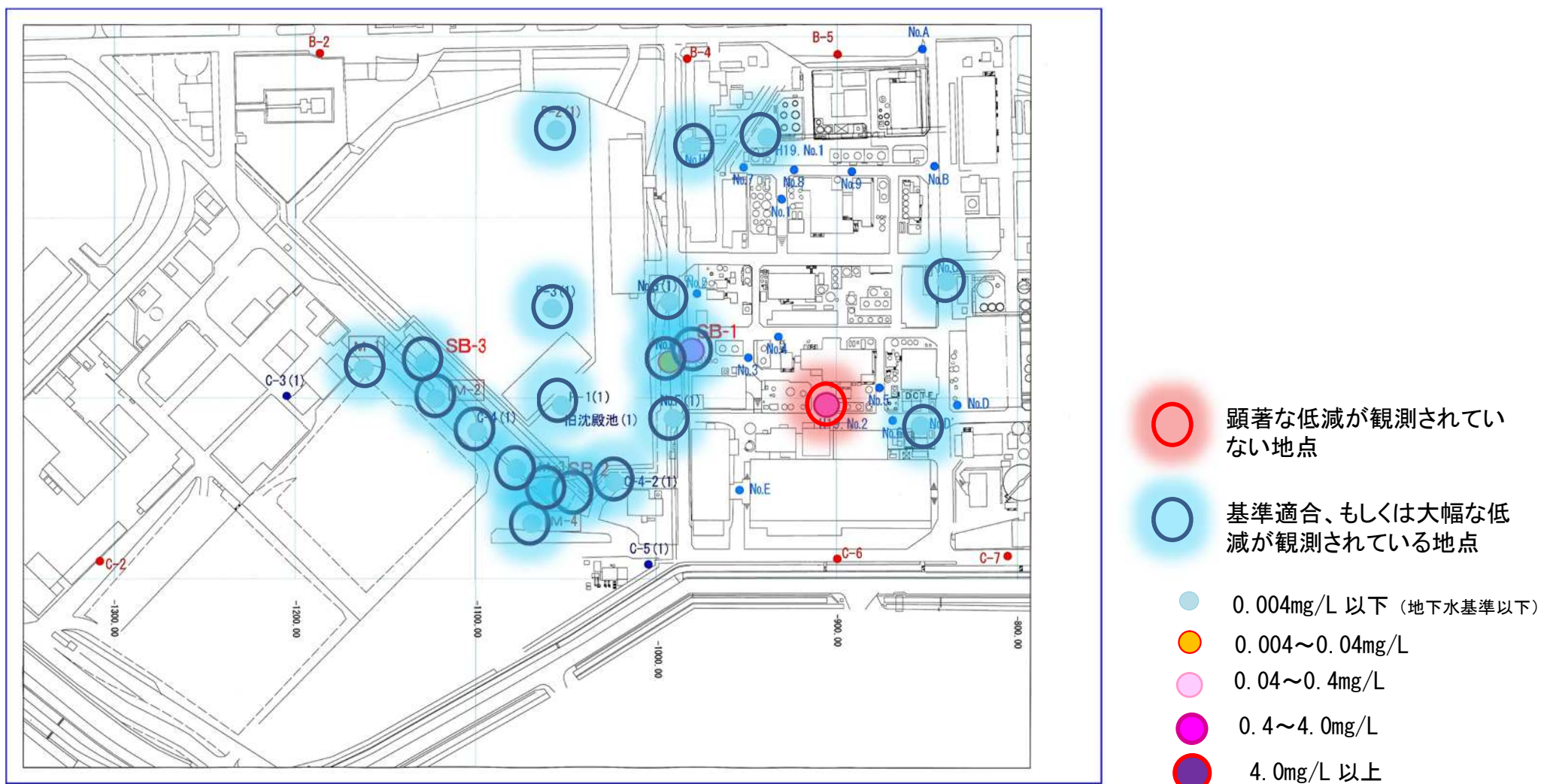
第1帯水層中のジクロロメタン濃度分布図
H25年3月まで

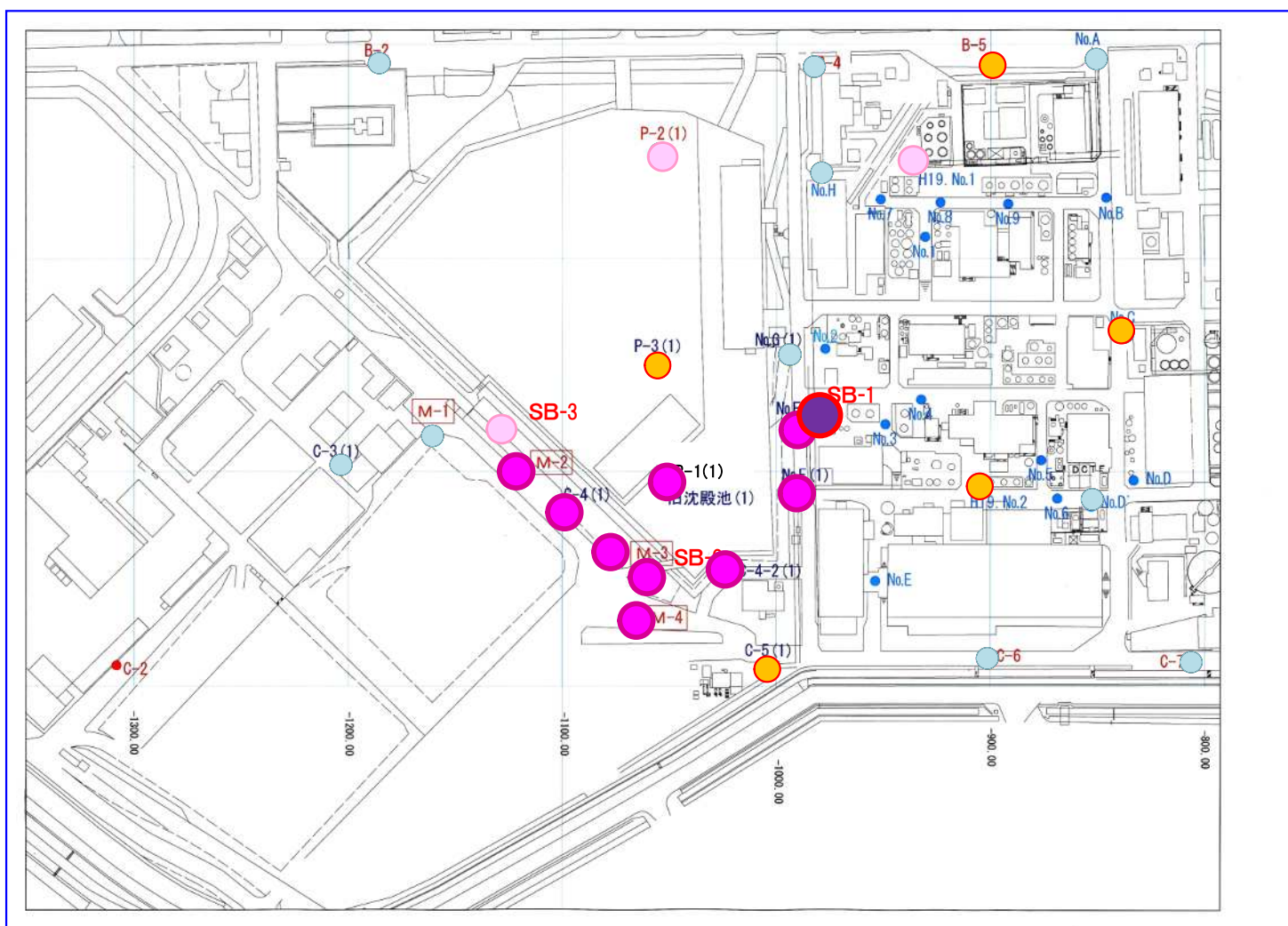


H19.No.2
1.6mg/L(基準の80倍)

- 0.02mg/L 以下 (地下水基準以下)
- 0.02~0.2mg/L
- 0.2~2.0mg/L
- 2.0~20mg/L
- 20mg/L 以上

第1帯水層中のジクロロメタン濃度分布図
R5年12月11日





第1帯水層中の1,2-ジクロロエタン濃度分布図
H25年3月まで

